

RasterLink Pro **5** SG

RasterLink Pro **5** TA

RasterLink Pro **5** IP

ソフトウェア RIP

ラスターリンクプロ 5

リファレンスガイド プリンタ共通編

プリンタに共通の RasterLinkPro5 の機能について説明しています。

マニュアルの種類と使い方

本装置には、次の説明書が付属しています。

インストールガイド

RasterLinkPro5 SG/RasterLinkPro5 IP/RasterLinkPro5 TA のインストール方法と RasterLinkPro5 の設定方法を説明します。

ネットワーク接続ガイド

RasterLinkPro5 へネットワーク接続するための設定方法を説明します。(マニュアル CD に PDF で保存されています)

リファレンスガイド

プリンタ共通編と各プリンタ編に分かれて機能および操作方法など、RasterLinkPro5 SG/RasterLinkPro5 IP/RasterLinkPro5 TA を使用していく上で必要な設定項目について説明しています。

お使いのプリンタに合わせたリファレンスガイドをお読みください。(マニュアル CD に PDF で保存されています)

ファームウェアアップデート取扱説明書

ミマキ製プリンタのファームウェアをアップデートするソフトウェアの使用方法について説明します。
(マニュアル CD に PDF で保存されています)

今読んでいる
取扱説明書で
す。

ご注意

- 本書の一部、または全部を無断で記載したり、複製することは固くお断りいたします。
- 本書の内容に関しまして、将来予告無しに変更することがあります。
- 本ソフトウェアの改良変更等により、仕様面において本書の記載事項とが一部異なる場合があります。ご了承ください。
- 本ソフトウェアを他のディスクにコピーしたり（バックアップを目的とする場合を除く）、実行する以外の目的でメモリにロードすることを固く禁じます。
- 株式会社ミマキエンジニアリングの保証規定に定めるものを除き、本製品の使用または使用不能から生ずるいかなる損害（逸失利益、間接損害、特別損害またはその他の金銭的損害を含み、これらに限定しない）に関して一切の責任を負わないものとします。また、株式会社ミマキエンジニアリングに損害の可能性について知らされていた場合も同様とします。一例として、本製品を使用するメディア（ワーク）等の損失、メディアを使用して作成された物によって生じた間接的な損失等の責任負担もしないものとします。

Adobe, Adobe ロゴ, Photoshop, Illustrator および PostScript は、アドビシステムズ社の商標です。

Apple, Macintosh, Power Macintosh, Mac OS, Mac OSX は、Apple Inc. の登録商標です。

Microsoft, Windows, Windows2000, WindowsXP, WindowsVista, Windows 7, Windows 8, Windows 8.1 は、Microsoft Corporation の米国ならびにその他の国での登録商標または商標です。

PC MACLAN は Miramar Systems, Inc. の米国における登録商標です。

使用されているすべての Corel の商標は、カナダ、アメリカ合衆国およびその他の国の

Corel Corporation およびその関連会社の商標または登録商標です。

その他、本書に記載されている会社名、および商品名は、各社の商標または登録商標です。

この取扱説明書について

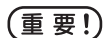
本書は“RasterLinkPro5”の取り扱いについて説明しています。


本文中の表記について


メニューに表示される項目は、“フルカラー”のように“”で囲っています。

ダイアログに表示されているボタンは、のようにで囲っています。

マークについて

 **重要!** 操作を行う上で、注意する点を説明しています。

 知っていると便利な事について説明しています。

 関連した内容の参照ページを示しています。

用語について

ジョブ： RasterLinkPro5 が取り扱う印刷ファイルのことを“ジョブ”と称します。
Adobe Illustrator などのアプリケーションソフトウェアから出力した各種フォーマットの入力データを RasterLinkPro5 にスプールすると RasterLinkPro5 に登録され、ジョブになります。

幅： RasterLinkPro5 の設定画面で表示する“幅”とは、プリンタのヘッドが動く方向（Y 方向）を指します。

送り： RasterLinkPro5 の設定画面で表示する“送り”とは、プリンタのメディアが動く方向（X 方向）を指します。

ダイアログについて

このマニュアルは RasterLinkPro5 SG を元に作成しています。ソフトウェアの名称やプリンタの名称は、ご使用の製品名に置き変えてご覧下さい。

目次

マニュアルの種類と使い方	2
ご注意	3
この取扱説明書について	4
本文中の表記について	4
マークについて	4
用語について	4
ダイアログについて	4
RasterLinkPro5 について	9
印刷方法の概要	12
プリンタドライバを使用して印刷	12
ホットフォルダを使用して印刷	13
ドラッグアンドドロップ機能を使用して印刷	13
プロファイルのインストール	14
プロファイルとは	14
プロファイルマネージャーの起動	14
デバイスプロファイル画面について	15
入力プロファイル画面について	17
デバイスプロファイルのインストール	18
入力プロファイルのインストール	20
ユーザーコメント	22
デバイスプロファイルのアンインストール	23
デバイスプロファイルのコンバート	25
入力プロファイルのアンインストール	28
プロファイルマネージャーの終了	30
プリンタ管理機能	31
プリンタ管理の起動	32
プリンタ管理画面	33
プリンタの追加	34
PC MACLAN の自動設定について	38
プリンタの設定変更	39
プリンタの削除	41
PC MACLAN の設定解除について	42

出力ポートの設定変更	42
USB 2.0 ポートの場合	43
IEEE1394 ポートの場合	44
ファイルの場合	46
RasterLinkPro5 の起動	47
RasterLinkPro5 の終了	49
作業フォルダの変更	50
ジョブの種類	52
フルカラー	52
RIP 分版	52
アプリ分版	52
マルチファンクション	52
MRL	53
メイン画面について	54
ジョブ一覧画面（フルカラー、RIP 分版、アプリ分版）	54
ジョブ一覧画面（マルチファンクション）	57
ジョブ一覧画面（MRL）	58
実行中ジョブ画面	60
ジョブ実行順の変更	62
印刷するまでの手順	64
スプールする	65
画像データのスプール方法について	65
RasterLinkPro5 の [開く] メニューから画像をスプールする場合	66
ドラッグアンドドロップにより画像をスプールする場合	68
ホットフォルダを使用して画像をスプールする場合	70
プリンタドライバを使用して画像をスプールする場合	72
ジョブの編集	75
ジョブの複製	76
ジョブのバックアップ・リストア	77
バックアップ	77
リストア	78
出力先プリンタの変更	81

出力する	82
フルカラーデータの出力.....	82
RIP&印刷.....	83
RIP 後印刷.....	84
RIP のみ.....	85
印刷のみ.....	86
MRL データの出力.....	87
マルチファンクションデータの出力.....	89
RIP &印刷後カット.....	90
RIP 後印刷後カット.....	91
印刷後カット.....	92
カットのみ.....	93
印刷回数を指定して印刷.....	94
RIP・出力処理を自動で実行する	95
RIP・出力処理を中断する	96
RIP・出力処理を一括中断する	97
カラーチャートを作成する	98
カラーチャートについて.....	98
カラーチャートの例.....	98
RGB または CMYK のカラーチャートを作成する.....	100
RGB/CMYK カラーチャートの活用方法.....	100
カラーチャートの作成条件を指定する.....	100
カラーチャートのジョブを作成する.....	104
RGB/CMYK カラーチャートの PDF ファイルを作成する.....	105
特色カラーチャートを作成する.....	106
特色カラーチャートの活用方法.....	106
特色カラーチャート用の条件セットを作成する.....	106
特色カラーチャートの作成条件を指定する.....	107
カラーチャートのジョブを作成する.....	111
印刷時に使用する色を「色置換セット」に追加する.....	111
スウォッチライブラリを作成する.....	113
作成したスウォッチライブラリをアプリケーションで開く.....	115
ジョブのプロパティ	116
オプション設定	117
[ジョブ制御] メニュー.....	117
[自動実行] メニュー.....	119
[パフォーマンス] メニュー.....	120
[表示] メニュー.....	121
[ホットフォルダ] メニュー.....	122
[ディスク] メニュー.....	124
[プリンタ] メニュー (JV5 シリーズ).....	125

エラーメッセージの対処方法	126
エラーメッセージ.....	126
RasterLinkPro5 インストール PC の セキュリティ設定の注意事項	139
インストール CD を PC に挿入しても、CD メニュー画面が表示されない.....	139
ライセンス認証 / プログラムアップデート / プロファイルアップデート 使用時.....	139
RasterLinkPro5 に画像が読み込めなくなった.....	140
RasterLinkPro5 の画面表示に不具合が発生した場合には	141
[回避策 1].....	141
[回避策 2].....	142
アプリケーションでの注意事項	145
Adobe Photoshop 5.x 以前について.....	145
プロファイルを組み込んだデータについて.....	145
Adobe Illustrator について.....	146
透明効果とドロップシャドウ.....	146
文字が作図できない.....	147
斜体になる.....	147
文字の周囲のオブジェクトの一部が作図しない.....	147
円や文字が多角形になる.....	147
透明効果を適用した文字などにジャギーが発生する.....	149
作図されない部分があったり、余分な線が作図される.....	150
グラデーションのトーンジャンプが目立つ、作図されない部分があったり余分な線が 印刷される.....	150
Illustrator CS、CS2、CS3 の場合 (EPS 保存時).....	151
配置画像が抜ける、作図終了後に “PC MACLAN ~” 文字列が印刷される.....	152
Illustrator10 で保存した EPS ファイルの画像周辺部が欠ける.....	153
アプリケーション上での画像サイズと、RasterLinkPro5 上での画像サイズが異なる.....	153
Mac OS X での注意事項	154
PDF 書類の印刷.....	154
Macintosh でホットフォルダを使用する際の注意事項	155
Macintosh でアプリケーションから印刷する場合のスプール速度改善方法	157
Mac OS 9 の場合.....	157
Mac OS X の場合.....	158
索引	160

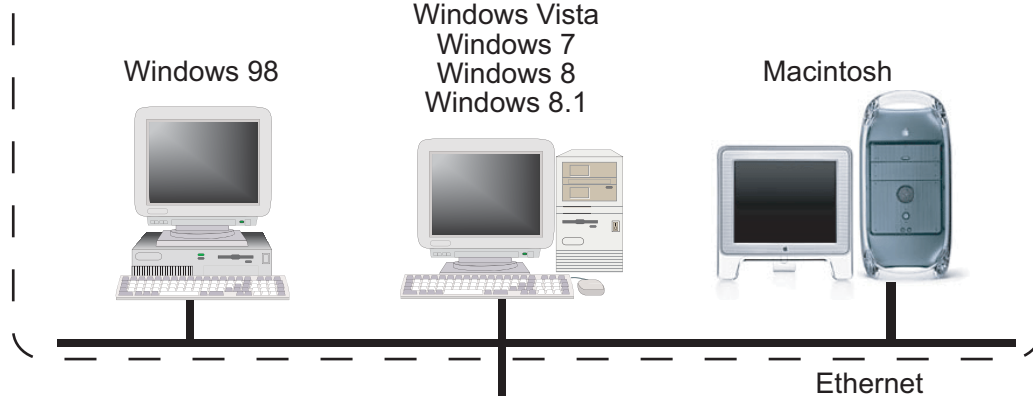
RasterLinkPro5 について

この度は、弊社製品をお買いあげいただきまして、誠にありがとうございます。

RasterLinkPro5 は、PostScript 3 フォーマットのデータを受け、ミマキエンジニアリング製インクジェットプリンタに作画データを供給するアプリケーションソフトウェアです。

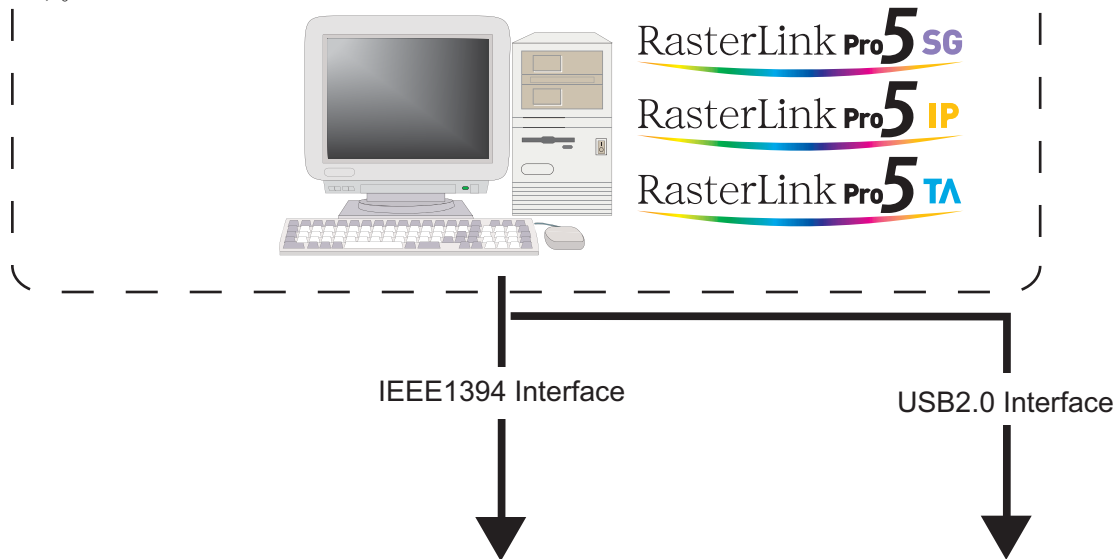
クライアント PC

RasterLinkPro5 がインストールされている PC に、画像データを送信する PC です。



RasterLinkPro5 PC

RasterLinkPro5 がインストールされている PC です。



Mimaki 製プリンタ



手軽に実現するプロファイル

細かい設定が不要で最適なプリント表現を可能にする、各種メディアの特性に合わせたプロファイルを搭載、最適なカラーマッチングを実現します。

微妙な出力表現にも対応するカラー調整機能

各インク色のトーンカーブ調整、コントラスト、CMY カラー調整など、詳細なカラー調整機能を搭載。様々なメディアに柔軟に対応します。

対象プリンタ

RasterLinkPro5 はミマキエンジニアリング製のインクジェットプリンタに対応します。

プリンタは同時に 4 台まで接続可能です。* 1

また、RasterLinkPro5 はプリンタの特徴に合わせさまざまな機能を持っています。印刷条件設定やジョブ編集などはプリンタによって、機能や操作設定が異なります。このため、リファレンスガイドはプリンタのタイプごとに分かれています。リファレンスガイドはマニュアル CD に PDF で保存されています。

入出力データ

入力データ

PostScript レベル 3 (PS ファイル)、EPS、MRL、TIFF、JPEG、BMP、

PDF (PDF1.5 以上は不可* 2)

MRL 以外のデータフォーマットは、自動判別

AI はサポートしていません。

TIFF データでのアルファチャンネルは使用できません。

アプリケーション

Adobe Illustrator 8, 9, 10, CS, CS2, CS3, CS4, CS5, CS6, CC

Adobe Photoshop 5, 6, 7, CS, CS2, CS3, CS4, CS5, CS6, CC

ポストスクリプトフォント

欧文 60 書体 標準

フォント追加は不可

スプール可能な最大イメージサイズ

幅方向 : 10871mm、送り方向 : 10871mm

RIP 処理可能な最大イメージサイズ

幅方向 : 50m、送り方向 : 50m

重要!

印刷データの作り方によっては、上記の画像サイズでも RIP することができない場合があります。この場合、データの作り方を変えるか、アプリケーションソフトウェアで分割印刷してください。

タイリング*³ 可能な最大イメージサイズ

- ・幅方向：50m、送り方向：50m
- ・幅方向のサイズが用紙幅を越えるデータは、タイリング機能を用いる必要があります。
- ・タイリング可能な画像サイズは、印刷解像度によって異なります。
- ・タイリング可能な最大イメージサイズは、入力データに依存します。データにより、最大イメージサイズの印刷が出来ない場合があります。

重要!

印刷解像度が 1440 x 1440 dpi の画像の場合、印刷可能な最大画像サイズは以下のようになります。

	幅方向	送り方向
4色モデル	2m	50m
6色モデル	1m	50m

処理可能な画像サイズ内であっても、プリンタの仕様により、幅方向の最大サイズが制限される場合があります。

また、特色インク（白インク等）を使用する場合も、解像度によって幅方向の最大サイズが制限される場合があります。

ご使用のプリンタの取扱説明書に記載されている「最大作図範囲」をご確認ください。

* 1 : IEEE1394 インターフェイスで複数台のプリンタに接続する場合は、プリンタ台数分の IEEE1394 インターフェイスカードが必要です。

* 2 : PDF バージョンと Acrobat のバージョンは以下の通りです。

PDF 1.3 ——— Acrobat 4

PDF 1.4 ——— Acrobat 5

PDF 1.5 ——— Acrobat 6

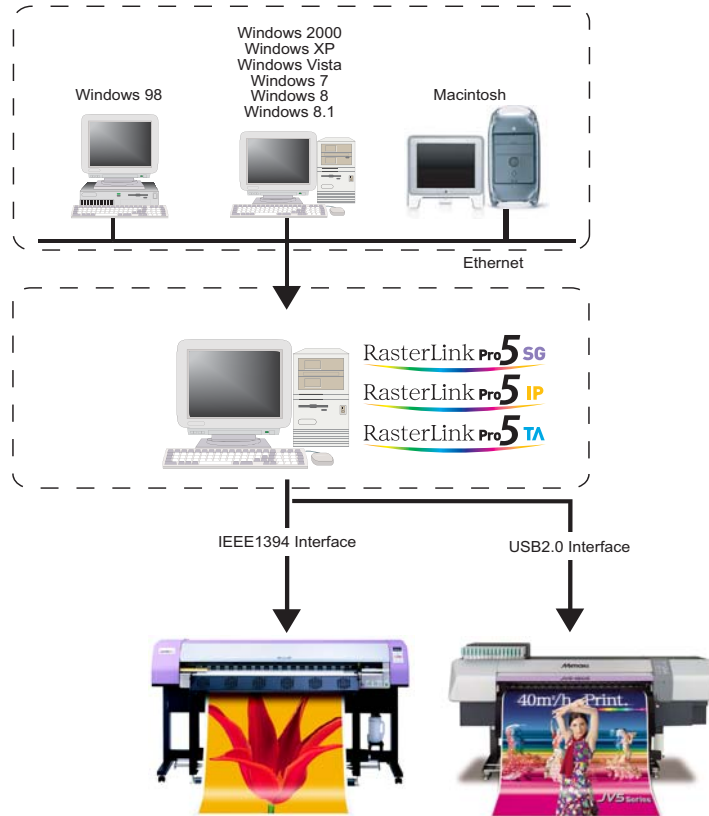
Illustrator で保存した PDF ファイルはサポートしていません。

* 3 : タイリング機能は対応していないプリンタがあります。

印刷方法の概要

RasterLinkPro5 における印刷方法の概要について説明します。

ジョブを印刷するためには、RasterLinkPro5 をインストールしてある PC から印刷を指示します。



プリンタドライバを使用して印刷

RasterLinkPro5 をインストールしてある PC からアプリケーションを使用して印刷する場合は、RasterLinkPro5 が自動的に作成したプリンタドライバを使用します。

RasterLinkPro5 をインストールした PC



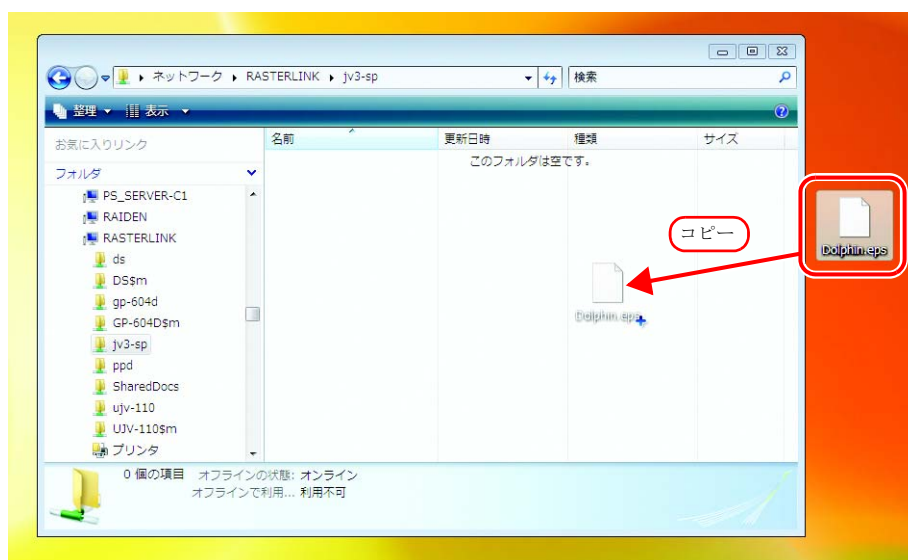
ホットフォルダを使用して印刷

RasterLinkPro5 はインストールしてある PC にホットフォルダを作成します。ホットフォルダは、RasterLinkPro5 のインストールフォルダの中にあります。

ホットフォルダはネットワーク共有されているので、他のネットワーク接続している PC からホットフォルダ接続が可能になります。

ネットワーク接続 PC からホットフォルダにジョブをドラッグすることにより、RasterLinkPro5 に容易にジョブを転送することができます。

ネットワーク接続 PC



ドラッグアンドドロップ機能を使用して印刷

RasterLinkPro5 の画面にジョブを直接ドラッグアンドドロップすることにより、容易にジョブを開くことができます。

重要!

RasterLinkPro5 PC の OS が Windows Vista/ Windows 7/ Windows 8/ Windows 8.1 の場合、管理者権限を持つユーザで RasterLinkPro5 を実行すると、ファイルのドラッグアンドドロップでジョブをスプールすることはできません。

プロファイルのインストール

プロファイルとは

入力画像の色、または印刷する色を定義したファイルをプロファイルといいます。
プロファイルには、入力プロファイルとデバイスプロファイルの2種類があります。

入力プロファイル RIP が画像の色情報を取得するために使用されます。

デバイスプロファイル 入力プロファイルで取得された色情報から、プリンタの能力を最大に生かした色再現を行うために使用されます。使用するメディア、印刷解像度などの印刷条件ごとに多数存在します。また色の情報だけでなくヒーター温度のような印刷環境に関する情報も持っています。

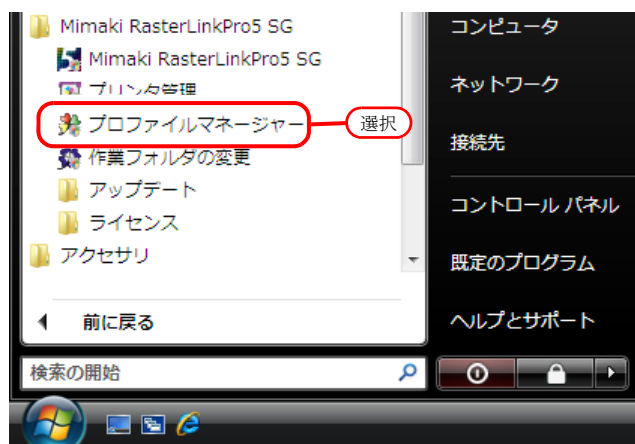
プロファイルマネージャーの起動

プロファイルマネージャーは、プロファイルのインストール、アンインストールを行うツールです。

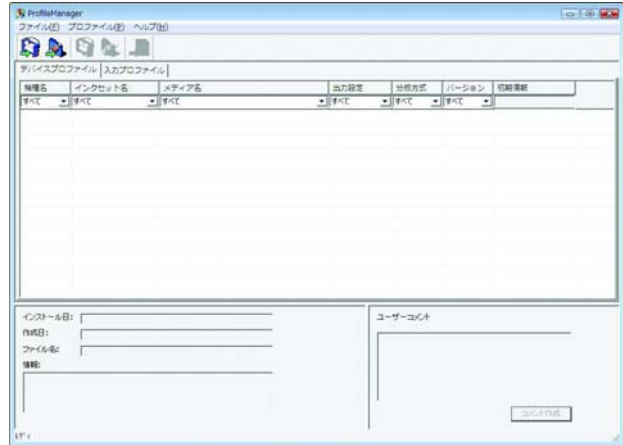
RasterLinkPro5 を起動するには、以下のプロファイルをそれぞれ最低1つずつインストールする必要があります。

- ・使用する機種種のデバイスプロファイル
- ・入力 RGB プロファイル
- ・入力 CMYK プロファイル

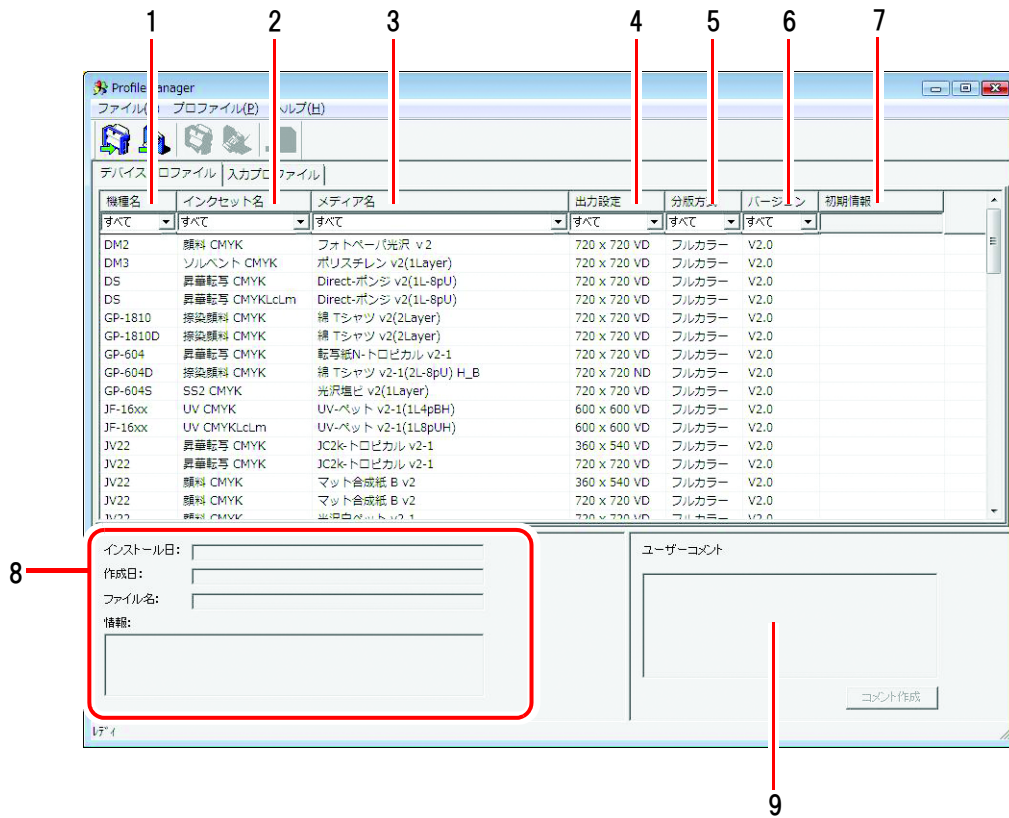
- 1 [プロファイルマネージャー] を選択します。
[スタート] - [すべてのプログラム] - [MimakiRasterLinkPro5] - [プロファイルマネージャー] メニュー



2 プロファイルマネージャーのメイン画面を表示します。



デバイスプロファイル画面について



1. 機種名

機種名を表示します。

カラーモデルが2種類以上ある機種で、プロファイルのバージョンが v3.0 の場合は、機種名 (カラーモデル名) を表示します。

2. インクセット名

インクセット名を表示します。

3. メディア名

メディア名を表示します。

4. 出力設定

出力設定（解像度、ドットタイプ）を表示します。

5. 分版方法

分版方法を表示します。フルカラーと版下があります。

6. バージョン

プロファイルのバージョンを表示します。

v1.0: ICC プロファイルに準拠したカラーマッチングが使用できます。

v2.0: ICC プロファイルに準拠したカラーマッチングが使用できます。

v3.x: ICC プロファイルに準拠したカラーマッチングが使用できます。

16bit カラーデータで作成されています。

7. 初期情報

v3 バージョンのプロファイルに追加された推奨のパス数および重ね塗り数が表示されます。

8. プロファイル情報

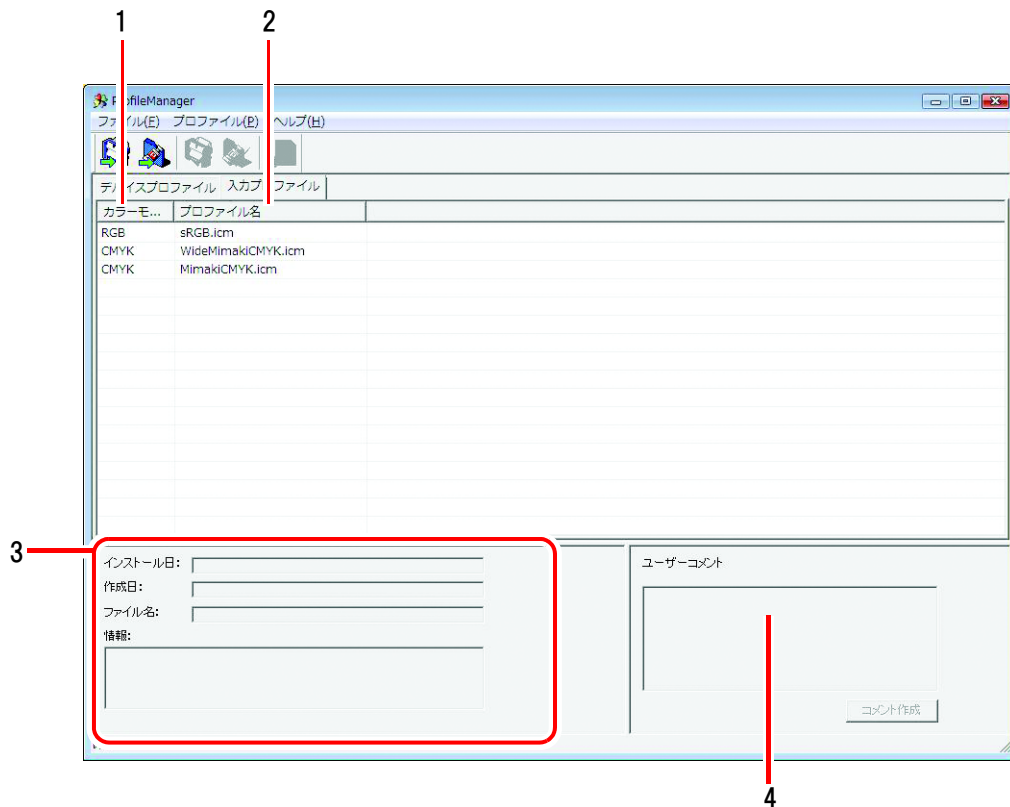
選択したプロファイルのインストール日時、作成日、プロファイル自身のファイル名、情報を表示します。

9. ユーザーコメント

プロファイルに対してコメントを書き込むことができます。

プロファイルを選択すると、ユーザーコメント欄に書き込んだコメントを表示します。

入カプロファイル画面について



1. カラーモード

入カプロファイルが対応するカラーモードを表示します。

2. プロファイル名

プロファイルのファイル名を表示します。

3. プロファイル情報

選択したプロファイルのインストール日時、作成日、プロファイル自身のファイル名、情報を表示します。

4. ユーザーコメント

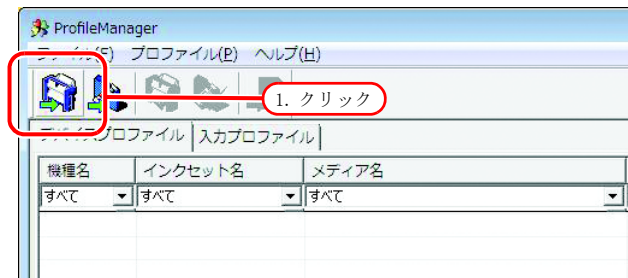
プロファイルに対してコメントを書き込むことができます。

プロファイルを選択すると、ユーザーコメント欄に書き込んだコメントを表示します。

デバイスプロファイルのインストール

- 1 [デバイスプロファイルのインストール] を選択します。
[プロファイル] - [デバイスプロファイルのインストール] メニューまたは図のボタンをクリックします。

“フォルダの参照” ダイアログを表示します。



- 2 インストールするデバイスプロファイルのフォルダを選択します。

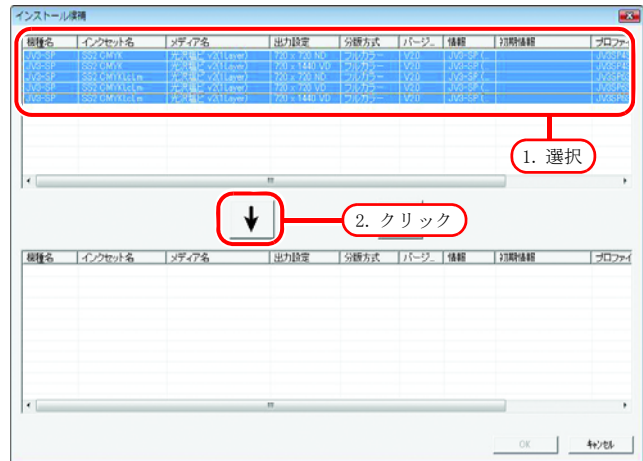
OK ボタンをクリックします。
“インストール候補” 選択ウィンドウを表示します。



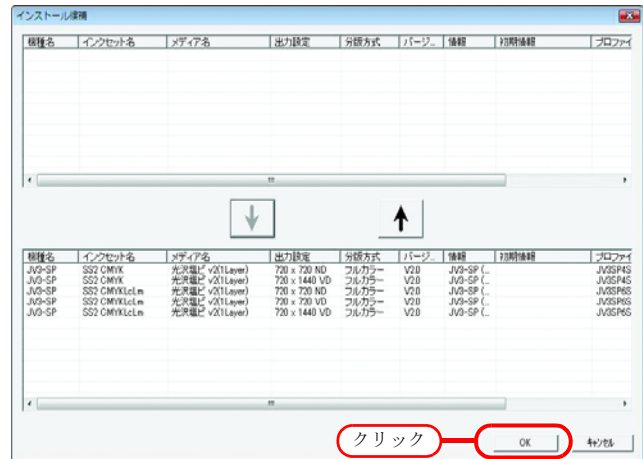
3 選択したフォルダ内のデバイスプロファイル一覧を上段に表示します。

インストールするプロファイルを選択します。

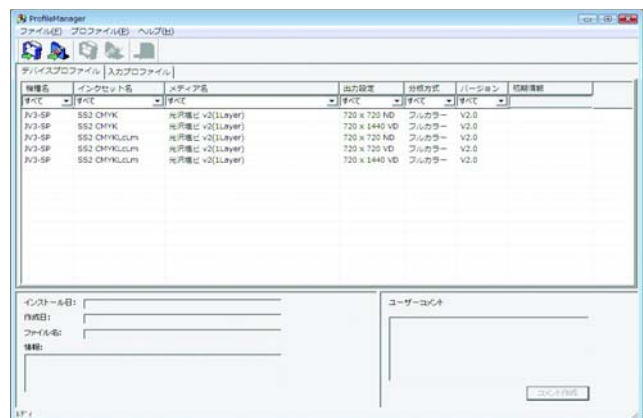
↓ ボタンをクリックします。
 選択したプロファイルが、下段に移動します。



4 ボタンをクリックします。
 選択したファイルをインストールします。



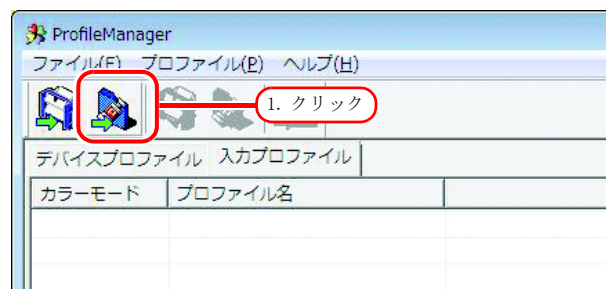
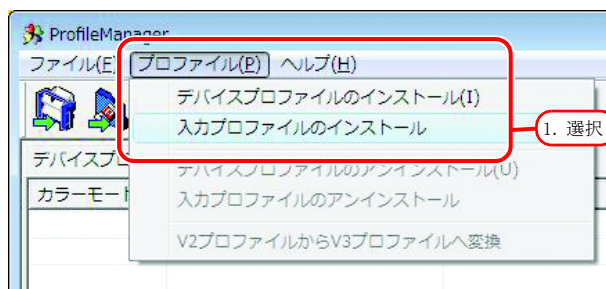
5 デバイスプロファイル画面にインストールしたデバイスプロファイルの一覧を表示します。



入力プロファイルのインストール

- 1 [入力プロファイルのインストール] を選択します。
[プロファイル]- [入力プロファイルのインストール] メニュー
または図のボタンをクリックします。

“フォルダの参照” ダイアログを表示します。



- 2 インストールする入力プロファイルのフォルダを選択します。

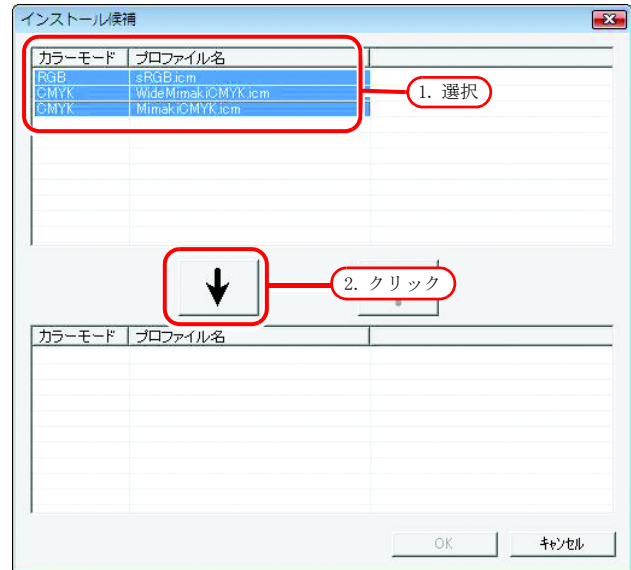
OK ボタンをクリックします。
“インストール候補” 選択ウィンドウを表示します。



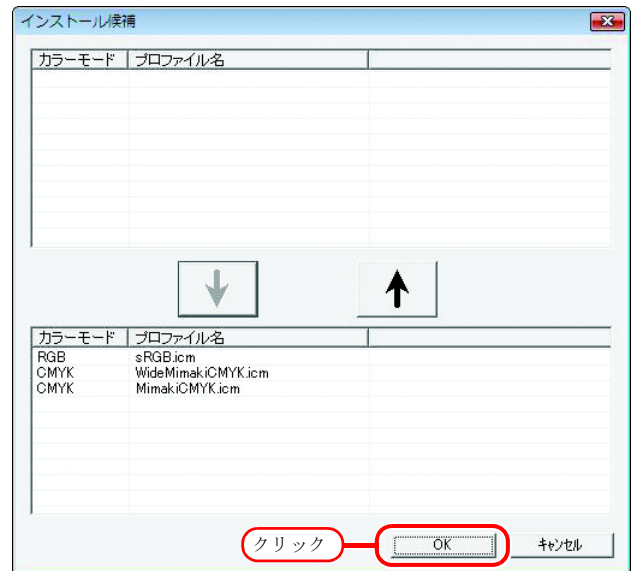
- 3 選択したフォルダ内の入力プロファイル一覧を上段に表示します。

インストールするプロファイルを選択します。

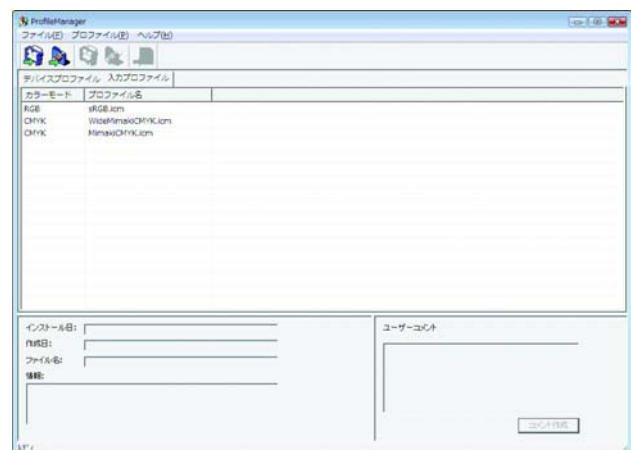
↓ ボタンをクリックします。
 選択したプロファイルが、下段に移動します。



- 4 ボタンをクリックします。
 選択したファイルをインストールします。



- 5 入力プロファイル画面に、インストールした入力プロファイルの一覧を表示します。



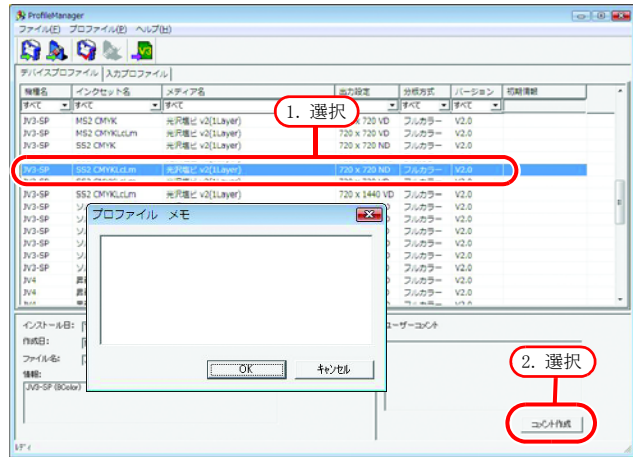
ユーザーコメント

プロファイルごとにコメントを付けることができます。
プロファイルの特徴などを記しておく便利です。

- 1 コメントを付けるプロファイルを1つ選択します。

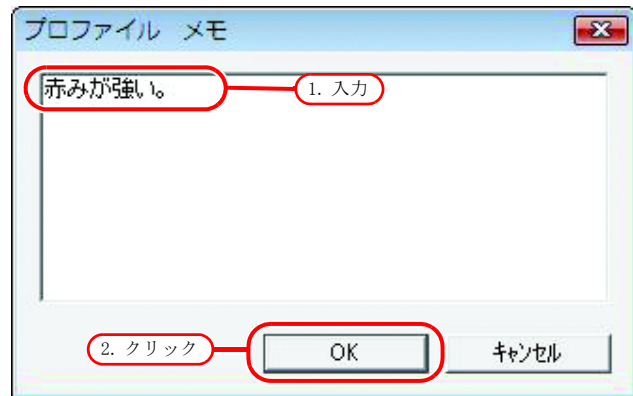
コメント作成 ボタンをクリックします。

“プロファイル メモ”ダイアログを表示します。

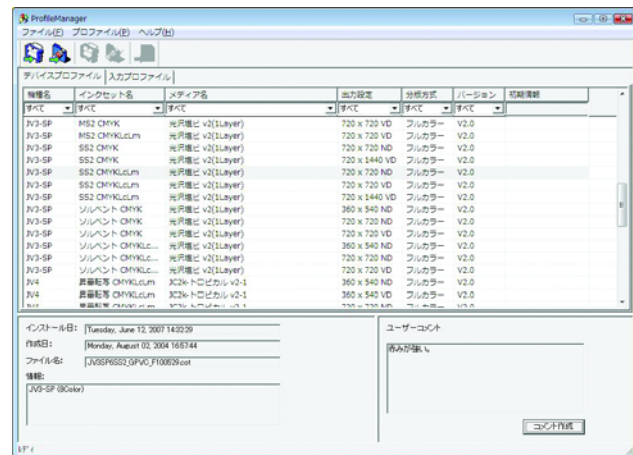


- 2 “プロファイル メモ”ダイアログにコメントを入力します。

OK ボタンをクリックします。



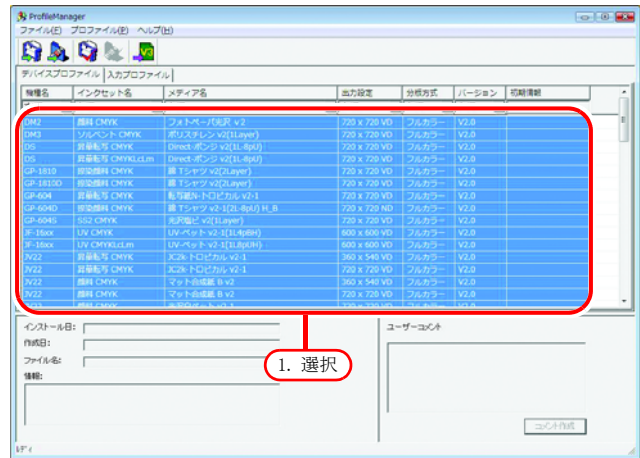
- 3 コメントを入力したプロファイルを選択すると、“ユーザーコメント”欄にコメントを表示します。



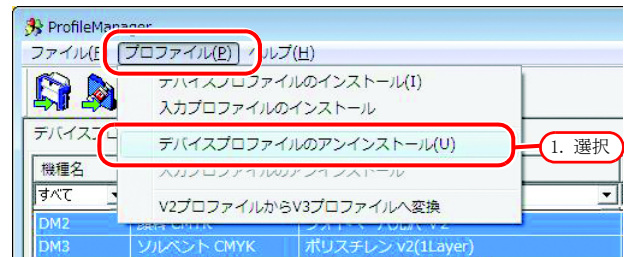
デバイスプロファイルのアンインストール

デバイスプロファイルのアンインストール方法を説明します。

- 1 デバイスプロファイル画面から、アンインストールするプロファイルを選択します。

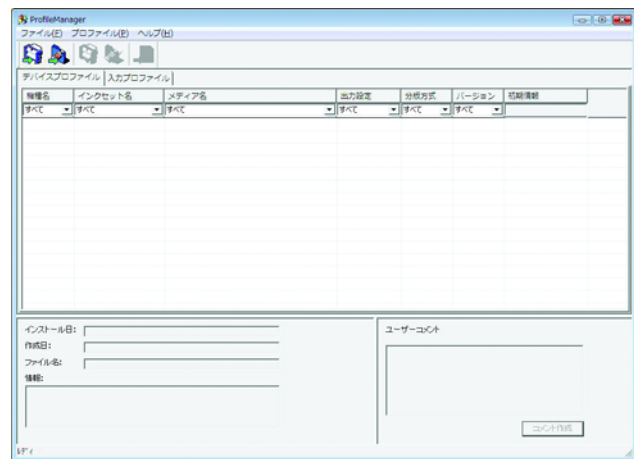
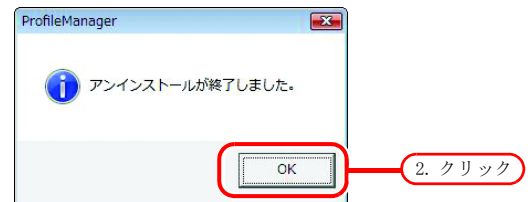
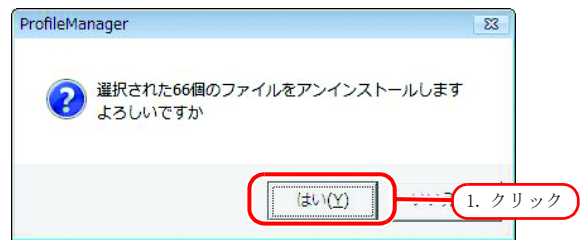


- 2 [デバイスプロファイルのアンインストール] を選択します。
[プロファイル]- [デバイスプロファイルのアンインストール] メニューまたは図のボタンをクリックします。



3 ダイアログを表示します。

ボタンをクリックすると、プロファイルをアンインストールします。



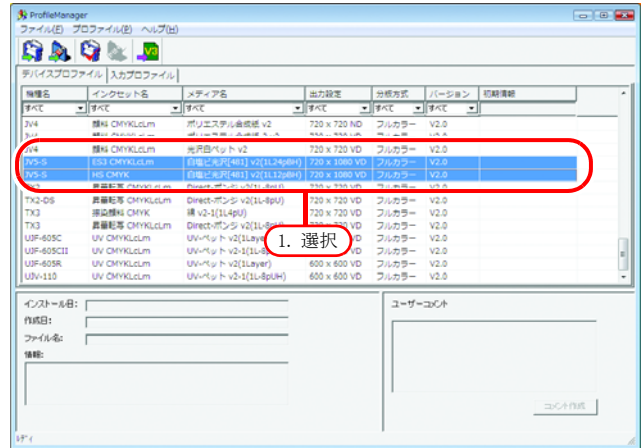
デバイスプロファイルのコンバート

V2.0 のデバイスプロファイルを、V3.0 のデバイスプロファイルにコンバートします。

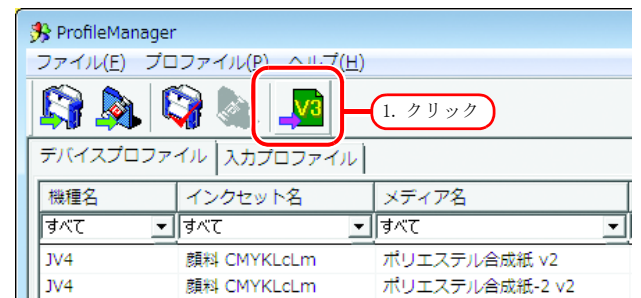
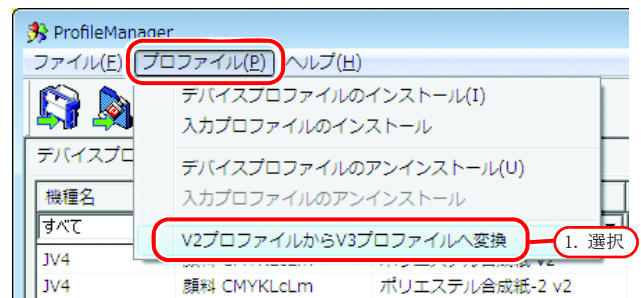
重要!

- 印刷条件でV2.0のデバイスプロファイルからV3.0のデバイスプロファイルにコンバートしたプロファイルを選択した場合、カラーマッチング画面でグレーバランスを選択することはできません。

1 デバイスプロファイル画面から、コンバートするプロファイルを選択します。



2 [V2プロファイルからV3プロファイルへ変換]を選択します。
 [プロファイル]-[V2プロファイルからV3プロファイルへ変換]メニューまたは図のボタンをクリックします。

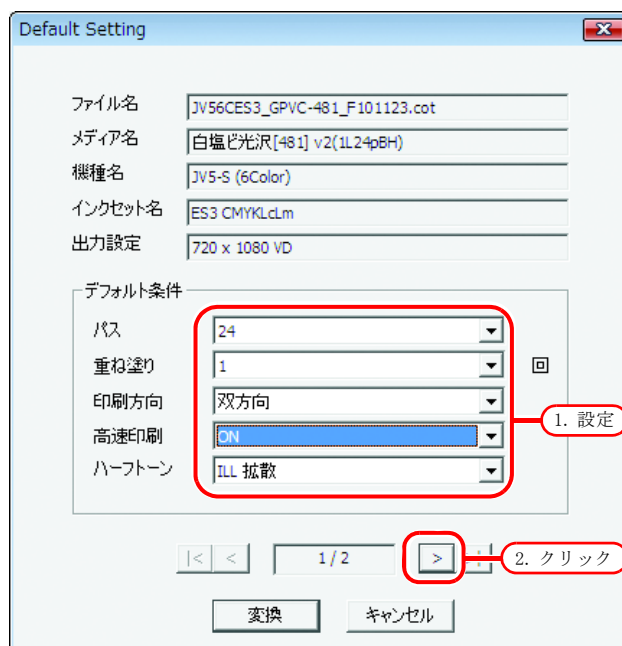


3 デフォルト印刷条件を設定します。 パス、重ね塗り、印刷方向、高速印刷、ハーフトーンのデフォルト条件を設定します。

> をクリックして、次のプロファイルのデフォルト条件を設定します。
全てのプロファイルのデフォルト条件を設定します。

重要!

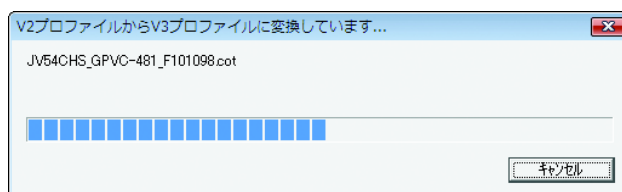
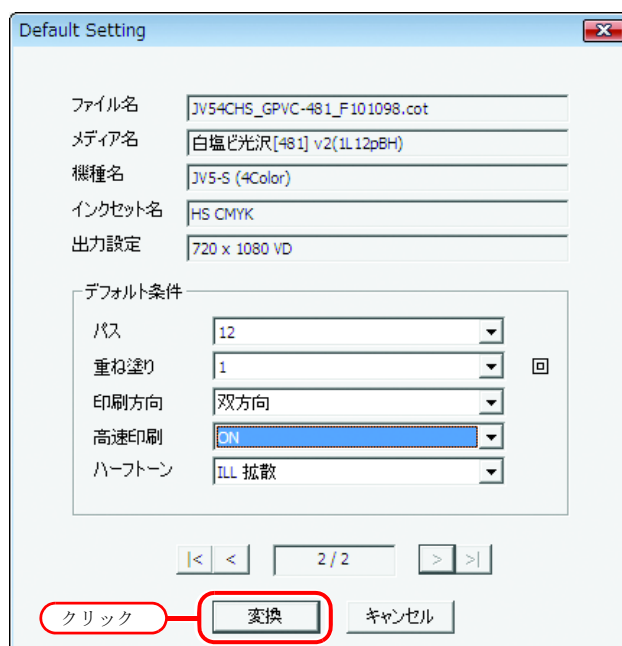
- メディア名からデフォルト条件が判断できる場合、その条件を設定してください。
- デフォルトの条件を設定しない場合、以下の値がデフォルト条件に適用されます。
 - パス： 最低パス
 - 重ね塗り： 1 回
 - 印刷方向： 単方向
 - 高速印刷： OFF
 - ハーフトーン： ILL 拡散



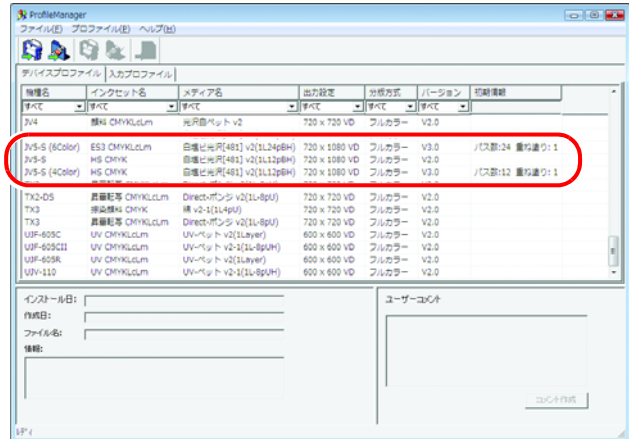
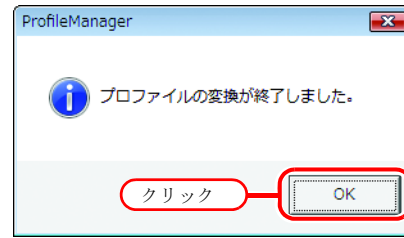
4 **変換** ボタンをクリックします。 プロファイルをコンバートします。

重要!

変換した V3 のデバイスプロファイルを使用する場合、変換前の V2 デバイスプロファイルで使用していた「カラー調整セット」「色置換セット」は使用できません。カラー調整、色置換機能を使用する場合、新規に調整ファイルを作成する必要があります。



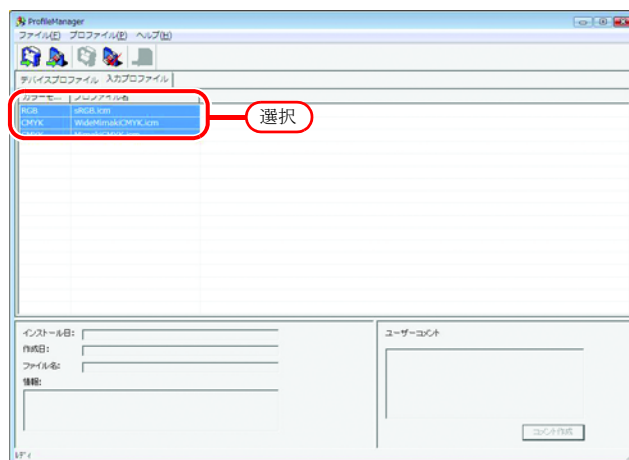
- 5 ダイアログを表示します。
 ボタンをクリックします。



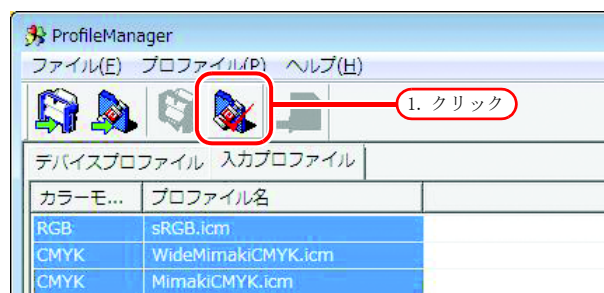
入力プロファイルのアンインストール

入力プロファイルのアンインストール方法を説明します。

- 1 入力プロファイル画面から、アンインストールするプロファイルを選択します。

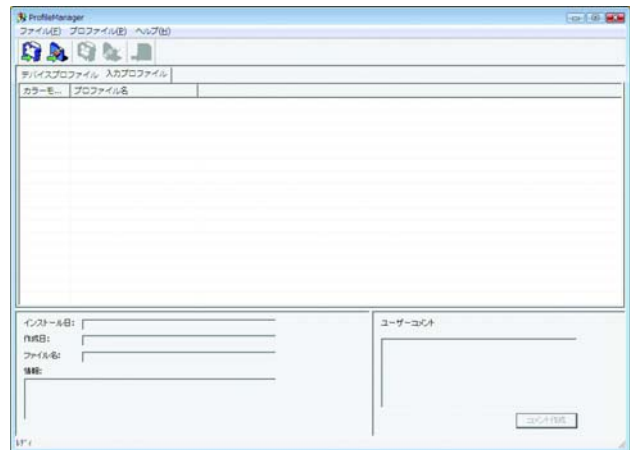
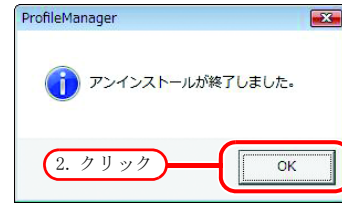
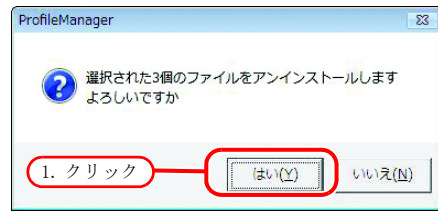


- 2 [入力プロファイルのアンインストール] を選択します。
[プロファイル] - [入力プロファイルのアンインストール] メニューまたは図のボタンをクリックします。



3 ダイアログを表示します。

ボタンをクリックすると、
プロファイルをアンインストールし
ます。



プロフィールマネージャーの終了

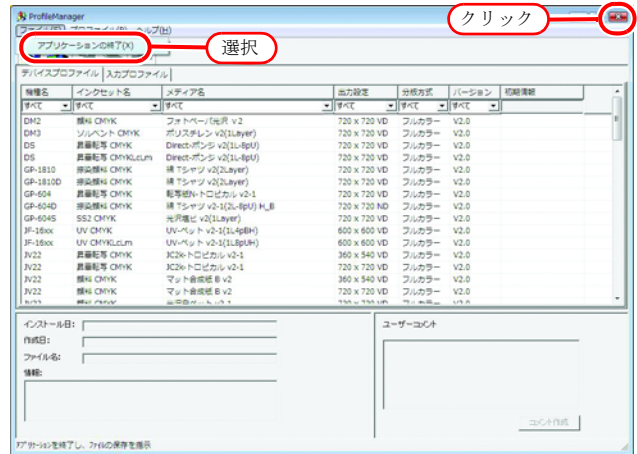
デバイスプロファイル、RGB プロファイル、CMYK プロファイルをそれぞれ一つ以上インストールできたらプロフィールマネージャーを終了します。

クローズボックスをクリックします。
または [ファイル] - [アプリケーションの終了] メニューを選択します



JV4 をご使用の場合、以下のデバイスプロファイルの分版方式をそれぞれ一つ以上インストールする必要があります。

- フルカラー
- 版下



プリンタ管理機能

RasterLinkPro5 で使用するプリンタの追加、設定変更、削除を行います。
プリンタ管理の機能は以下の通りです。

●プリンタの追加

新規にプリンタを追加します。(☞ P.34)

RasterLinkPro5 のインストール直後はプリンタが登録されていません。プリンタの追加で使用するプリンタを登録します。

RasterLinkPro5 がサポートしているミマキエンジニアリング製プリンタを、4 台まで登録できます。プリンタを登録すると、自動的にデフォルトのホットフォルダとプリンタドライバが作成されます。

●プリンタの設定変更

追加したプリンタの設定を変更します。出力ポートとカラーモデルを変更できます。(☞ P.39)

●プリンタの削除

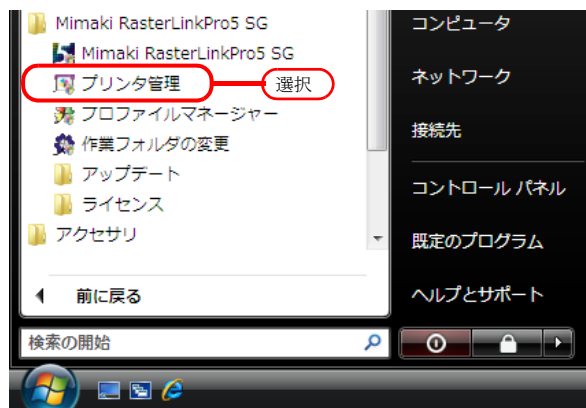
追加したプリンタを削除します。プリンタを削除すると、削除したプリンタ用のジョブ、条件セット、ホットフォルダ、プリンタドライバが削除されます。(☞ P.41)

●出力ポートの設定変更

各出力ポートの設定を変更します。通常は変更する必要はありません。(☞ P.42)

プリンタ管理の起動

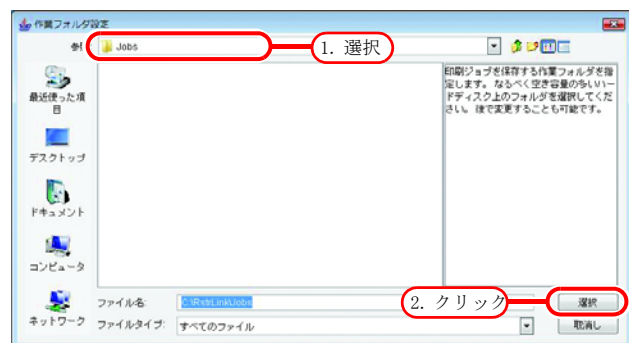
- 1 Windows の [スタート] - [すべてのプログラム] - [MimakiRasterLinkPro5] - [プリンタ管理] を選択します。



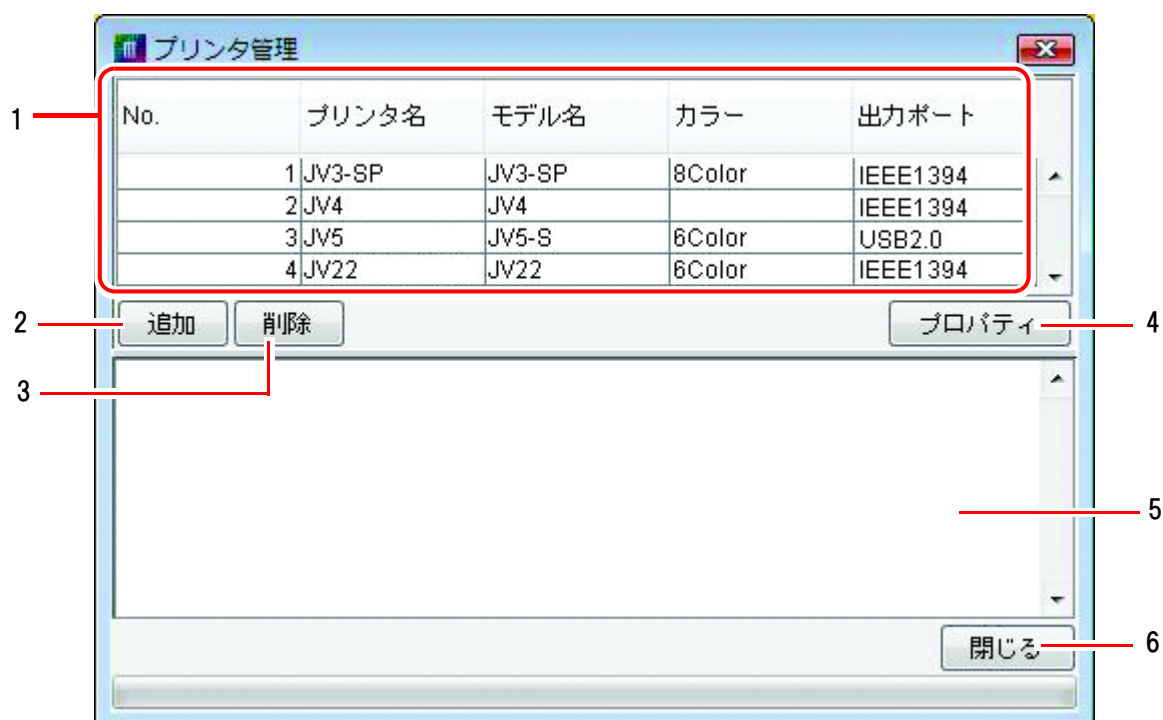
- 2 ユーザーアカウント制御画面を表示します。
[続行] をクリックします。



- 3 初めて起動する場合は、作業フォルダ設定を表示します。
空き容量が十分あるディスクのフォルダを選択してください。
選択したフォルダの中に、ジョブの作業用ファイルを保存するフォルダが自動的に作成されます。



プリンタ管理画面



1. プリンタリスト

登録されているプリンタの一覧を表示します。

2. 追加

プリンタを追加します。

3. 削除

プリンタリストで選択したプリンタを削除します。

4. プロパティ

プリンタリストで選択したプリンタの設定を変更します。

5. 情報表示

プリンタ管理の処理状況を表示します。

6. 閉じる

プリンタ管理画面を閉じます。

プリンタの追加

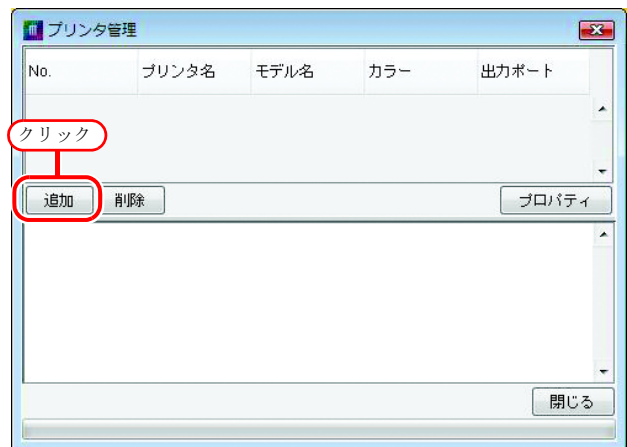
RasterLinkPro5 のインストール直後はプリンタが登録されていません。プリンタの追加で使用するプリンタを登録します。

- 1 使用するプリンタの電源を入れて、RasterLinkPro5 PC とプリンタが USB 2.0 ケーブルまたは IEEE1394 ケーブルで接続されていることを確認します。

重要!

- RasterLinkPro5 に USB 2.0 インターフェイスで複数のプリンタを接続する場合は、あらかじめ各プリンタの“マシン メイショウ”を操作パネルでユニークな名称に変更しておく必要があります。
- RasterLinkPro5 に IEEE1394 インターフェイスで複数のプリンタを接続する場合は、接続するプリンタ台数分の IEEE1394 インターフェイスカードが必要になります。1 つの IEEE1394 インターフェイスカードに複数のプリンタを接続することはできません。

- 2 プリンタ管理画面で **追加** をクリックします。
プリンタ設定画面が表示されます。



- 3 [出力ポート] で“IEEE1394”を指定した場合は、接続されているプリンタのモデル名と、プリンタステータス（括弧で囲んで表示します）が接続可能プリンタのリストに一覧表示されます。



同一モデルを複数台接続している場合、[接続可能プリンタ] リストに同一モデル名が表示され、対象のプリンタを識別できない場合があります。このような場合は、プリンタの操作パネルで<リモート>/<ローカル>状態を切り替えてから、**最新の情報に更新** をクリックしてプリンタステータスの表示を更新して確認してください。

[出力ポート] で“USB 2.0”を指定した場合は、接続されているプリンタの“マシン メイショウ”が接続可能プリンタのリストに一覧表示されます。



- 4** 実際に接続するプリンタに合わせて、[モデル名]、[カラー]、[接続可能プリンタ] を選択します。
 [出力ポート] には、通常“USB 2.0” または“IEEE1394” を指定します。
 [プリンタ名] には、他のプリンタと区別するために簡単な名称を入力します。



重要!

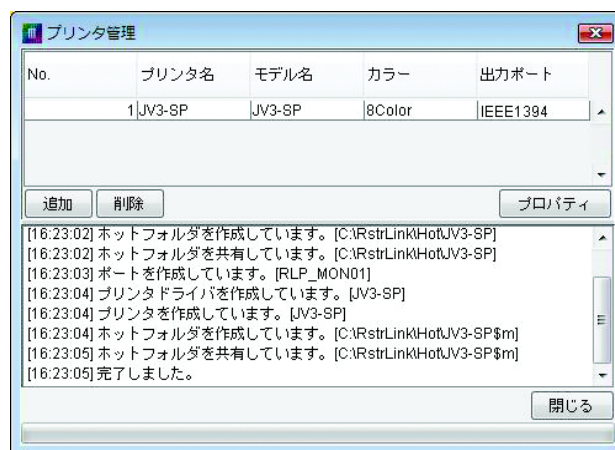
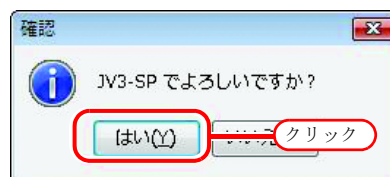
- プリンタ名に以下の半角文字は使用できません。
¥ / : * ? “ < > | ! ,
- 入力したプリンタ名は、後で変更できません。プリンタを追加すると、入力したプリンタ名でデフォルトのホットフォルダ、プリンタドライバを作成します。また、メインウィンドウに表示される実行中ジョブ画面のタイトルにも、ここで入力したプリンタ名が表示されます。
- Windows Me以前のOSのPCからホットフォルダや共有プリンタにアクセスする場合、半角で11バイト以内のプリンタ名を入力してください。
- 2台以上のプリンタを登録する場合、プリンタ名を重複して登録できません。必ず異なるプリンタ名で登録してください。
- 出力ポートに“USB 2.0”を選択する場合、PCのUSBポート、USBケーブルがUSB 2.0規格に準拠していることを確認してください。規格外の場合は高速モードで接続できません。また、USBハブは使用しないでください。
- RasterLinkPro5は、接続可能プリンタリストで選択されたプリンタに対して、作図データの出力、プリンタステータスの取得を行います（“IEEE1394”の場合はプリンタのシリアル番号で、“USB 2.0”の場合はプリンタの“マシン メイショウ”でプリンタを識別しています）。したがって、同一モデルであっても他のプリンタに接続し直す場合は、プリンタの設定変更で接続可能プリンタリストからプリンタの選択を変更する必要があります。
- 出力ポートに“IEEE1394”を選択する場合、RasterLinkPro5起動状態で以下のことは行わないでください。PCが動作しなくなる場合があります。
 - * プリンタの電源を切る
 - * IEEE1394 ケーブルを抜き差しする
- JV3SLモデルをご使用の場合、JV3-SPの8colorを選択してください。またデバイスプロファイルは、4色プロファイルのみインストールしてください。
- プリンタは同時に4台まで登録可能です。
- 登録した複数のプリンタに「印刷」を同時に実行可能です。
- 異なるプリンタに対して「RIP &印刷」は同時に実行できませんが、「RIP &印刷」と「印刷」を同時に実行することは可能です。
- 異なるプリンタに対して、スプール処理やRIP処理は同時に実行できません。
- 複数のプリンタで同時に印刷する場合、RasterLinkPro5がインストールされたPCのスペック、解像度などの印刷条件、または接続しているプリンタ仕様により、印刷中にプリンタヘッドが停止する場合があります。



出力ポートに“ファイル”を選択すると、ミマキエンジニアリング製プリンタコマンドファイル出力ソフトのNetLinkで印刷可能なファイルが作成できます。

5 をクリックします。
 確認画面で をクリックし
 ます。

プリンタ設定画面が閉じ、プリンタの追加処
 理が行われます。処理状況はプリンタ管理画
 面の情報表示欄に表示されます。追加処理が
 完了すると、“完了しました。”というメッ
 セージを表示します。



重要!

- プリンタの追加処理中に、プリンタ管理を強制終了しないでください。
- RasterLinkPro5 PC に PC MACLAN がインストールされている場合、プリンタの追加処理途中で [PC MACLAN] ファイルサーバの警告画面が表示されることがあります。 をクリックして PC MACLAN ファイルサーバを停止してください。PC はシャットダウンされません。
- プリンタ管理で作成したホットフォルダに対し、以下のことは絶対に行わないでください。アンインストールできなくなります。
 - ディレクトリ名の変更、共有名の変更、共有の解除、ホットフォルダの削除
- プリンタ管理で作成したプリンタドライバに対し、以下のことは絶対に行わないでください。アンインストールできなくなります。
 - 名前の変更・削除、共有名の変更、共有の解除

PC MACLAN の自動設定について

RasterLinkPro5 に PC MACLAN がインストールされている場合、プリンタの追加を行うと、自動的に PC MACLAN の設定が行われます。

この際、自動的に以下の名称が付けられます。

PC MACLAN ファイルサーバ

ファイルサーバ名称 : RasterLinkPro5 PC のホスト名

共有フォルダ名称 : プリンタ設定画面で入力したプリンタ名

PC MACLAN プリントサーバ

スプーラ名 : プリンタ設定画面で入力したプリンタ名_RasterLinkPro5 PC のホスト名

重要!

- PC MACLAN プリントサーバで使用できるスプーラ名の長さは、最大で 27byte です。プリンタ名またはホスト名が長い場合、28byte 以降は削除されます。Macintosh からプリンタドライバで出力する場合は、プリンタ名を長くしないことをお奨めします。
- プリンタの追加処理中に、プリンタ管理は PC MACLAN を再起動させます。この際、一時的に Macintosh クライアントとの接続が切断されるため、ホットフォルダ内に削除できないファイルが残るなどの問題が発生します。プリンタの追加は、Macintosh でマウントしたホットフォルダをアンマウントしてから行ってください。

プリンタの設定変更

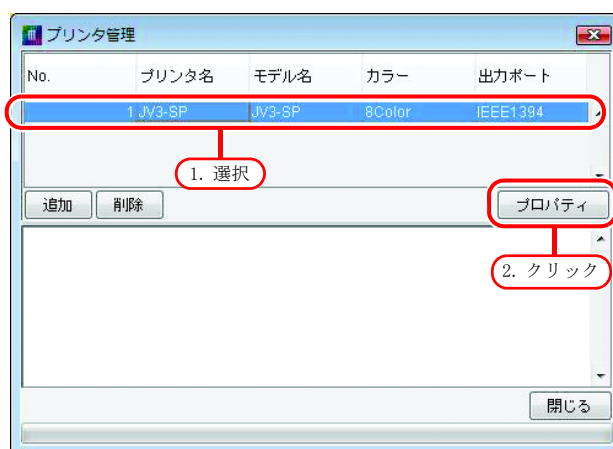
プリンタを登録した後で、カラーモデルの変更（例：4カラーから6カラーへの変更）、出力ポートの変更、出力ポートの詳細設定の変更を行う場合は、プリンタの設定変更を行います。

- 1 あらかじめ使用するプリンタの電源を入れて、RasterLinkPro5 PC とプリンタが USB 2.0 ケーブルまたは IEEE1394 ケーブルで接続されていることを確認します。

重要!

- RasterLinkPro5 に USB 2.0 インターフェイスで複数のプリンタを接続する場合は、あらかじめ各プリンタの“マシン メイショウ”を操作パネルでユニークな名称に変更しておく必要があります。
- RasterLinkPro5 に IEEE1394 インターフェイスで複数のプリンタを接続する場合は、接続するプリンタ台数分の IEEE1394 インターフェイスカードが必要になります。1つの IEEE1394 インターフェイスカードに複数のプリンタを接続することはできません。

- 2 プリンタ管理画面で、設定を変更したいプリンタを選択し、**プロパティ**をクリックします。プリンタ設定画面が表示されます。



- 3 カラーモデルを変更する場合は [カラー] のリストから、出力ポートを変更する場合は [出力ポート] のリストからそれぞれ選択し直します。出力ポートが“USB 2.0”または“IEEE1394”の場合は、さらに [接続可能プリンタ] のリストから対象のプリンタを選択します。

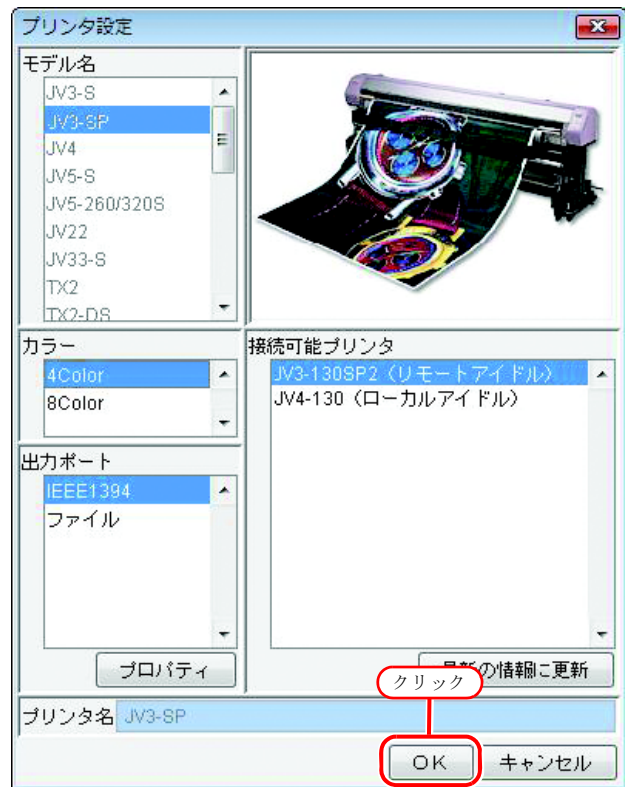


モデル名とプリンタ名は変更できません。変更したい場合は、プリンタを削除してから追加し直してください。



4

OK をクリックします。
確認画面で はい をクリックします。
プリンタの設定が変更され、プリンタ設定画面を閉じます。



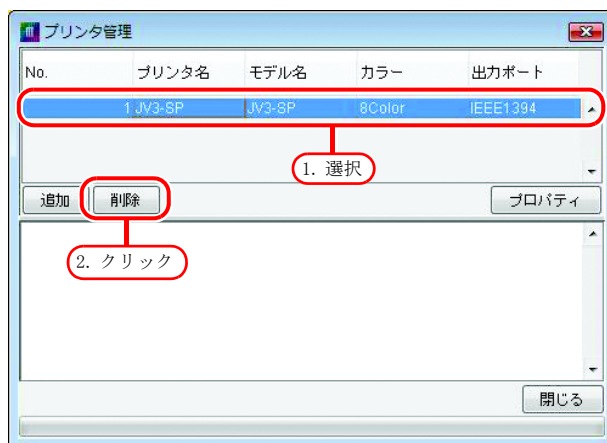
プリンタの削除

登録したプリンタを RasterLinkPro5 から削除します。

重要!

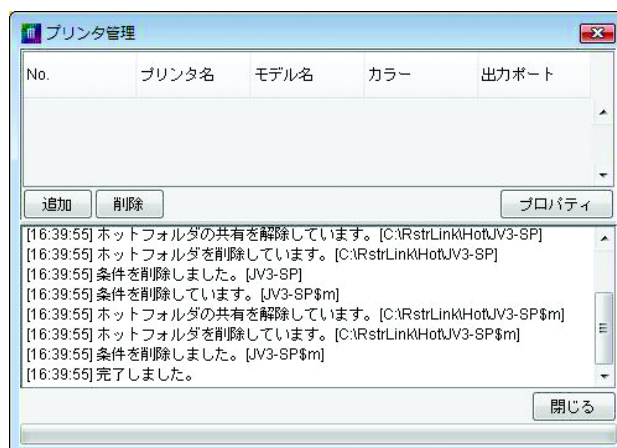
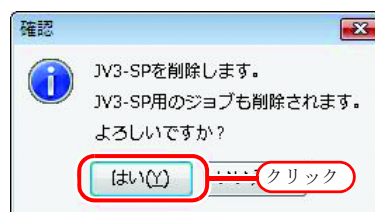
プリンタを削除すると、次回 RasterLinkPro5 起動時に、削除したプリンタのジョブも全て削除され、エラーメッセージが表示されます。プリンタを削除する前に必要なジョブはバックアップしておいてください。

1 プリンタ管理画面で、削除したいプリンタを選択し、**削除** をクリックします。



2 確認画面で **はい** をクリックします。

プリンタの削除処理が行われます。処理状況はプリンタ管理画面の情報表示欄に表示されます。削除処理が完了すると、“完了しました。”メッセージを表示します。



- プリンタの削除処理中に、プリンタ管理を強制終了しないでください。
- RasterLinkPro5 PC に PC MACLAN がインストールされている場合、プリンタの削除処理途中で [PC MACLAN] ファイルサーバの警告画面が表示されることがあります。
OK ボタンをクリックして PC MACLAN ファイルサーバを停止してください。PC はシャットダウンされません。

PC MACLAN の設定解除について

RasterLinkPro5 に PC MACLAN がインストールされている場合、プリンタの削除を行うと、自動的に PC MACLAN の設定が解除されます。

重要!

- プリンタの削除処理中に、プリンタ管理は PC MACLAN を再起動させます。この際、一時的に Macintosh クライアントとの接続が切断されるため、ホットフォルダ内に削除できないファイルが残るなどの問題が発生します。プリンタの削除は、Macintosh でマウントしたホットフォルダをアンマウントしてから行ってください。
- PC MACLAN ファイルサーバのボリューム情報は自動的に削除されません。PC MACLAN ユーザガイドの、PC MACLAN ファイルサーバの使用法の章に従い、[ボリューム情報を削除] を行ってください。

出力ポートの設定変更

各出力ポートに対し、タイムアウト値やバッファ長などの詳細設定を変更することができます。

重要!

- 各出力ポートの設定値は、デフォルトで推奨値が設定されています。問題ある場合を除き、設定値は変更しないでください。
- 各出力ポートの設定変更は、出力ポートのプロパティ画面で **OK** をクリックした後、プリンタ設定画面で **OK** をクリックすると有効になります。



デフォルトに戻す をクリックすると、各設定値がデフォルトの推奨値に戻ります。

- 1 プリンタの追加、またはプリンタの設定変更時に、プリンタ設定画面で設定を変更したい出力ポートをリストから選択し、**プロパティ** をクリックします。選択した出力ポートのプロパティ画面を表示します。

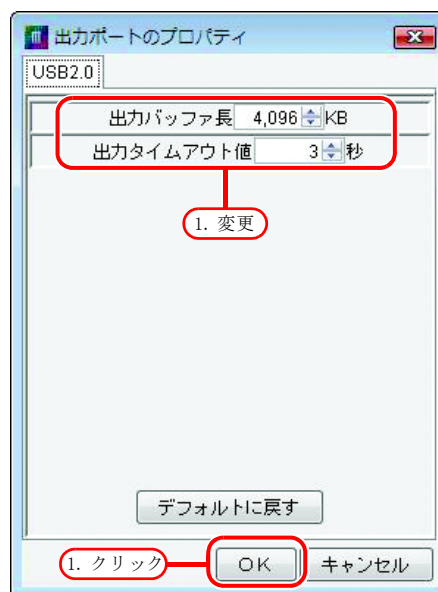


USB 2.0 ポートの場合

“出力バッファ長”、“出力タイムアウト値”を必要に応じて変更します。



- “出力バッファ長”の変更は、RasterLinkPro5 起動後に有効になります。
- “出力タイムアウト値”の変更は、OS 再起動後に有効になります。



IEEE1394 ポートの場合

- 1 “出力バッファ長”、“出力応答タイムアウト値”を必要に応じて変更します。

重要!

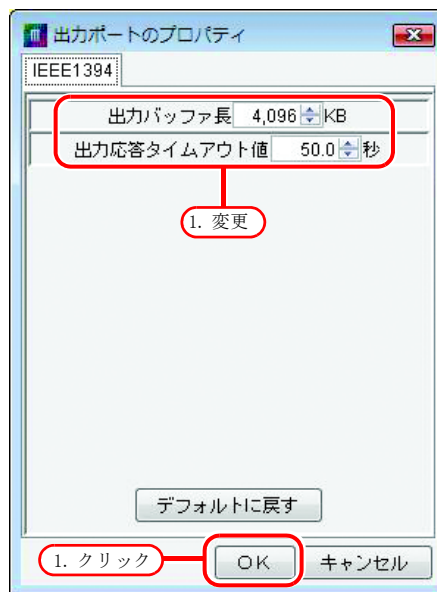
以下のような条件で、印刷時にプリンタが通信エラー（ERROR 20）を検出する場合があります。

- ケーブル長が長い場合
- PC側のコネクタが4ピンの場合
- ノートパソコンと接続する場合
- PCのマザーボードに実装されている IEEE1394 ポートと接続する場合
- 信頼性の低いコントローラチップを搭載したインターフェイスカードを使用する場合

このような場合、根本的には IEEE1394 通信の信頼性を高める措置が必要となりますが、“出力応答タイムアウト値”を大きくすることで、エラーが発生しにくくなる場合があります。



- “出力バッファ長”の変更は、RasterLinkPro5 起動後に有効になります。
- “出力応答タイムアウト値”の変更は、OS 再起動後に有効になります。



- 2 をクリックして出力ポートのプロパティ画面を閉じた後、プリンタ設定画面で をクリックします。

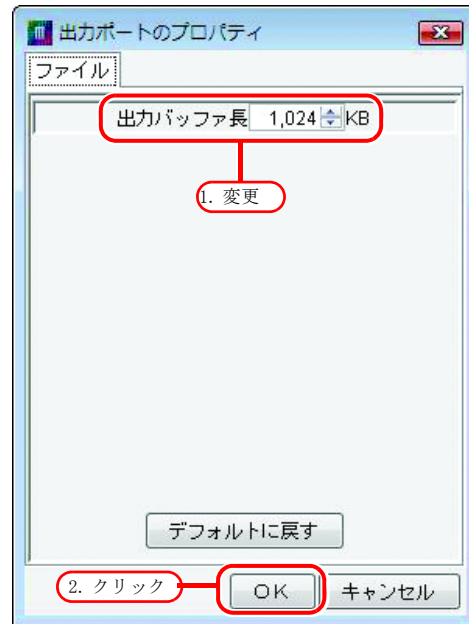


ファイルの場合

- 1 “出力バッファ長”を必要に応じて変更します。



“出力バッファ長”の変更は、RasterLinkPro5 起動後に有効になります。



- 2 をクリックして出力ポートのプロパティ画面を閉じた後、プリンタ設定画面で をクリックします。



RasterLinkPro5 の起動

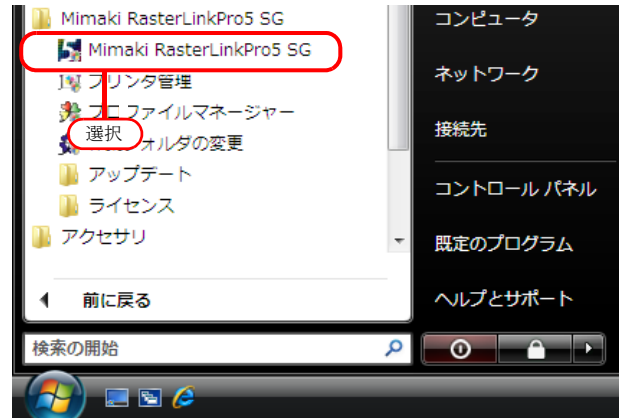
RasterLinkPro5 の起動方法を説明します。

1 Windows の [スタート] - [すべてのプログラム] -

[MimakiRasterLinkPro5] -
[MimakiRasterLinkPro5] メニューを
選択します。

または、デスクトップ上の
「RasterLinkPro5」アイコンをダブル
クリックします。

RasterLinkPro5 起動画面を表示します。

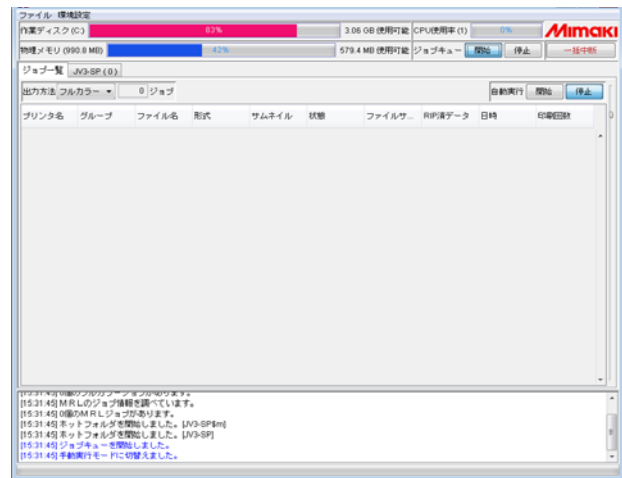
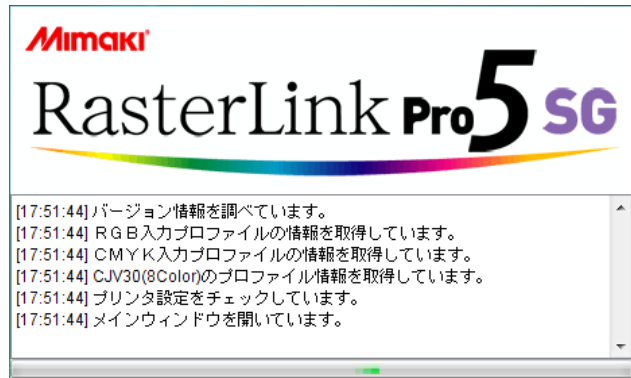


2 ユーザーアカウント制御画面を表示 します。

をクリックします。



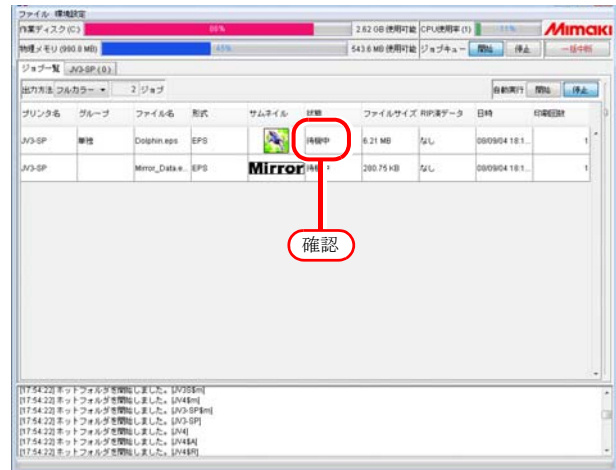
3 RasterLinkPro5のメインウィンドウを表示します。



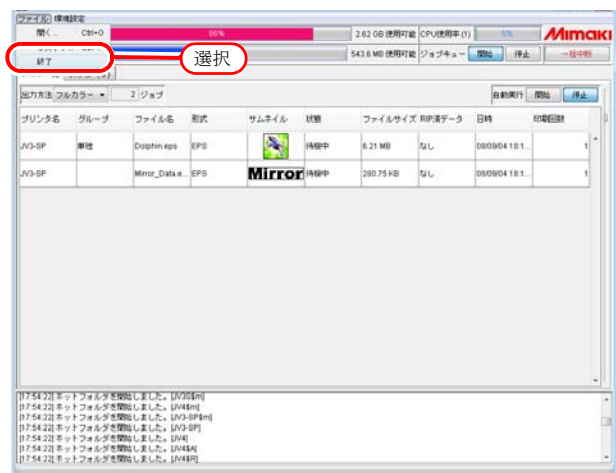
RasterLinkPro5 の終了

重要! 印刷中またはスプール中に RasterLinkPro5 を終了しないでください。

- 1 印刷中またはスプール中のジョブが無いか確認します。
スプール中や印刷中のジョブがないか、“ジョブ一覧”の“状態”を確認します。



- 2 [終了] を選択します。
[ファイル] - [終了] メニューまたはクローズボックス [x] をクリックします。

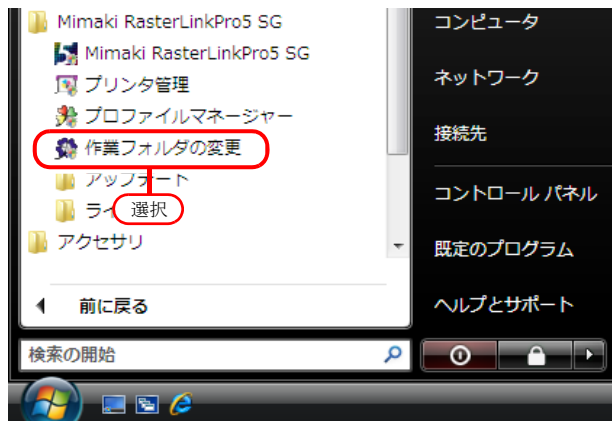


作業フォルダの変更

RasterLinkPro5 の作業フォルダの変更方法を説明します。

- 1 [作業フォルダの変更] を選択します。
[スタート] - [すべてのプログラム] -
[MimakiRasterLinkPro5] - [作業フォルダの
変更] メニュー

“作業フォルダ設定”ダイアログを表示します。



- 2 ユーザーアカウント制御画面を表示
します。

をクリックします。

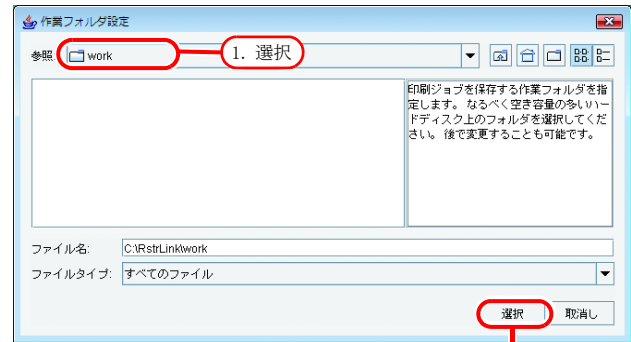


- 3** 変更先の作業フォルダを指定します。
空き容量が十分あるディスクのフォルダを選択します。

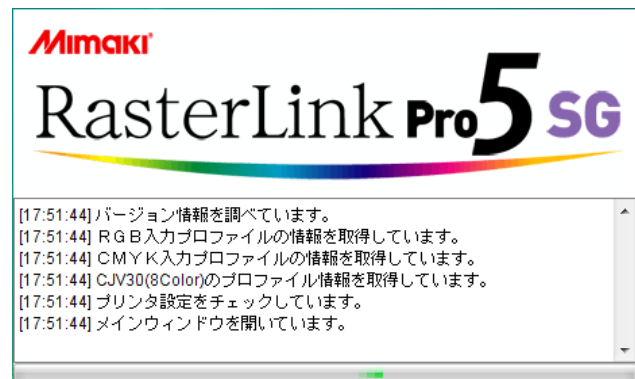


変更先の作業フォルダを、新規に作成することもできます。

選択 ボタンをクリックします。
変更前の作業フォルダ内の作業用ファイルを、変更後の作業フォルダ内に移動します。



2. クリック



ジョブの種類

ジョブは、ファイルのフォーマット・出力処理別に 5 種類あります。

- ・フルカラー
- ・RIP 分版
- ・アプリ分版
- ・マルチファンクション
- ・MRL

それぞれのジョブは、ジョブ一覧画面上部の“出力方法”で表示を切り替えます。

また、ジョブの種類ごとにホットフォルダとプリンタを作成します。

デフォルトのホットフォルダとプリンタの名称には、プリンタ管理でプリンタを追加する際に入力したプリンタ名が使用されます。

フルカラー

画像の色をそのまま出力します。

対応ファイルフォーマット : PS, EPS, TIFF, JPEG, BMP, PDF

ホットフォルダ・プリンタ名 : “プリンタ名”、“条件名” (例 : JV4)

RIP 分版

JV4 のみ使用可能です。

画像を RasterLinkPro5 で分版します。

対応ファイルフォーマット : PS, EPS, TIFF, JPEG, BMP, PDF

ホットフォルダ・プリンタ名 : “プリンタ名 \$R”、“条件名” (例 : JV4\$R)

アプリ分版

JV4 のみ使用可能です。

画像をアプリケーションで分版します。

対応ファイルフォーマット : PS

ホットフォルダ・プリンタ名 : “プリンタ名 \$A”、“条件名” (例 : JV4\$A)

マルチファンクション

印刷とカットの機能を持つプリンタが使用可能です。

対応ファイルフォーマット : PS, EPS, TIFF, JPEG, BMP, PDF

ホットフォルダ・プリンタ名 : “プリンタ名”、“条件名” (例 : CJV30)

MRL

MRL (ミマキコマンドファイル) を、そのままプリンタへ出力します。

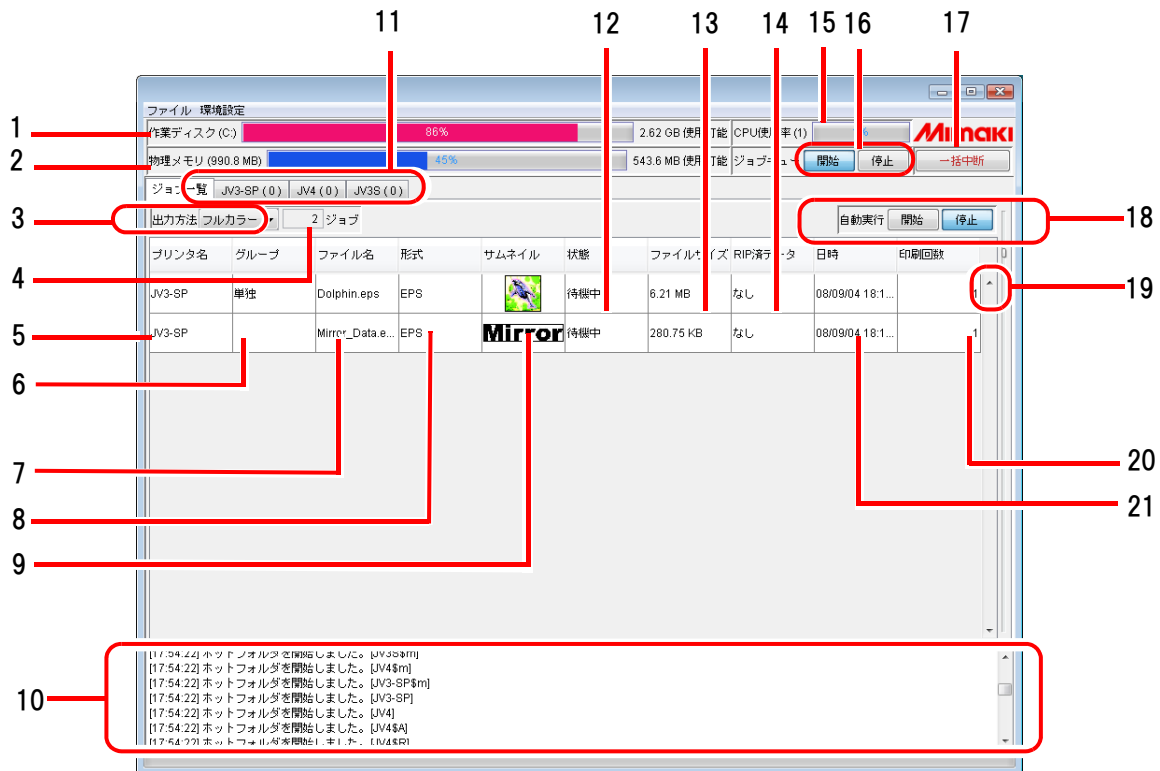
対応ファイルフォーマット : MRL

ホットフォルダ名 : “プリンタ名 \$m” (例 : JV4\$m)

メイン画面について

ジョブ一覧画面(フルカラー、RIP分版、アプリ分版)

起動後に表示する画面です。出力方法をフルカラー、RIP分版、アプリ分版にすると表示します。



1. 作業ディスク

作業フォルダがあるディスクの使用状況を表示します。

使用可能容量は次の式により求められます。

使用可能容量 = ディスク容量 - ディスク使用量 - 確保するディスク残量*

* 「確保するディスク残量」は下記の場所で指定します。

「環境設定」 - 「オプション」 - 「ディスク」

2. 物理メモリ

RasterLink パソコンの物理メモリ量及び使用状況を表示します。

3. 出力方法

出力方法別にメイン画面の表示を切り替えます。

4. ジョブ数

出力方法別のジョブの数を表示します。

重要! 出力方法ごとに登録されたプリンタのジョブの合計は、200件まで登録できます。

5. プリンタ名

出力するプリンタの名称を表示します。

“プリンタ名”をクリックして表示されるプルダウンメニューで出力先プリンタを変更できます。

6. グループ

ジョブのグループ化の状態を表示します。

7. ファイル名

画像のファイル名を表示します。

8. 形式

画像のフォーマット形式を表示します。

9. サムネイル

画像の縮小イメージを表示します。

10. 情報表示

RasterLinkPro5 全体の処理状況を表示します。

11. 実行中ジョブ画面の切り替え

各プリンタの実行中ジョブ画面に切り替えます。最大4つのプリンタについて表示します。

各プリンタのプリンタステータスも表示します。

タブには、対応するプリンタのプリンタ名が表示されます。カッコ内には、実行中または実行待ち状態のジョブの合計数が表示されます。実行中のジョブがない場合は、タブ切り替え時にプリンタステータスが更新表示されます。

12. 状態

ジョブの状態を表示します。

13. ファイルサイズ

ジョブのデータサイズを表示します。

14. RIP 済みデータ

RIP 済みのデータがある場合、“あり”を表示します。

15. CPU 使用率

RasterLink パソコンの CPU 使用率を表示します。(ただし、64bit 版の OS では表示されません。)

“CPU 使用率”のカッコ内は、論理 CPU 数です。シングル CPU でも、ハイパースレッディングまたはデュアルコア CPU の場合は2に、クアッドコア CPU の場合は4になります。

16. ジョブキュー

ジョブの実行順を変更する場合に、ジョブの実行キューを停止 / 開始します。

ジョブの実行順変更については、「ジョブ実行順の変更」(P.62)を参照してください。

17. 一括中断

各プリンタの実行中または実行待ち状態のジョブを一括中断します。

18.自動実行

スプールしたジョブを自動実行（RIP/印刷/カット）するか手動実行するか現在の状態を選択します。

自動実行の詳細は、「RIP・出力処理を自動で実行する」（☞ P.95）を参照してください。

19.行間調整スライダ

1 ジョブの表示の高さを変更します。

20.印刷回数

レイアウトプレビューに表示される印刷イメージの印刷回数を指定します。

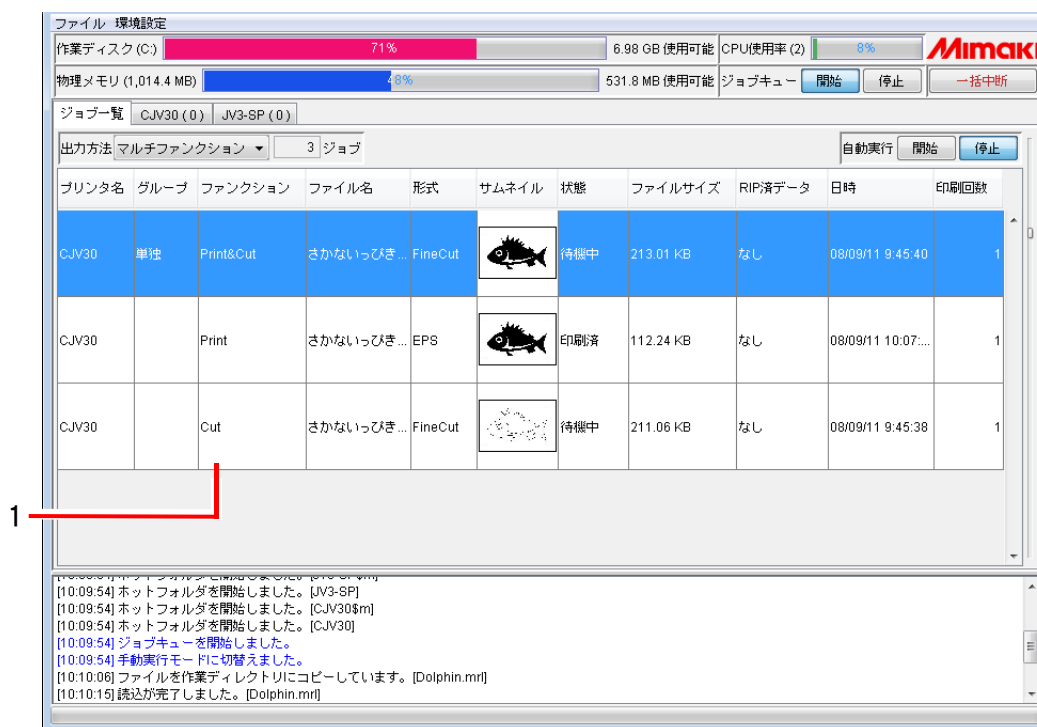
21.日時

ジョブを読み込んだ日時を表示します。

ジョブ一覧画面(マルチファンクション)

マルチファンクションプリンタを登録したとき、表示される画面です。出力方法をマルチファンクションにすると表示されます。

マルチファンクションプリンタとは印刷とカッティングを備えたプリンタです。



表示項目はフルカラーのジョブ一覧画面にファンクションを示す情報が追加されています。他の表示項目については、フルカラーのジョブ一覧画面をご参照ください。

1. ファンクション

ファンクションの種類を示します。

Print & Cut :ジョブは印刷画像とカッティングデータがセットになっており、プリント&カット、プリントのみ、カットのみが可能です。

Print :ジョブは印刷画像で、印刷のみ可能です。

Cut :ジョブはカッティングデータで、カッティングのみ可能です。

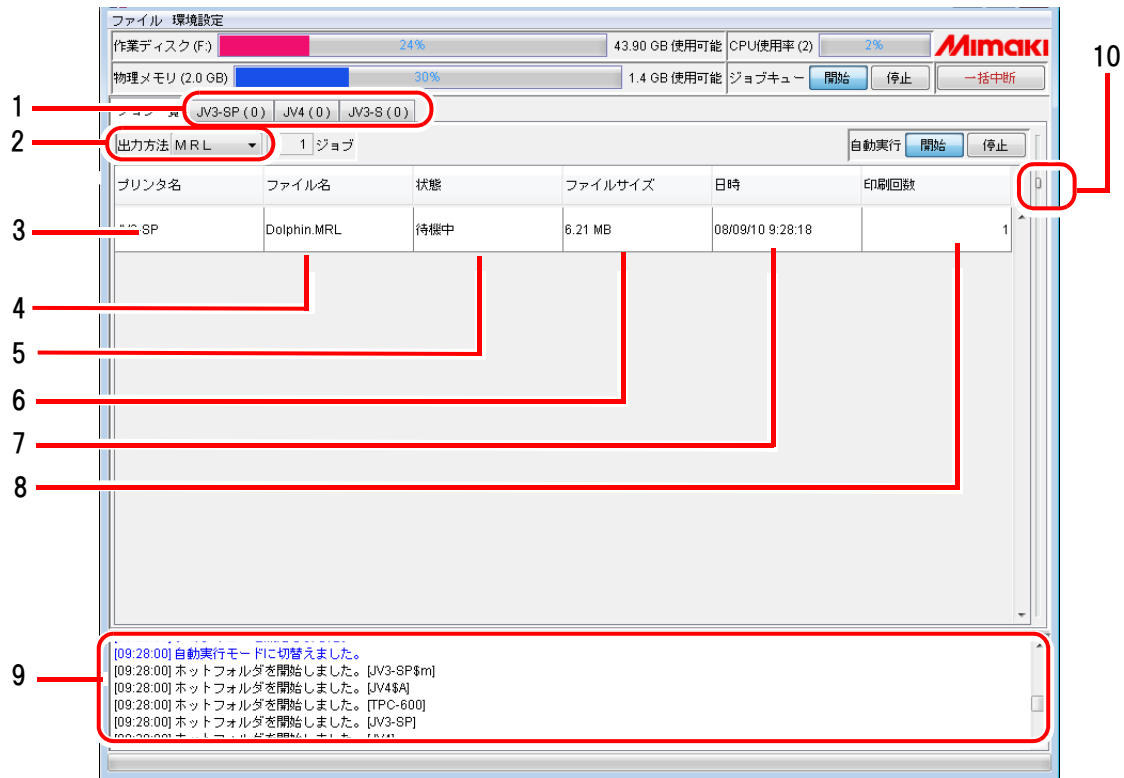
カッティングデータはミマキエンジニアリング製ソフトウェア FineCut または Simple Studio で作成します。詳しくは FineCut または Simple Studio のマニュアルをご参照ください。

ジョブ一覧画面(MRL)

出力方法を MRL にすると表示します。コマンドファイルの一覧を管理します。

重要!

MRL はミマキエンジニアリング製プリンタ専用のコマンド形式です。MRL 形式のジョブは、ジョブエディタで編集することはできません。



1. 実行中ジョブ画面の切り替え

各プリンタの実行中ジョブ画面に切り替えます。最大4つのプリンタについて表示します。

各プリンタのプリンタステータスも表示します。

タブには、対応するプリンタのプリンタ名が表示されます。カッコ内には、実行中または実行待ち状態のジョブの合計数が表示されます。実行中のジョブがない場合は、タブ切り替え時にプリンタステータスが更新表示されます。

2. 出力方法

出力方法別にメイン画面の表示を切り替えます。

3. プリンタ名

出力するプリンタの名称を表示します。

“プリンタ名”をクリックして表示されるプルダウンメニューで出力先プリンタを変更できます。

4. ファイル名

画像のファイル名を表示します。

5. 状態

ジョブの状態を表示します。

6. ファイルサイズ

ジョブのデータサイズを表示します。

7. 日時

ジョブを読み込んだ日時を表示します。

8. 印刷回数

印刷回数を指定します。

9. 情報表示

RasterLinkPro5 全体の処理状況を表示します。

10. 行間調整スライダ

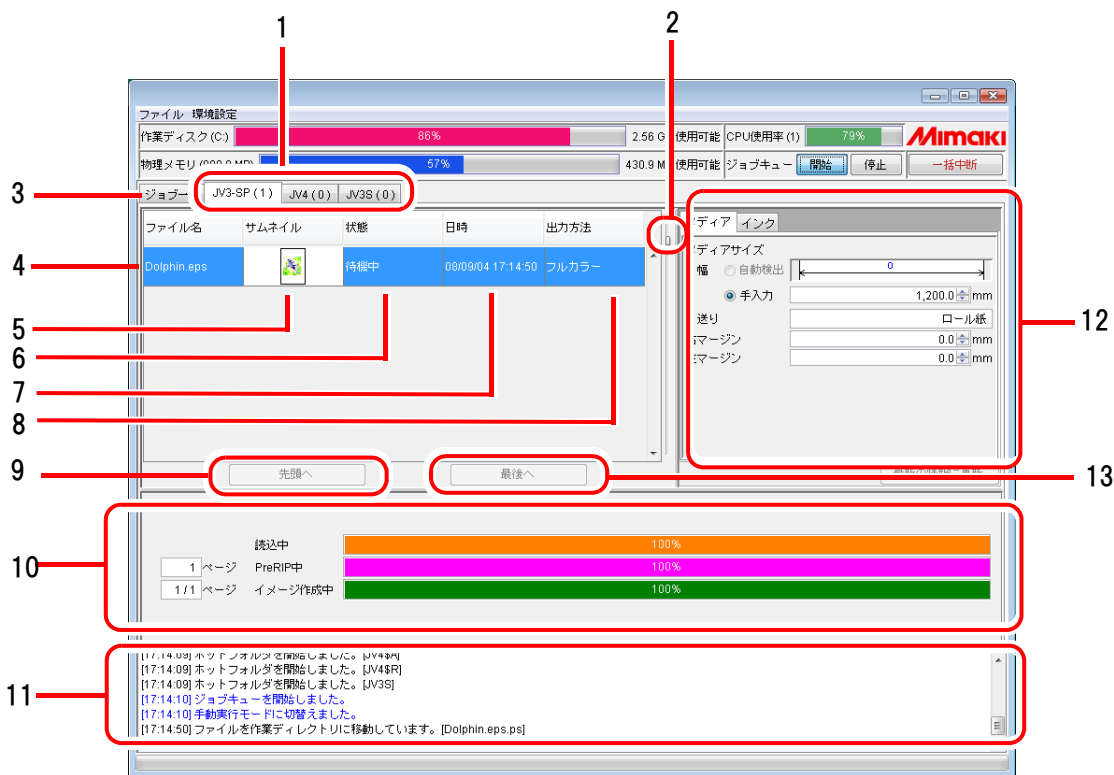
1 ジョブの表示の高さを変更します。

実行中ジョブ画面

スプールや出力などの処理を行っているジョブの一覧を表示します。

RIP 待ちジョブの実行順を変更することが可能です。

処理中のジョブがない場合、リストには何も表示しません。



1. 実行中ジョブ画面の切り替え

各プリンタの実行中ジョブ画面に切り替えます。最大4つのプリンタについて表示します。

各プリンタのプリンタステータスも表示します。

タブには、対応するプリンタのプリンタ名が表示されます。カッコ内には、実行中または実行待ち状態のジョブの合計数が表示されます。実行中のジョブがない場合は、タブ切り替え時にプリンタステータスが更新表示されます。

2. 行間調整スライダ

実行中ジョブの表示の高さを変更します。

3. ジョブ一覧

ジョブ一覧画面に切り替えます。

4. ファイル名

進行中ジョブのファイル名を表示します。

5. サムネイル

画像ジョブの場合、処理中ジョブの縮小画像を表示します。

MRL ジョブの場合、表示しません。

6. 状態

現在の処理状態を表示します。

処理状況ビューと連動して表示します。

7. 日時

処理の開始時刻を表示します。

8. 出力方法

出力方法（フルカラー・MRL・RIP 分版・アプリ分版・マルチファンクション）を表示します。

9. 先頭へ

ジョブキューの停止ボタンが押されている場合、実行中ジョブリストで選択したジョブを一覧の先頭へ移動します。

10. 進行状況ビュー

選択しているジョブの処理状態をインジケータで表示します。

各処理の経過時間および残り時間の予測値を表示します。

11. 情報表示

RasterLinkPro5 全体の処理状況を表示します。

12. プリンタステータス

プリンタの状態を表示します。表示内容については、リファレンスガイド 機種別編「プリンタステータス表示機能」を参照してください。


13. 最後へ

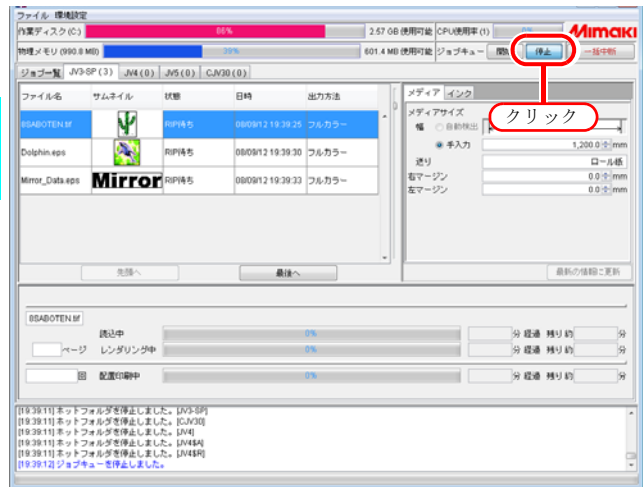
ジョブキューの停止ボタンが押されている場合、実行中ジョブリストで選択したジョブを一覧の最後へ移動します。

ジョブ実行順の変更

ここでは、2番目のジョブを先頭に移動する手順を説明します。

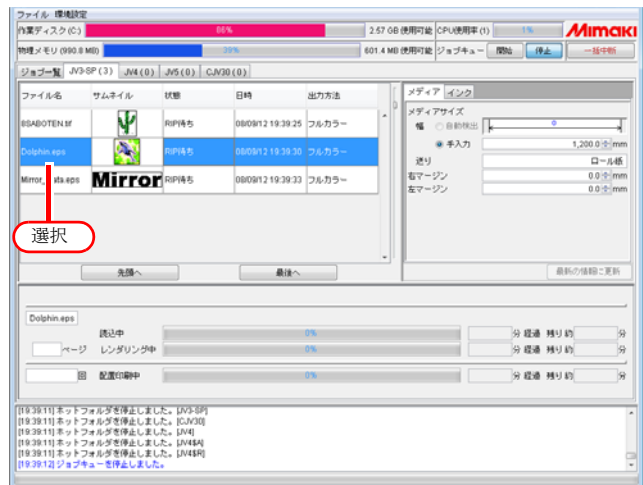
- 1 ジョブキューの **停止** ボタンをクリックします。

 現在実行中のジョブは、停止されません。

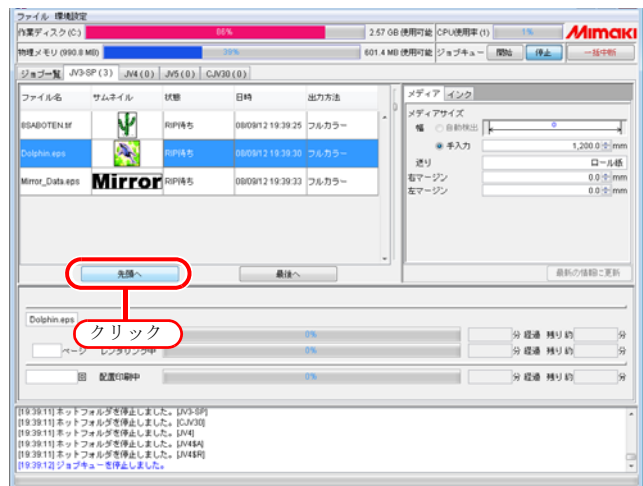


- 2 順番変更したいジョブを選択します。

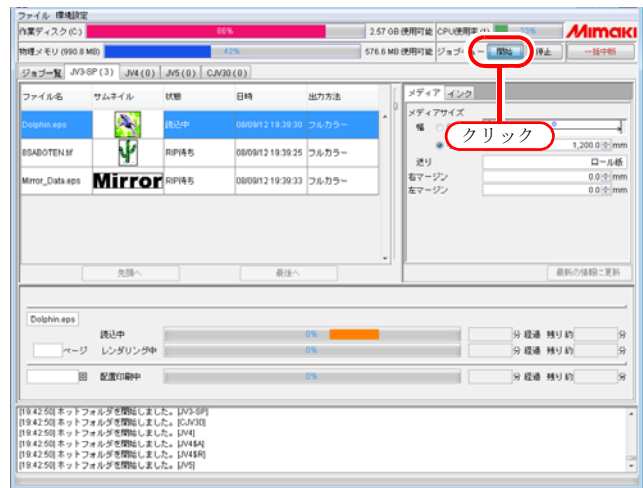
複数のジョブを選択した状態では実行順を変更できません。
グループ化ジョブ、合成ジョブは移動できません。



- 3 **先頭へ** ボタンをクリックします。
最後へ ボタンをクリックすると、選択しているジョブを最後へ移動します。



4 ジョブキューの **開始** ボタンをクリックします。



印刷するまでの手順

RasterLinkPro5 を使用してデータを出力する方法を説明します。

出力の手順は以下のようになります。

重要!

バンドル版の RasterLinkPro5 で RIP または印刷する場合、使用するプリンタの電源を入れ、RasterLinkPro5 PC とプリンタが USB2.0 ケーブルまたは IEEE1394 ケーブルで接続されている必要があります。

スプールする P.65

出力する画像を RasterLinkPro5 に読み込みます。
スプール方法は 4 種類あります。

編集する P.75

ジョブエディタウィンドウで、各種編集機能を設定します。

出力する P.82

スプールする

画像データのスプール方法について

RasterLinkPro5 に画像をスプールする方法は 4 種類あります。

方法	内容	読込可能なファイル形式
[開く] メニュー ☞ P. 66	メニューの [開く] からファイルをスプールします。	PS, EPS, TIFF, JPEG, BMP, PDF*, MRL
ドラッグアンドドロップ ☞ P. 68	スプールするファイルのアイコンを、RasterLinkPro5 のウィンドウへドラッグアンドドロップします。	PS, EPS, TIFF, JPEG, BMP, PDF*, MRL
ホットフォルダ ☞ P. 70	ホットフォルダへスプールするファイルをコピーします。 ホットフォルダは出力方法別にあります。	フルカラーフォルダ： PS, EPS, TIFF, JPEG, BMP, PDF* RIP 分版フォルダ： PS, EPS, TIFF, JPEG, BMP, PDF* アプリ分版フォルダ：PS MRL フォルダ：MRL
プリンタドライバ ☞ P. 72	Adobe Illustrator などのアプリケーションソフトウェアから、プリンタドライバを使用してスプールします。	

* PDF1.4 まで対応しています。PDF1.5 以上は正常にスプールできません。

重要!

- ショートカットファイルからスプールすることはできません。
必ず画像データのファイルをスプールしてください。

RasterLinkPro5 の[開く]メニューから画像をスプールする場合

RasterLinkPro5 のメニューから画像をスプールする方法を説明します。

- 1 [開く] を選択します。
[ファイル]- [開く] メニュー

“印刷するファイルを選択” ダイアログを表示します。



2 スプールするファイルを選択します。



スプールするファイルは、複数選択することができます。

重要!

- ショートカットファイルからスプールすることはできません。必ず画像データのファイルを選択してください。
- 選択したフォルダ内に多くのファイルが存在する場合、またはサイズの大きいファイルが存在する場合、[印刷するファイルを選択]画面の表示が更新されるまで時間がかかる場合があります。完全に表示されるまでしばらくお待ちください。



“プリンタ名”でスプール先のプリンタを選択します。

“出力方法”を選択します。

“条件管理”で条件セットを追加した場合（[リファレンスガイド機種別編「条件セットの新規作成」](#)参照）、適用する条件セットを選択します。

“ファイルを作業ディレクトリにコピー”を指定します。

スプール後に、オリジナルのファイルを変更・削除する可能性がある場合は、チェックを入れてください。

ボタンをクリックします。

3 ジョブ一覧画面に選択したファイルが表示され、スプールが完了するとサムネイルを表示します。

重要!

“ファイルを作業ディレクトリにコピー”をチェックしないでスプールしたファイルに対し、次のことを行わないでください。出力できなくなります。

- ファイルを別のフォルダに移動、または削除する
- データに変更を加える



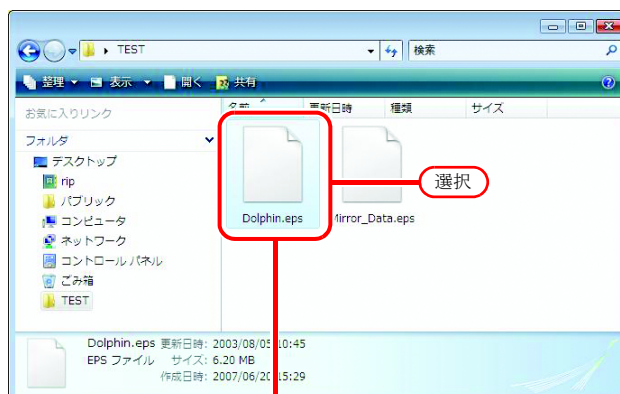
ドラッグアンドドロップにより画像をスプールする場合

RasterLinkPro5 のウィンドウへ、ファイルをドラッグアンドドロップして画像をスプールする方法を説明します。

重要!

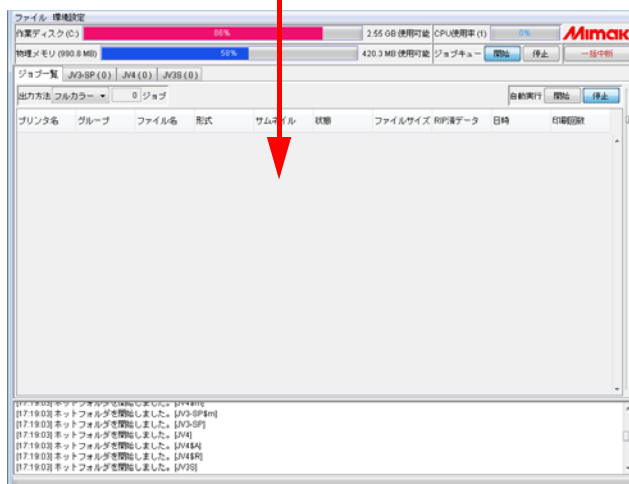
RasterLinkPro5 PC の OS が Windows Vista / Windows 7 の場合、管理者権限を持つユーザで RasterLinkPro5 を実行すると、ファイルのドラッグアンドドロップでジョブをスプールすることはできません。

- 1 読み込むファイルをエクスプローラ上などから選択します。



ドラッグアンドドロップ

- 2 RasterLinkPro5 の “ジョブ一覧” 画面に、ドラッグアンドドロップします。
“印刷するファイルを選択” ダイアログを表示します。



3 ドラッグしたファイルが選択状態になっています。

“プリンタ名”でスプール先のプリンタを選択します。

“出力方法”を選択します。

“条件管理”で条件セットを追加した場合（※リファレンスガイド機種別編「条件セットの新規作成」参照）、適用する条件セットを選択します。

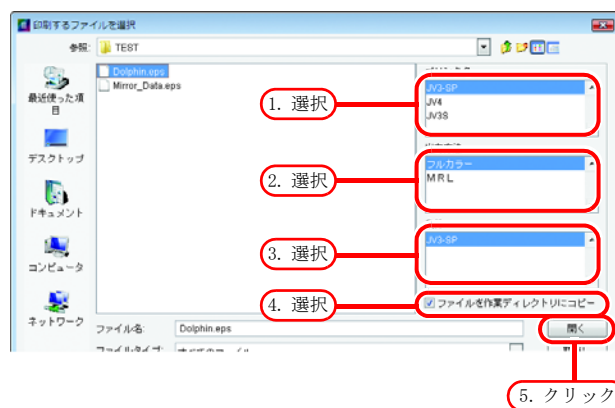
“ファイルを作業ディレクトリにコピー”を指定します。

スプール後に、オリジナルのファイルを変更・削除する可能性がある場合は、チェックを入れてください。

開く ボタンをクリックします。

重要!

選択したフォルダ内に多くのファイルが存在する場合、またはサイズの大きいファイルが存在する場合、[印刷するファイルを選択]画面の表示が更新されるまで時間がかかる場合があります。完全に表示されるまでしばらくお待ちください。

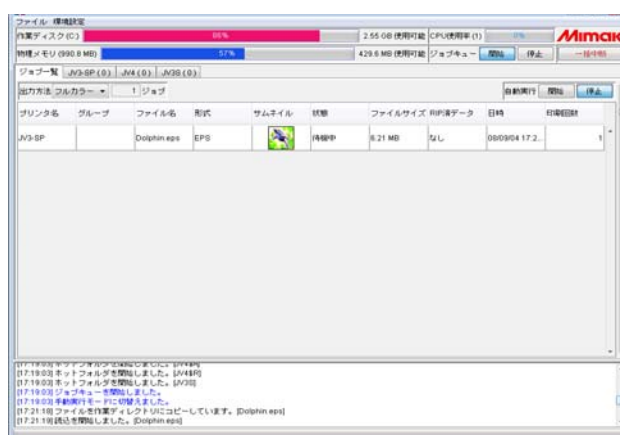


4 ジョブ一覧画面に選択したファイルが表示され、スプールが完了するとサムネイルが表示されます。

重要!

“ファイルを作業ディレクトリにコピー”をチェックしないでスプールしたファイルに対し、次のことを行わないでください。出力できなくなります。

- ファイルを別のフォルダに移動または削除する
- データに変更を加える

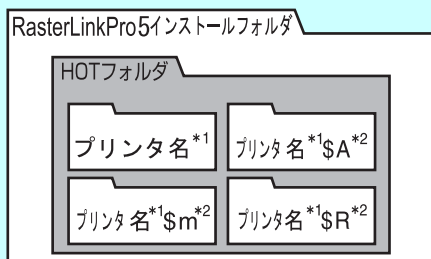


ホットフォルダを使用して画像をスプールする場合

ホットフォルダを使用した画像のスプール方法を説明します。



- ホットフォルダは、RasterLinkPro5 インストールフォルダの中に作成されます。出力方法の違いにより、2つ（JV4のみ4つ）のフォルダがあります。



- *1: “プリンタ名”は、プリンタ管理でプリンタを追加する際に入力した名称。
- *2: “\$A”（アプリ分版），“\$R”（RIP分版）はJV4シリーズのみ
“\$m”（MRL）

- 出力条件を設定したホットフォルダを追加することができます。
（ 「リファレンスガイド機種別編 “条件管理について”」参照）

1 ホットフォルダを開きます。

EPS や TIFF などのフルカラー画像ファイル
をスプールする場合、“プリンタ名”を開き
ます。

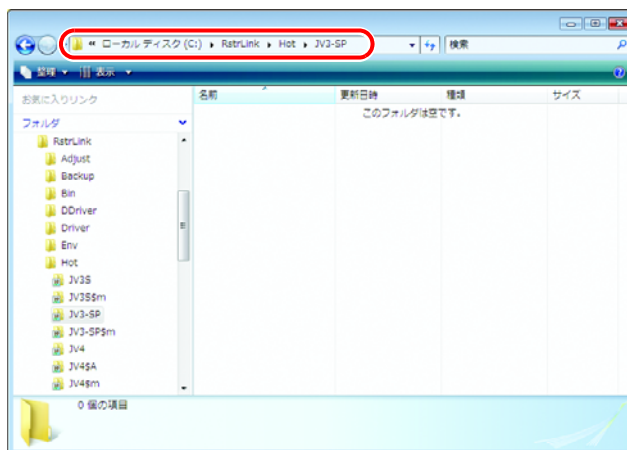
MRL コマンドファイルのスプールする場
合、“プリンタ名 \$m”を開きます。

アプリケーションでプロセスカラーに分解し
たファイルのスプールする場合、“プリンタ
名 \$A”を開きます。

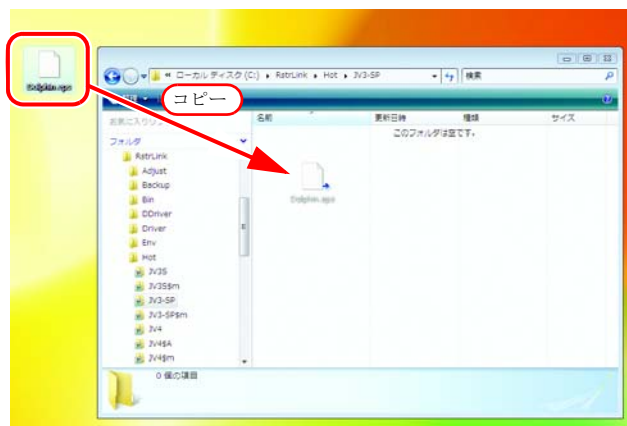
フルカラー画像を RasterLinkPro5 でプロセス
カラーに分解する場合、“プリンタ名 \$R”を
開きます。



“プリンタ名”の部分はプリン
タ管理でプリンタを追加する際
に入力した名称が入ります。



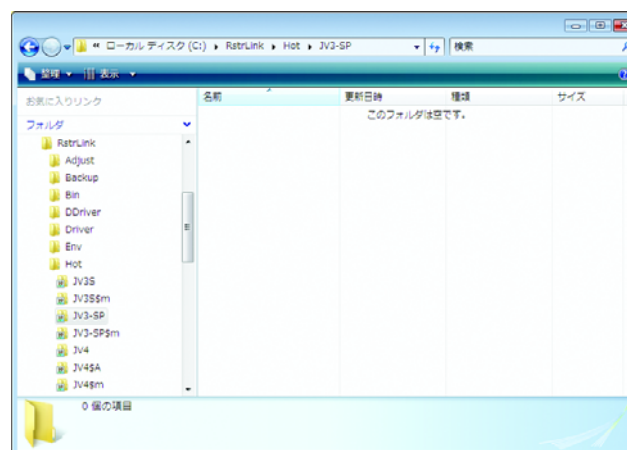
2 スプールするファイルをホットフォルダにコピーします。



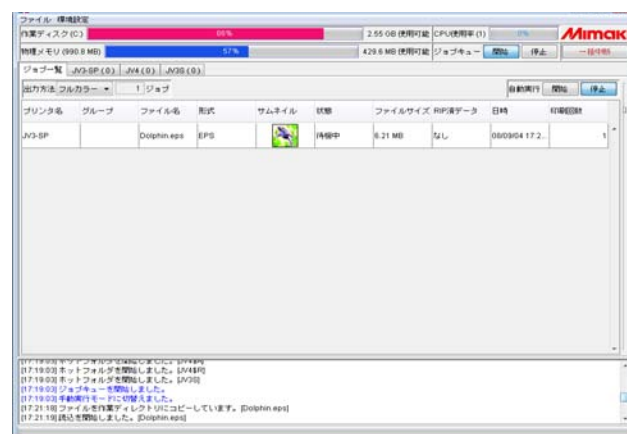
3 RasterLinkPro5 での読込が終了すると、ホットフォルダにコピーしたファイルはなくなります。

重要!

- ホットフォルダにコピーしたファイルは、RasterLinkPro5 が読み込んだ後、他のフォルダ内に移動してしまいます。
- ホットフォルダには、必ずコピーしたファイルを入れるようにしてください。



4 ジョブ一覧画面に、ホットフォルダにコピーしたファイルが表示され、スプールが完了するとサムネイルが表示されます。



プリンタドライバを使用して画像をスプールする場合

Adobe Illustrator からプリンタドライバを使用した画像のスプール方法を一例として説明します。



- RasterLinkPro5 は、機種設定時に次の名前のプリンタドライバを作成します。
“プリンタ名”、“プリンタ名 \$A”、“プリンタ名 \$R” (“プリンタ名” はプリンタ管理でプリンタを追加する際に入力した名称。)
- 出力条件を設定したプリンタドライバを追加することができます。
(「リファレンスガイド機種別編 “条件管理について”」参照)

- 1 Adobe Illustrator を起動し、スプールするファイルを表示します。



- 2 [プリント] を選択します。
[ファイル]- [プリント] メニュー

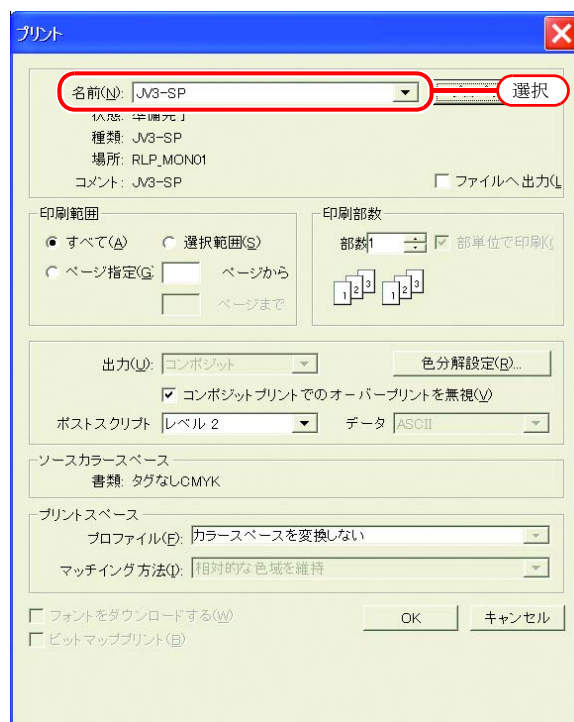
“プリント” ダイアログを表示します。



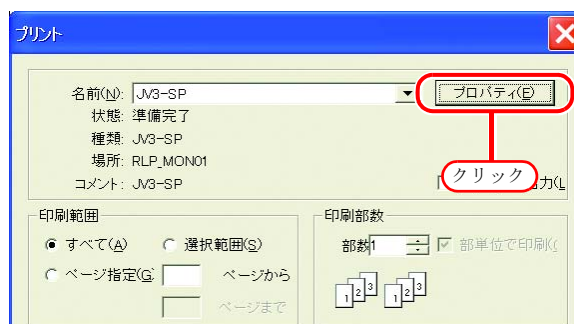
- 3** “プリンタ名” を選択します。
 EPS や TIFF などのフルカラー画像ファイルをスプールする場合、“プリンタ名” を選択します。
 アプリケーションでプロセスカラーに分解したファイルをスプールする場合、“プリンタ名 \$A” を選択します。
 フルカラー画像を RasterLinkPro5 でプロセスカラーに分解する場合、“プリンタ名 \$R” を選択します。



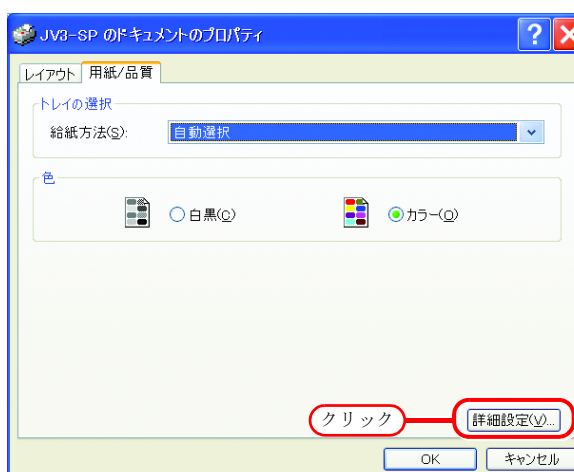
“プリンタ名” の部分は現在設定されているプリンタ名が入りません。



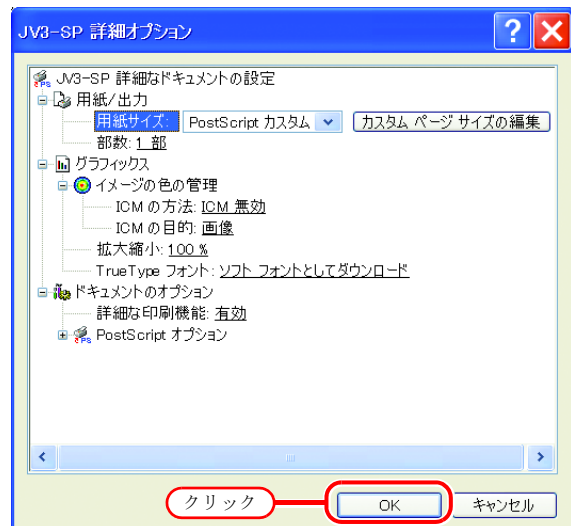
- 4** **プロパティ** ボタンをクリックします。
 “プリンタ名のドキュメントのプロパティ” ダイアログを表示します。



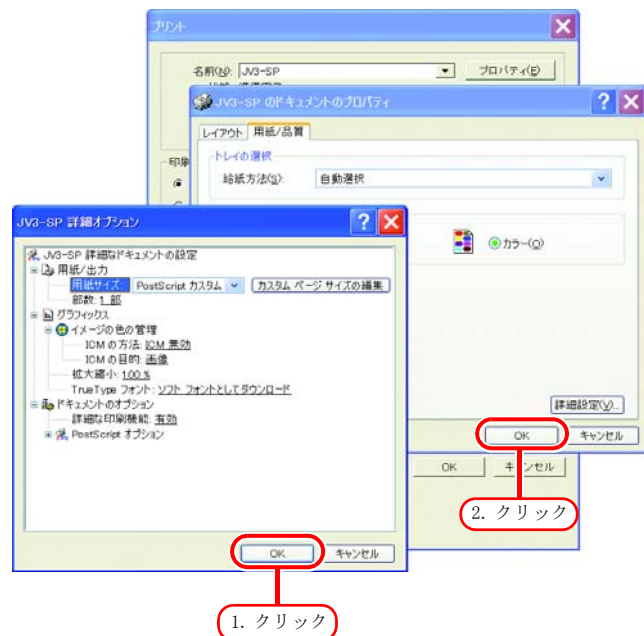
- 5** **詳細設定** ボタンをクリックします。
 “プリンタ名詳細オプション” ダイアログを表示します。



- 6 PostScript カスタムページサイズの設定などの設定を行い、**OK** ボタンをクリックします。



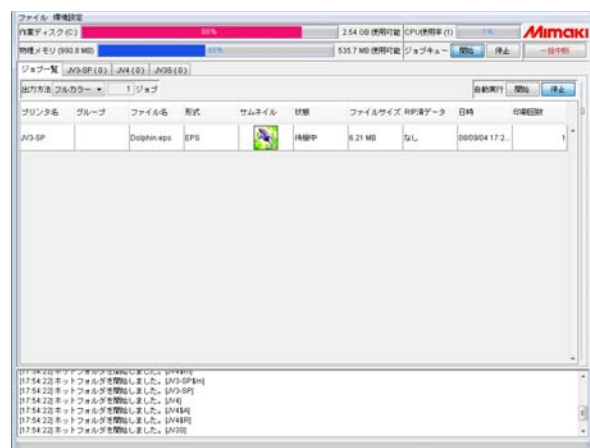
- 7 設定した複数のダイアログの **OK** ボタンをクリックします。
 “プリント”ダイアログの **OK** ボタンをクリックすると、画像データをスプールします。



- 8 ジョブ一覧画面に、スプールしたファイルが表示され、スプールが完了するとサムネイルが表示されます。

重要!

プリンタドライバ経由でスプールした画像は、元画像のファイル形式にかかわらず「ps」形式になります。



ジョブの編集

ジョブは、各種編集機能の設定が可能です。

“ジョブ一覧” から編集するジョブを選択し、次の方法で“ジョブエディタ”を開きます。

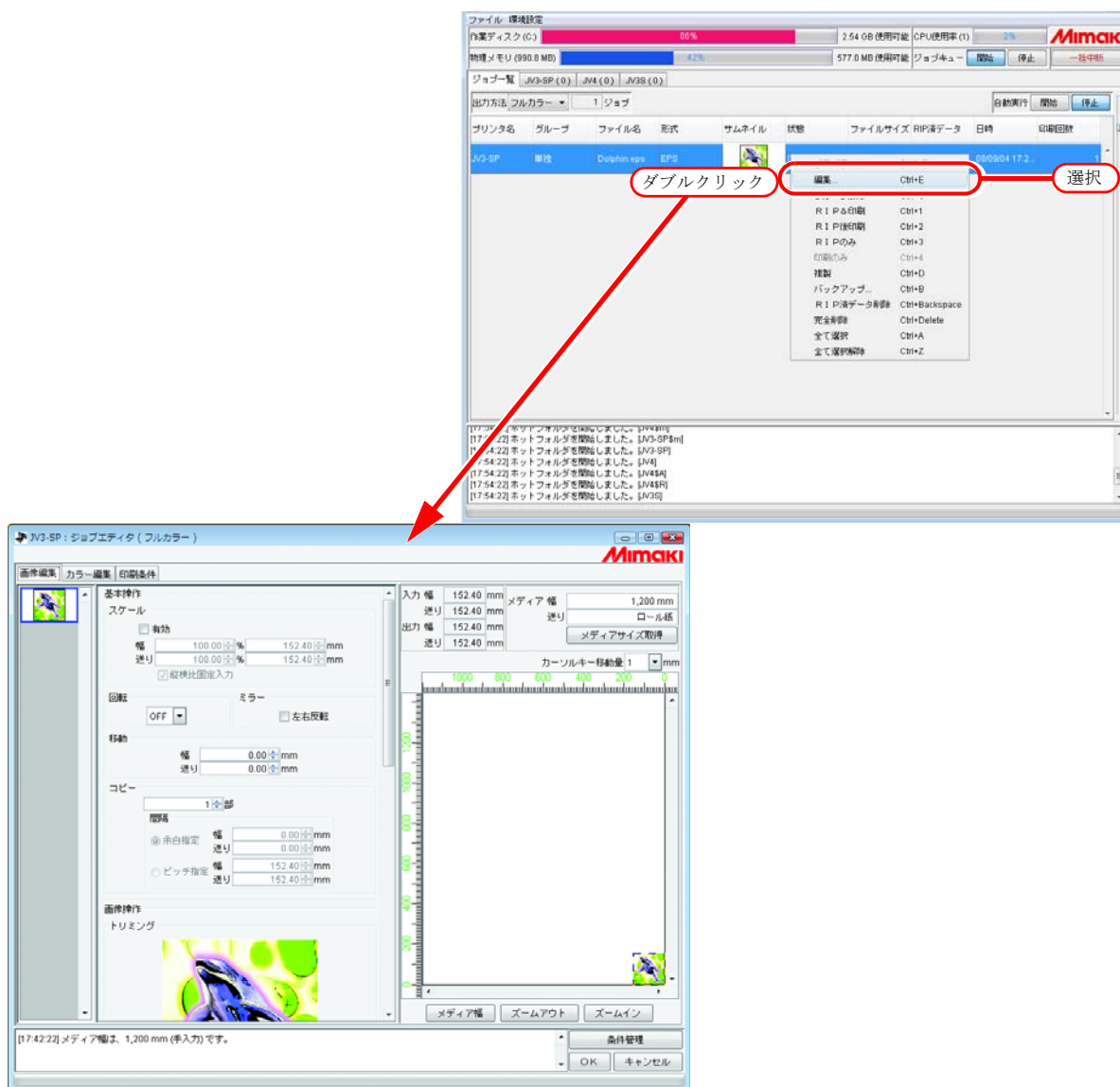
- ・ 選択ジョブをダブルクリック
- ・ マウスの右ボタンをクリックし、ポップアップメニューから“編集”を選択
- ・ **Ctrl** キーを押しながら **E** キーを押す

ジョブエディタウィンドウで、各種編集機能を設定します。

ジョブエディタウィンドウは、接続しているプリンタにより異なります。各プリンタ用のリファレンスガイドをお読みください。

重要!

- ・ MRL 形式のジョブは、ジョブエディタウィンドウを開くことができません。
- ・ 状態が“印刷済”、“待機中”、“中断”、“エラー”、以外のジョブは、ジョブエディタウィンドウを開くことができません。



ジョブの複製

スプール済みのジョブを複製することができます。

同じ画像で条件を変えて印刷する場合、もう一度同じ画像をスプールする手間が省けます。

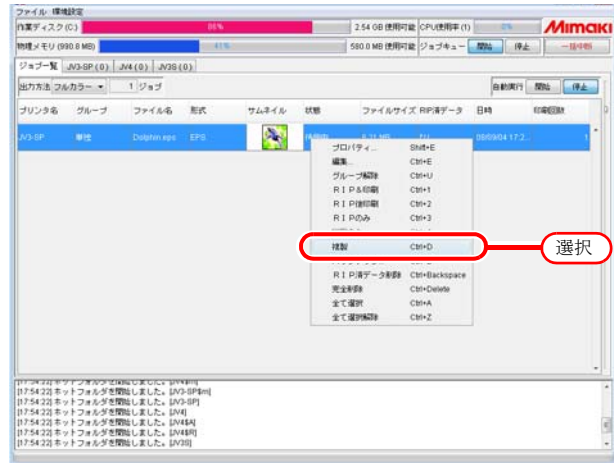


グループ化しているジョブは複製できません。グループ化を解除してから複製してください。

1 複製するジョブを選択します。

右クリックして“複製”を選択します。

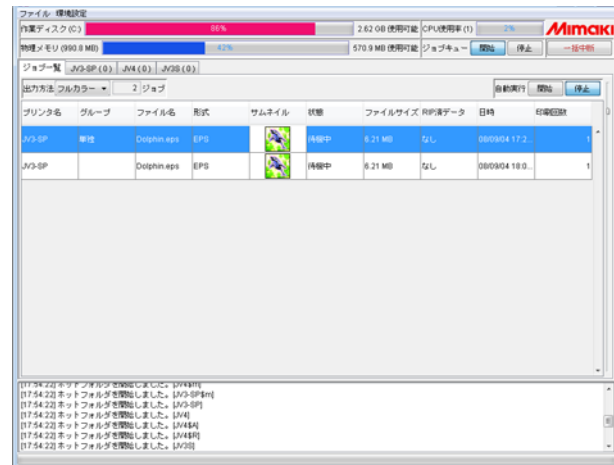
または **Ctrl** キーを押しながら **D** キーを押します。



2 ジョブが複製されます。



- 複製されたジョブと複製元の出力設定情報（画像編集・カラー編集・印刷条件）は同じになります。
- 複製元のRIP済みデータは複製しません。




ジョブのバックアップ・リストア

ジョブを別のファイルにバックアップすることができます。
リストア機能を使用すると、ジョブを復元することができます。

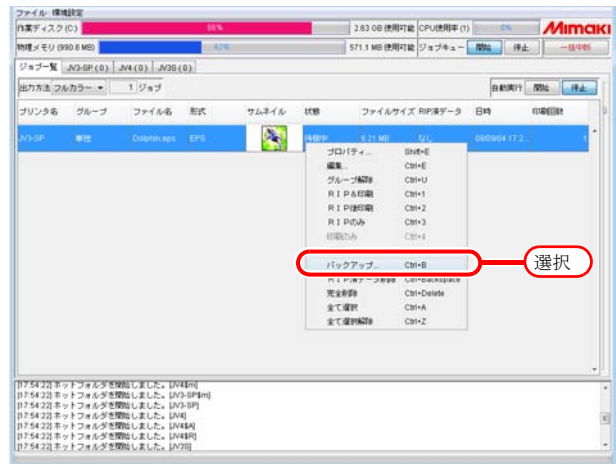
バックアップ

ジョブを別ファイルにバックアップします。
グループ化しているジョブはグループごとにバックアップすることができます。

- 1 バックアップを作成するジョブを選択します。



複数のジョブを選択することもできます。



右クリックして“バックアップ”を選択します。
または **Ctrl** キーを押しながら **B** キーを押します。

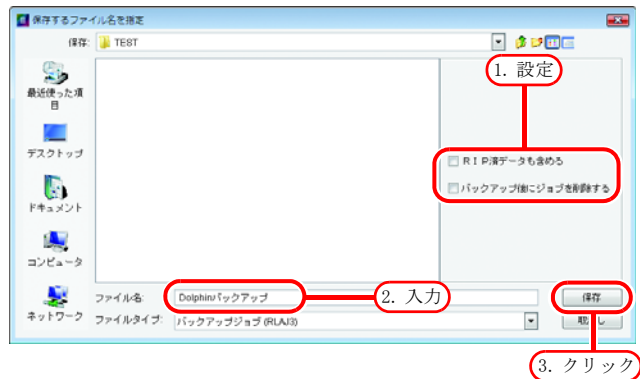
“保存するファイル名を指定”ダイアログを表示します。

- 2 RIP 済データもバックアップする場合、“RIP 済データも含める”をチェックします。

バックアップ後にジョブを削除する場合、“バックアップ後にジョブを削除する”をチェックします。

保存するファイル名を入力します。

保存 をクリックします。
ファイルを保存します。

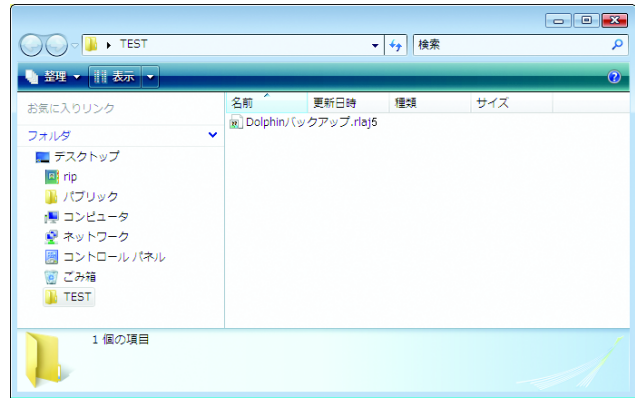


3 バックアップファイルの拡張子は“RLAJS”になります。



バックアップファイルには、次のファイルが含まれます。


- 元画像
- ジョブの設定ファイル
- ジョブが使用している各種調整ファイル
- RIP 済データ（“RIP 済データも含める”をチェックした場合）
- ジョブが使用している入力プロファイルとデバイスプロファイル



リストア

バックアップしたファイルを、復元して読み込みます。

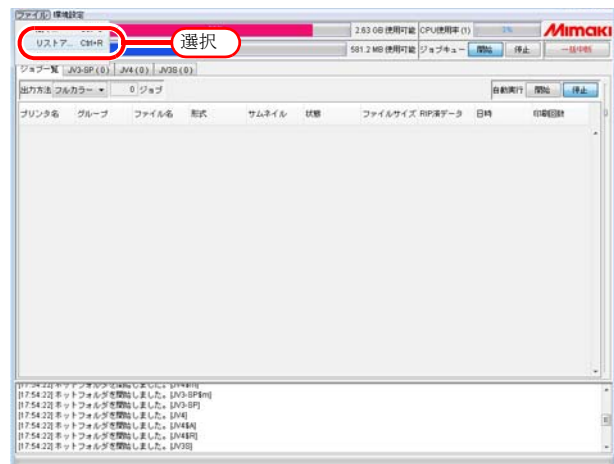


- バックアップジョブ用のプリンタが登録されていない場合は、リストアできません。プリンタ管理でバックアップジョブのプリンタと同一モデルのプリンタを追加してからリストアしてください。
- バックアップジョブ用のプリンタと同一モデルのプリンタが複数台登録されている場合は、プリンタの“No”の若いプリンタにリストアされます。プリンタ“No”はプリンタ管理画面に表示されます。リストア後に他のプリンタ用に変更することができます。（出力先プリンタの変更  P. 81）

1 [リストア] を選択します。 [ファイル] - [リストア] メニュー

または **Ctrl** キーを押しながら **R** キーを押します。

“復元するファイルを選択”ダイアログを表示します。



2 復元するバックアップファイルを選択します。

バックアップファイルに含まれる RIP 済データも復元する場合 “RIP 済データも復元する” をチェックします。

重要!

バックアップファイルを作成した際 “RIP 済データも含める” をチェックしていない場合、“RIP 済データも復元する” をチェックしても RIP 済データは復元できません。



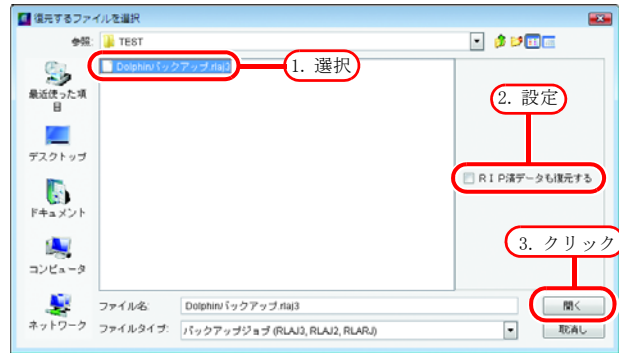
拡張子が以下のバックアップジョブファイルがリストアできます。

- “RLAJ” Raster LinkPro II v1.0
- “RLAJ2” Raster LinkPro II V2.0 ~ v2.1 V3.0 ~ v3.4
- “RLAJ3” RasterLink III シリーズ
- “RLAJ4” RasterLinkPro4 シリーズ
- “RLAJ5” RasterLinkPro5 シリーズ

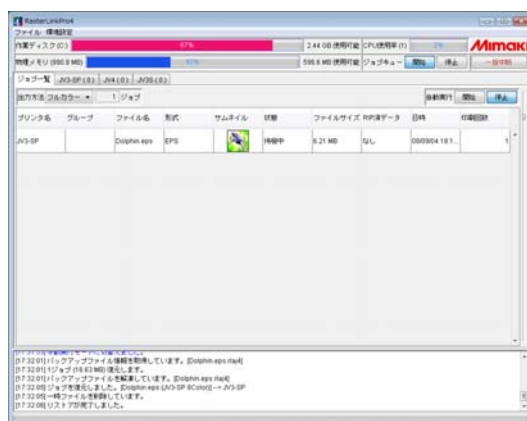
開く をクリックします。



- リストアするジョブの対象プリンタが登録されていない場合、リストアできません。情報表示欄に対象プリンタが表示されますので、一旦 RasterLinkPro5 を終了させ、対象プリンタを登録後、再度リストアしてください。
- リストアするジョブが使用しているプロファイルがインストールされていない状態でリストアしようとする、エラーとなりリストアできません。このとき、バックアップファイルに含まれているプロファイルが一時フォルダに保存されます。情報表示欄にプロファイルの保存先が表示されますので、一旦 RasterLinkPro5 を終了し、プロファイルマネージャー (P. 14) を起動して、プロファイルをインストールした後、再度リストアしてください。
一時フォルダに保存されたプロファイルは、RasterLinkPro5 を起動すると自動的に削除されます。



3 ジョブを復元します。



出力先プリンタの変更

プリンタが複数台登録されている場合は、出力先プリンタを変更することができます。

ここでは、モデル名が“JV3-SP”、カラーが“4Color”の2台のプリンタが以下のプリンタ名で登録されている場合を例に説明します。

プリンタ 1 : JV3-A

プリンタ 2 : JV3-B

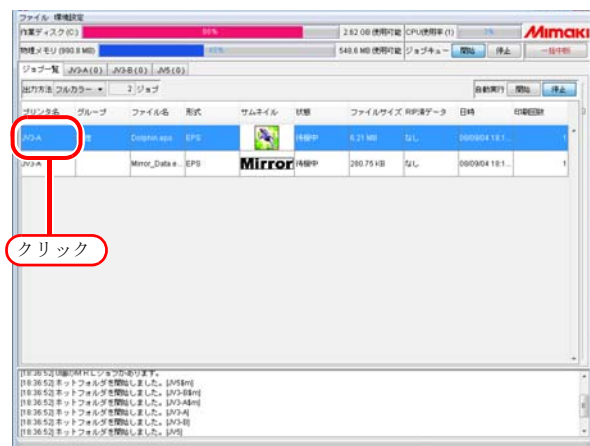
重要!

- 出力先を同一モデルではないプリンタに変更すると、[回転]、[ミラー]、[スケール]、[トリミング]、[移動]、[カットライン] 以外のジョブ設定は初期化されます。
- 同一モデルとは、プリンタ管理でプリンタを登録する際の、モデル名とカラーが一致していることを指します。例えばモデル名が JV3-SP の場合、カラーが 4Color と 8Color では別モデル扱いになります。
- 出力先プリンタを変更した後でジョブエディタを開き、レイアウトプレビューで画像がメディアからはみ出していないか確認してください。出力先を変更しても、画像の配置位置は自動的に調整されません。

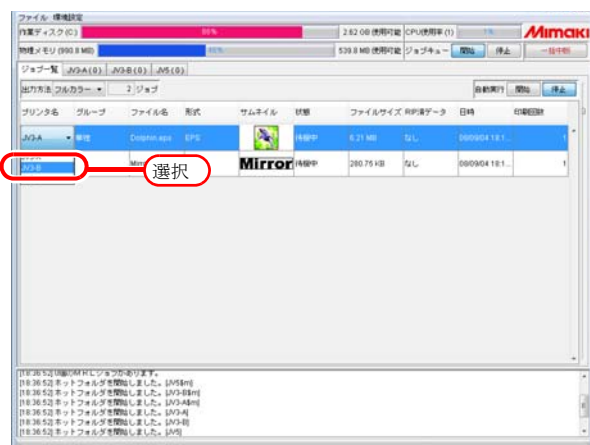


グループ化されているジョブに対して出力先プリンタを変更すると、同一グループの全てのジョブの出力先プリンタが一度に変更されます。

- 1 出力先プリンタを変更したいジョブの“プリンタ名”をクリックします。



- 2 プルダウンメニューに選択可能なプリンタ名が表示されるので、出力先プリンタを選択して変更します。



出力する

出力する方法はジョブの種類により異なります。

MRL ジョブは MRL データの出力（☞ P.87）を参照してください。

マルチファンクションジョブはマルチファンクションデータの出力（☞ P.89）を参照してください。

フルカラーデータの出力

出力方法には次の 4 種類があります。

- RIP& 印刷
- RIP 後印刷
- RIP のみ
- 印刷のみ

重要!

- ジョブの“状態”が“印刷済”、“待機中”、“中断”、“エラー”以外の場合、出力できません。
- バンドル版の RasterLinkPro5 で RIP または印刷する場合、使用するプリンタの電源を入れ、RasterLinkPro5 PC とプリンタが USB2.0 ケーブルまたは IEEE1394 ケーブルで接続されている必要があります。



- プリンタ側で以下のエラー・操作をした場合、印刷を再開することができます。
 - * インクエンドによるローカル状態→インクを交換し、リモート状態にする
 - * リモート状態からローカル状態に変更→リモート状態にする
- プリンタ側で以下のエラー・操作をした場合、印刷が中断され RIP 待ちジョブもキャンセルされます。
 - * ローカル状態に変更し、プリンタ側でデータクリアをした場合
 - * IEEE1394 接続で、バスリセットが発生した場合
 - * メディアが終了し、メディアエンドを検出した場合

RIP& 印刷

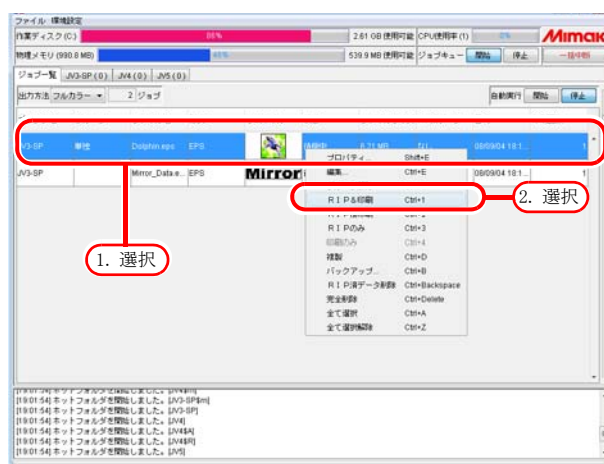
RIP 処理しながら、プリンタへデータ転送を行います。

重要!

次の条件のジョブは“RIP& 印刷”できません。
 グループ化している / アプリ分版 / RIP 分版 / MRL ジョブ / 印刷回数を“2”以上に設定している / パネリング指定のジョブ / タイリングで [任意の場所に配置] を指定しているジョブ

1 “ジョブ一覧”より出力するジョブを選択します。

マウスの右ボタンをクリックし、ポップアップメニューから“RIP& 印刷”を選択します。

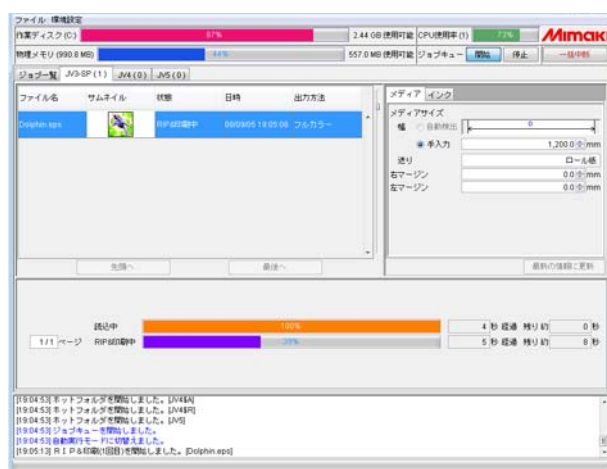


2 ジョブの出力先プリンタ実行中ジョブ画面の“進行状況ビュー”に処理状態を表示します。

“RIP& 印刷中”のインジケータが動き始めると、印刷を開始します。



- 複数ジョブが処理中の場合、ジョブを選択するとそれぞれの処理状況を確認できます。
- 初期設定では“RIP& 印刷”後に RIP 済データを残しません。後で“印刷のみ” (P. 86) を行う場合は RIP 済データが必要です。オプションの“ジョブ制御”メニュー (P. 117) で、RIP 済データが残るように設定を変更することができます。



RIP 後印刷

RIP 中は RIP 済みデータをハードディスクに書き出し RIP 終了後、印刷します。

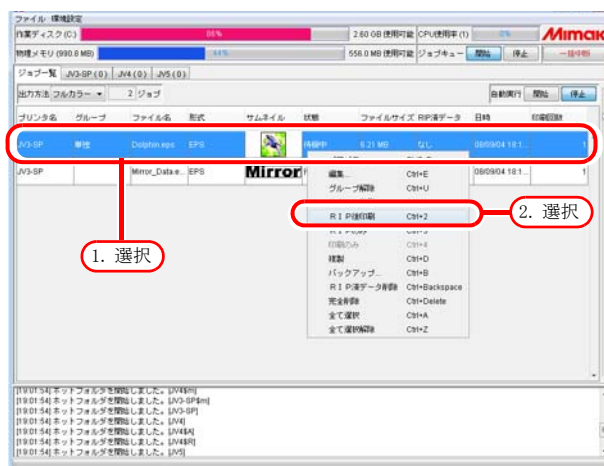
RasterLinkPro5 からプリンタへのデータ転送が間に合わない場合やジョブをグループ化して出力する時などに使用します。

RIP 後印刷処理後、“ジョブ一覧”の“RIP 済みデータ”欄に“あり”と表示します。

重要! MRL ジョブは“RIP 後印刷”できません。

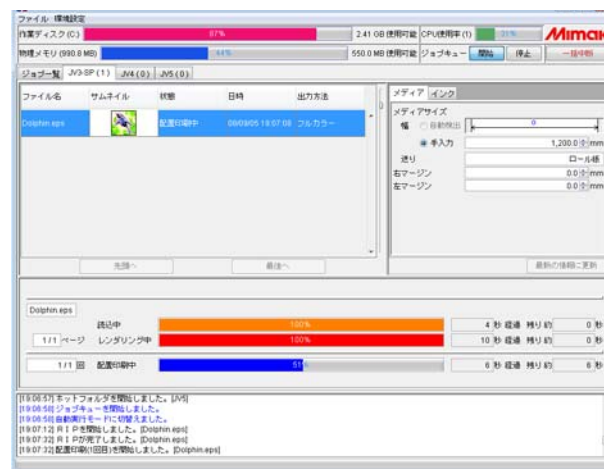
1 “ジョブ一覧”より出力するジョブを選択します。

マウスの右ボタンをクリックし、ポップアップメニューから“RIP 後印刷”を選択します。



2 ジョブの出力先プリンタ実行中ジョブ画面の“進行状況ビュー”に処理状態を表示します。

“配置印刷中”のインジケータが動き始めると、印刷を開始します。



- 複数ジョブが処理中の場合、ジョブを選択するとそれぞれの処理状況を確認できます。
- 初期設定では“RIP 後印刷”の後に RIP 済みデータを残します。ディスクの空き容量が少なくなってきたなど RIP 済みデータを残したくない場合、オプションの“ジョブ制御”メニュー (P. 117) で、RIP 済みデータを削除するように設定を変更することができます。

RIP のみ

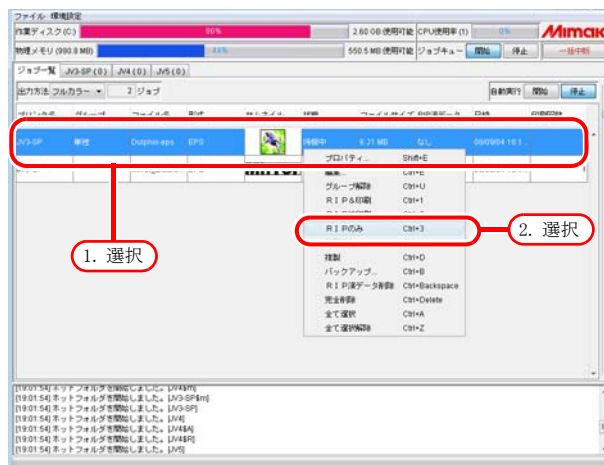
RIP 処理のみ行います。

RIP 処理後、“ジョブ一覧”の“RIP 済データ”欄に“あり”と表示します。

重要! MRL ジョブは“RIP のみ”はできません。

1 “ジョブ一覧”より出力するジョブを選択します。

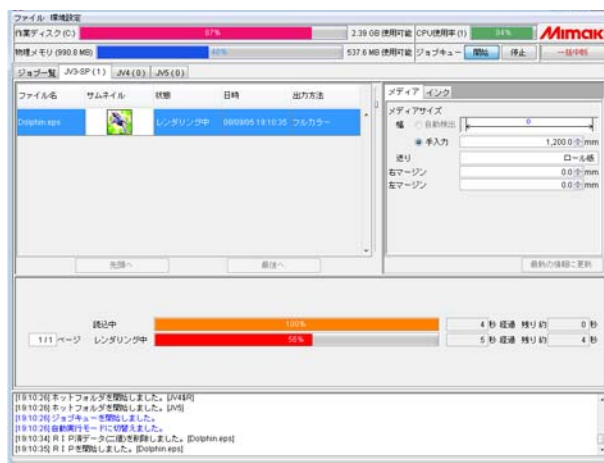
マウスを右クリックし、ポップアップメニューから“RIP のみ”を選択します。



2 ジョブの出力先プリンタ実行中ジョブ画面の“進行状況ビュー”に処理状態を表示します。



複数のジョブを処理している場合、ジョブを選択するとそれぞれの処理状態を確認できます。



印刷のみ

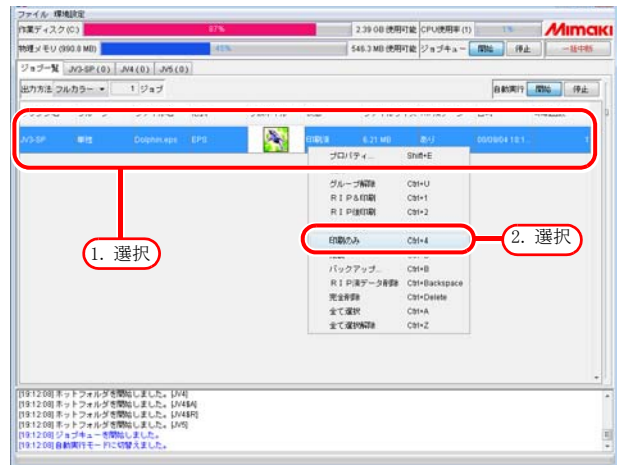
RIP 済みデータがある場合に使用できます。

重要!

- RIP 済みデータがない場合、“印刷のみ” はできません。
- グループ化しているジョブの場合、グループに含まれる全てのジョブの RIP 済みデータが必要です。
- タイリングジョブの場合、作図タイル指定された全てのタイルの RIP 済みデータが必要です。
- 複数ページジョブの場合、作図指定された全てのページの RIP 済みデータが必要です。
- アプリ分版ジョブの場合、作図指定された全ての版の RIP 済みデータが必要です。

1 “ジョブ一覧”より出力するRIP済みのジョブを選択します。
“RIP 済みデータ”欄に“あり”と表示のあるジョブを選択します。

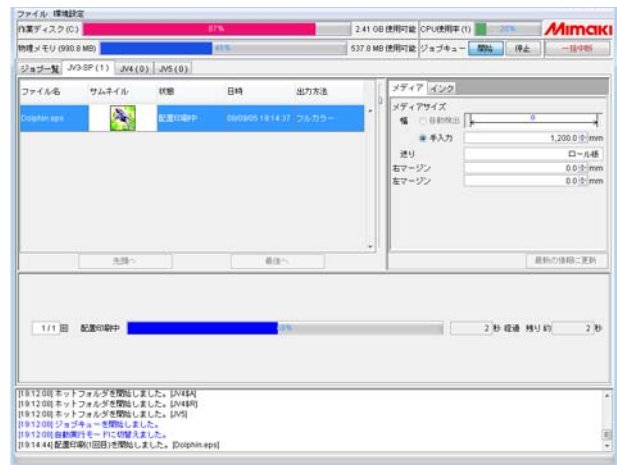
マウスの右ボタンをクリックし、ポップアップメニューから“印刷のみ”を選択します。



2 ジョブの出力先プリンタ実行中ジョブ画面の“進行状況ビュー”に処理状態を表示します。



複数のジョブを処理している場合、ジョブを選択するとそれぞれの処理状況を確認できます。



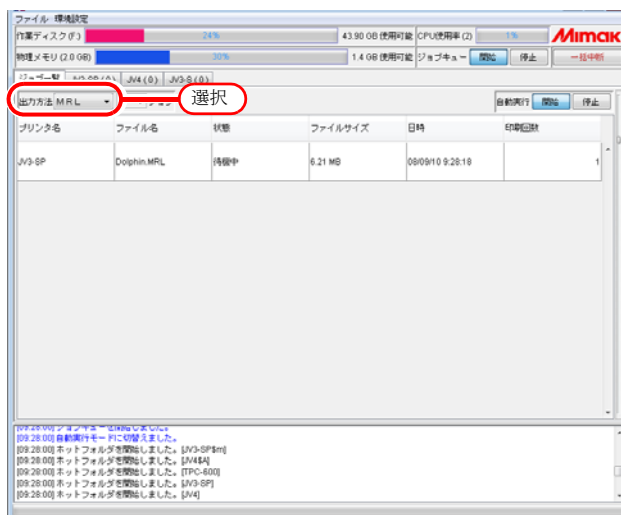
MRL データの出力

MRL コマンドファイルは、ミマキエンジニアリング製プリンタが受信し印刷できるデータファイルです。

RasterLinkPro5 以外の RIP で作成した MRL コマンドファイルを、プリンタに送信し印刷することができます。

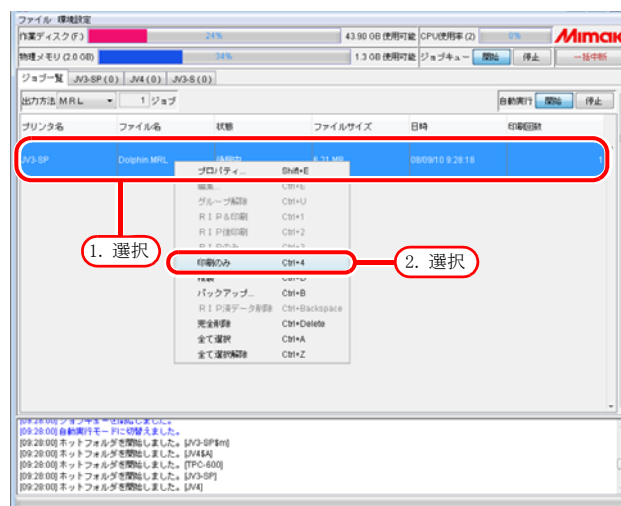
MRL コマンドファイルの出力は、次の手順で行います。

- 1 “ジョブ一覧”の“出力方法”を“MRL”にします。



- 2 “ジョブ一覧”より出力するジョブを選択します。

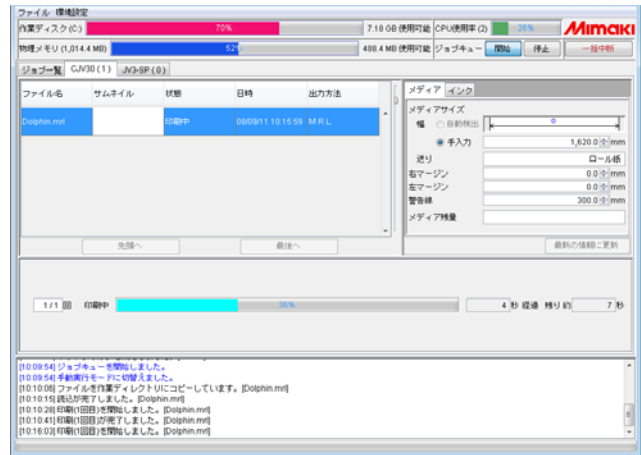
マウスを右クリックし、ポップアップメニューから“印刷のみ”を選択します。



3 ジョブの出力先プリンタ実行中ジョブ画面の“進行状況ビュー”に処理状態を表示します。



- MRL ジョブはサムネイルを表示しません。
- 複数のジョブを処理している場合、ジョブを選択するとそれぞれの処理状況を確認できます。



マルチファンクションデータの出力

印刷とカッティングを備えたマルチファンクションプリンタへ出力します。
ファンクションの種類により、可能な出力方法が異なります。

Print & Cut ファンクションのジョブ

- RIP &印刷
- RIP 後印刷
- RIP のみ
- 印刷のみ
- RIP &印刷後カット
- RIP 後印刷後カット
- 印刷後カット
- カットのみ

Print ファンクションのジョブ

- RIP &印刷
- RIP 後印刷
- RIP のみ
- 印刷のみ

Cut ファンクションのジョブ

- カットのみ

RIP &印刷、RIP 後印刷、RIP のみ、印刷のみはフルカラージョブの出力方法と同じです。
フルカラーの出力をご参照ください。

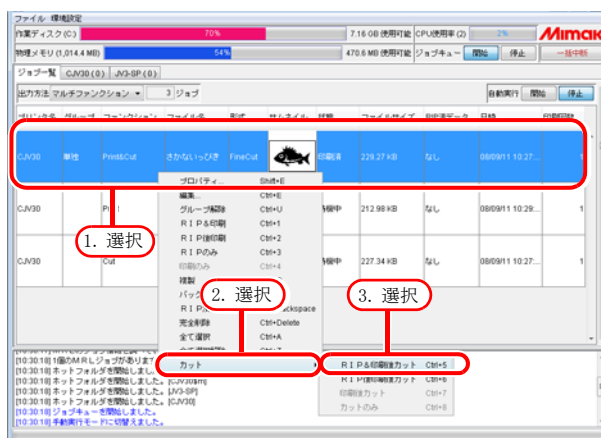
RIP &印刷後カット

RIP と印刷が同時に行われます。印刷終了後、カットを実行します。

1 “ジョブ一覧”より出力するジョブを選択します。

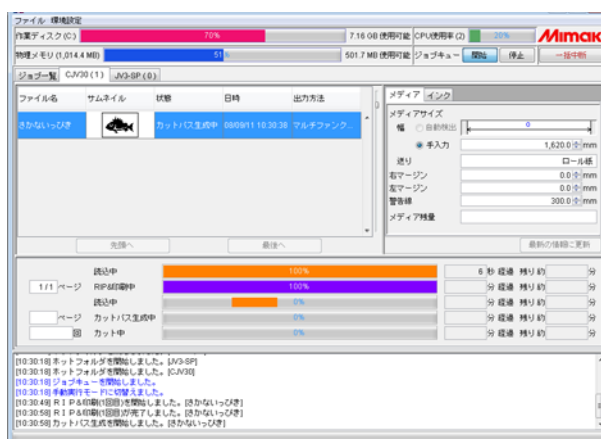
マウスの右ボタンをクリックし、ポップアップメニューから“カット”を選択します。

サブメニューが表示されるので、“RIP &印刷後カット”を選択します。



2 ジョブの出力先プリンタ実行ジョブ画面の“進行状況ビュー”に処理状態を表示します。

“RIP &印刷中”のインジケータが動き始めると、印刷を開始します。

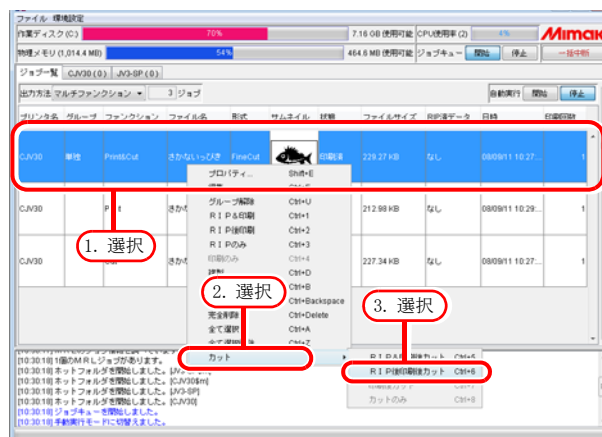


3 RIP &印刷が終了すると、カッティングが開始されます。

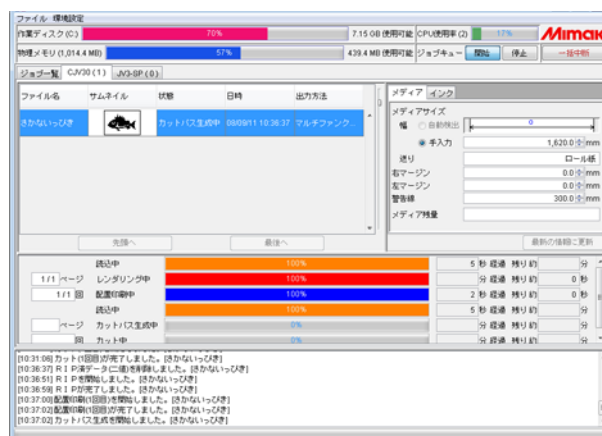
RIP 後印刷後カット

最初に RIP の処理だけが実行されます。RIP 処理終了後、印刷が開始します。印刷終了後、カットが実行されます。

- 1 “ジョブ一覧”より出力するジョブを選択します。
マウスの右ボタンをクリックし、ポップアップメニューから“カット”を選択します。
サブメニューが表示されるので、“RIP 後印刷後カット”を選択します。



- 2 ジョブの出力先プリンタ実行ジョブ画面の“進行状況ビュー”に処理状態を表示します。
“配置印刷中”のインジケータが動き始めると、印刷を開始します。



- 3 印刷が終了すると、カッティングが開始されます。

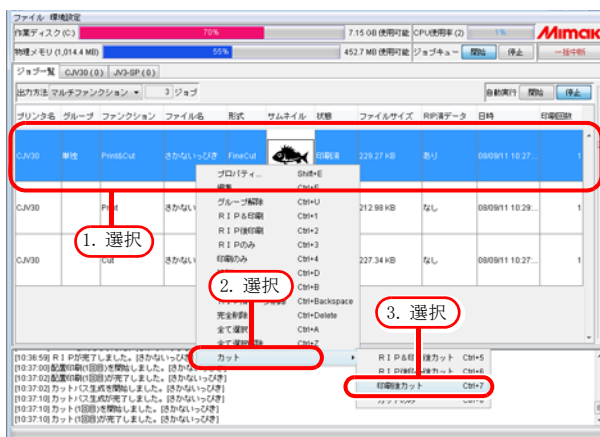
印刷後カット

印刷のみを実行し、印刷終了後、カットが開始されます。既に、RIP が実行され、RIP 済みデータが作られている時有効です。

1 “ジョブ一覧”より出力するジョブを選択します。

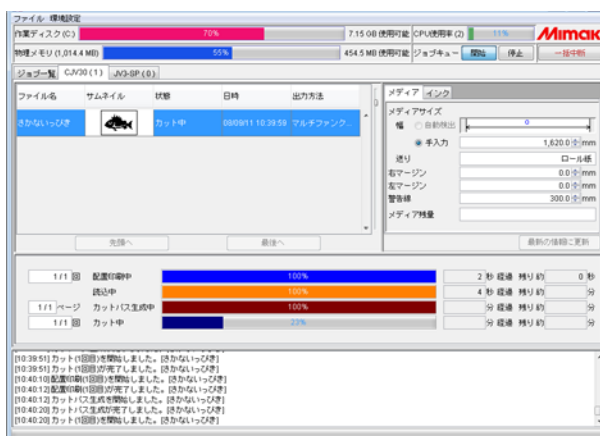
マウスの右ボタンをクリックし、ポップアップメニューから“カット”を選択します。

サブメニューが表示されるので、“印刷後カット”を選択します。



2 ジョブの出力先プリンタ実行ジョブ画面の“進行状況ビュー”に処理状態を表示します。

“配置印刷中”のインジケータが動き始めると、印刷を開始します。

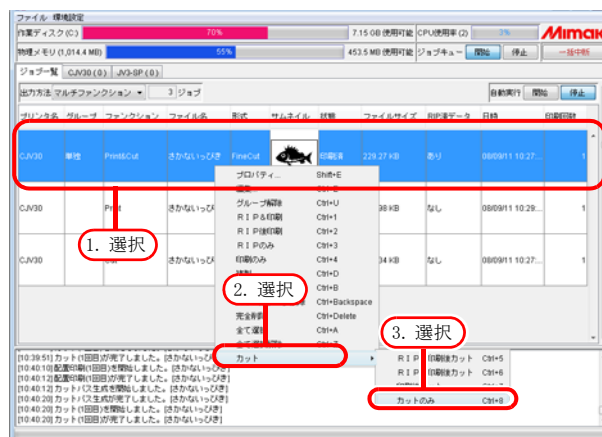


3 印刷が終了すると、カッティングが開始されます。

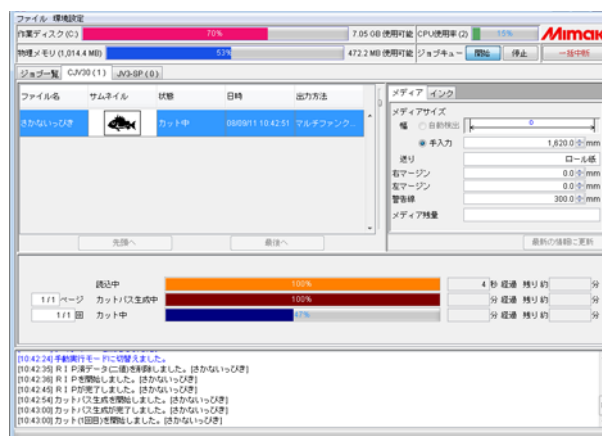
カットのみ

カットのみを実行します。ファンクションが“Print&Cut”のジョブは、既に RIP が実行され、RIP 済みデータが作られている時有効です。

- 1 “ジョブ一覧”より出力するジョブを選択します。
マウスの右ボタンをクリックし、ポップアップメニューから“カット”を選択します。
サブメニューが表示されるので、“カットのみ”を選択します。



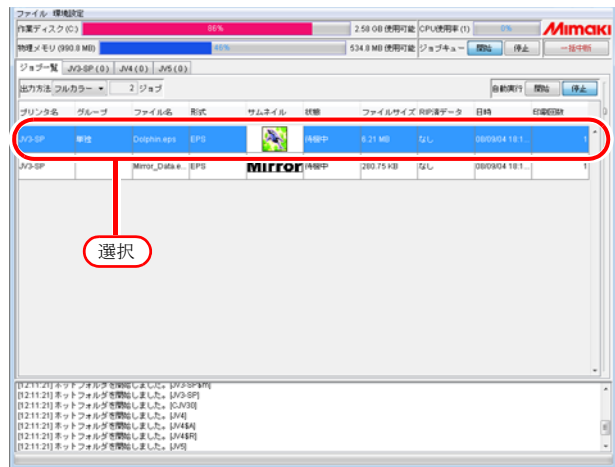
- 2 ジョブの出力先プリンタ実行ジョブ画面の“進行状況ビュー”に処理状態を表示します。
“カット”のインジケータが動き始めると、カットを開始します。



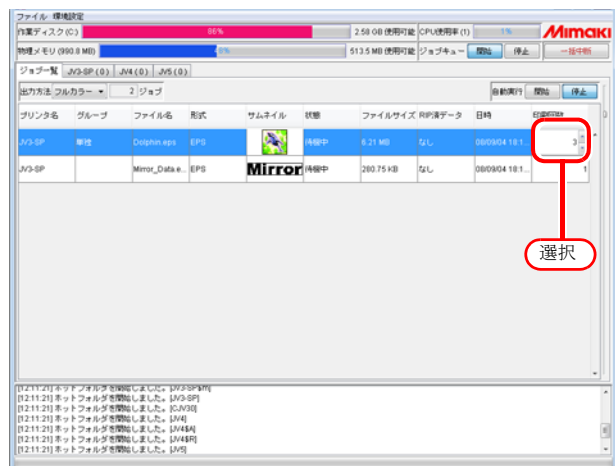
印刷回数を指定して印刷

画像編集を行ったデータをコピー印刷します。

- 1 “ジョブ一覧”より、出力するジョブを選択します。



- 2 “印刷回数”をクリックし、印刷回数を設定します。
“印刷回数”を変更したら、
 キーを押して値を確定してください。



- 3 印刷します。(☞ P.82)



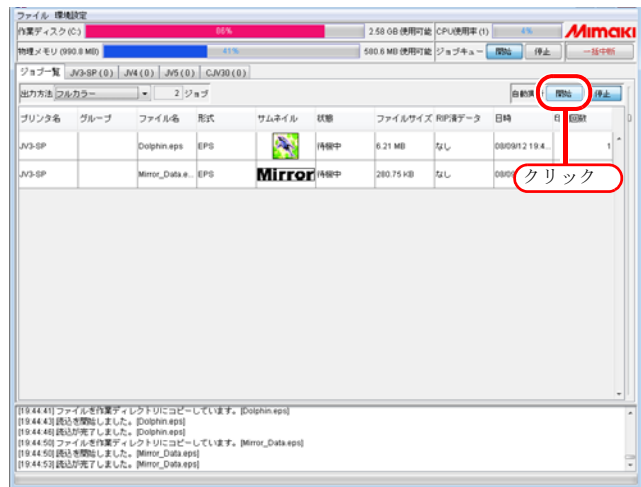
印刷回数を“2”以上に指定した場合、“RIP&印刷”はできません。

RIP・出力処理を自動で実行する

1 自動実行の **開始** ボタンをクリックします。

重要!

- 既にジョブ一覧にスプールされたジョブは自動実行できません。
- 新規にスプールしたジョブから自動実行が適用されます。
- 自動実行中にエラーが発生した場合、自動的にジョブキューを停止します。



2 RasterLinkPro5 にジョブをスプールします。

ホットフォルダ出力、ドライバ出力、FineCut から RasterLink 出力、SimpleStudio から RasterLink 出力を実行します。(P.65) スプールされたジョブが指定された実行方法で、自動で実行されます。

停止 ボタンをクリックすると、自動実行が停止されます。

重要!

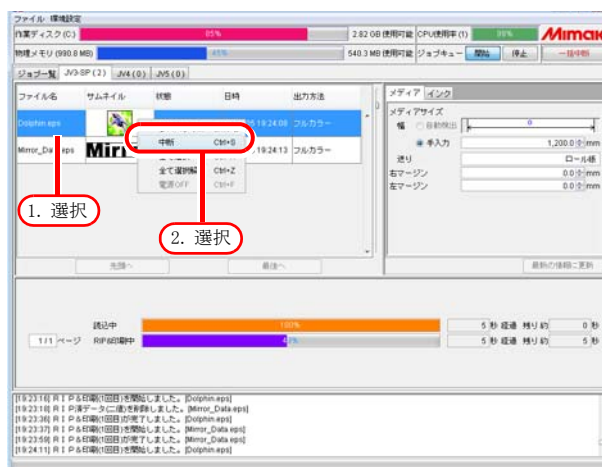
グループ化、タイリング、パネリング、コピーを指定して自動実行することはできません。ただし、FineCut または SimpleStudio でコピー数を指定して RasterLink 出力したジョブは、指定したコピー数で実行可能です。

RIP・出力処理を中断する

1 “実行中ジョブ”から処理を中断したいジョブを選択します。

マウスを右クリックし、ポップアップメニューから“中断”を選択します。

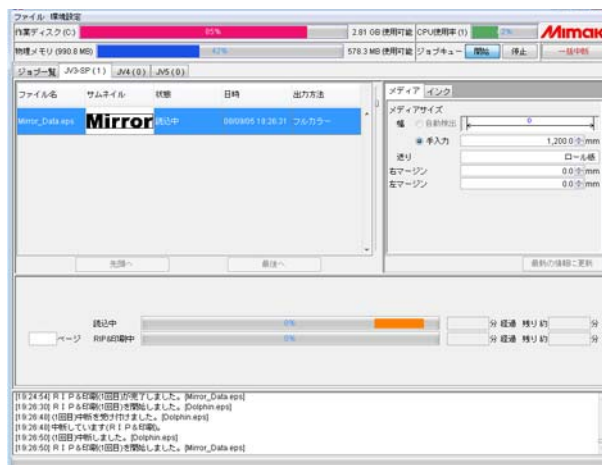
または **Ctrl** キーを押しながら **S** キーを押します。



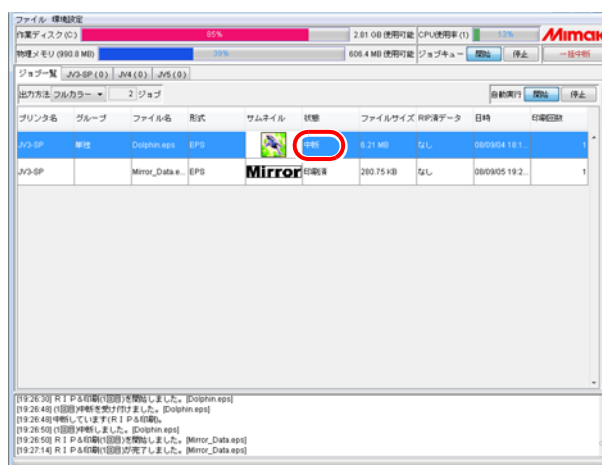
2 しばらくすると“実行中ジョブ”からジョブが消えます。



すぐに出力を中断する場合は、プリンタの“データクリア”機能を数回実行してください。



“ジョブ一覧”に戻ると、“状態”欄に“中断”と表示します。



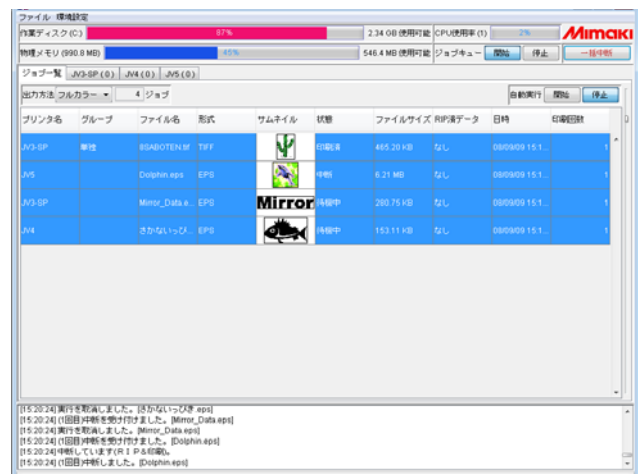
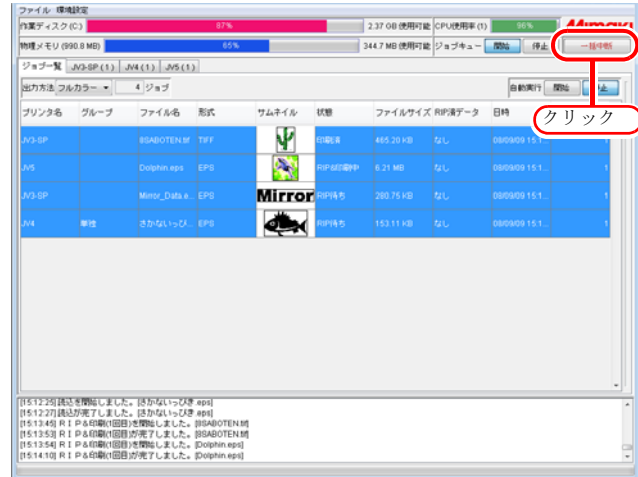
重要!

- 出力を中断した場合、プリンタの“データクリア”機能を数回実行してください。“データクリア”機能を実行しないと、次の出力時に正常な出力結果を得られない場合があります。
- 印刷回数を“2”以上に設定している場合、中断した回数以後の印刷は行いません。

RIP・出力処理を一括中断する

複数のプリンタで印刷している場合、すべてのプリンタの実行中および実行待ち状態のジョブを、一回の操作で中断することができます。

ジョブ一覧画面で **一括中断** ボタンをクリックします。



カラーチャートを作成する

Raster Link Pro5 では、次の 3 種類のカラーチャートを作成できます。

- RGB で指定した色のカラーチャートを作成できます。
- CMYK で指定した色のカラーチャートを作成できます。
- 特色インクを使って印刷を行うときのカラーチャートを作成します。

カラーチャートについて

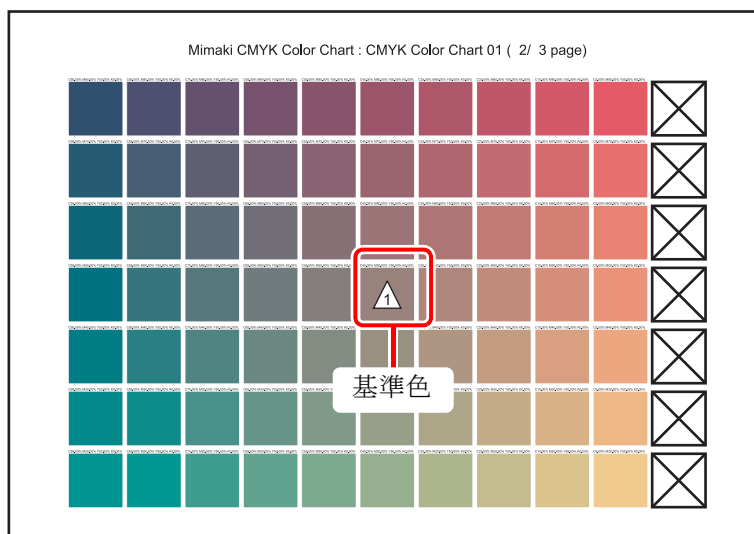
カラーチャートとは、指定した色 (基準色) を中心に、ある一定の基準で色成分を変化させた色見本を表にしたものです。



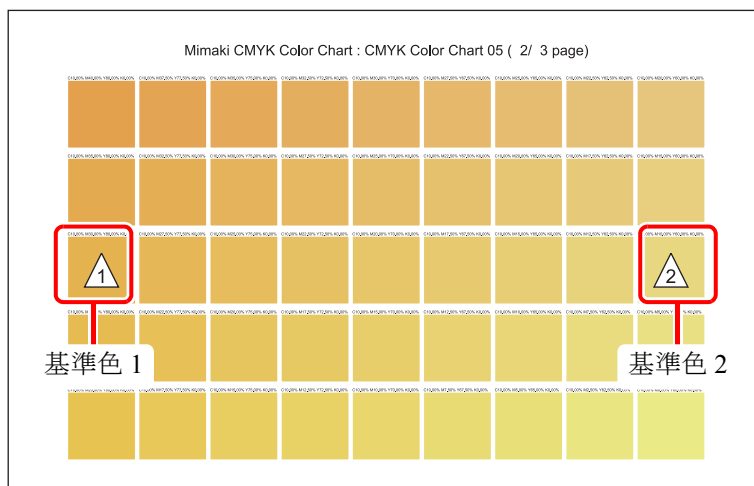
- 基準色を 2 つまたは 4 つ設定することもできます。その場合、2 つ (または 4 つ) の基準色間の色成分の変化をカラーチャートにして作成できます。

カラーチャートの例

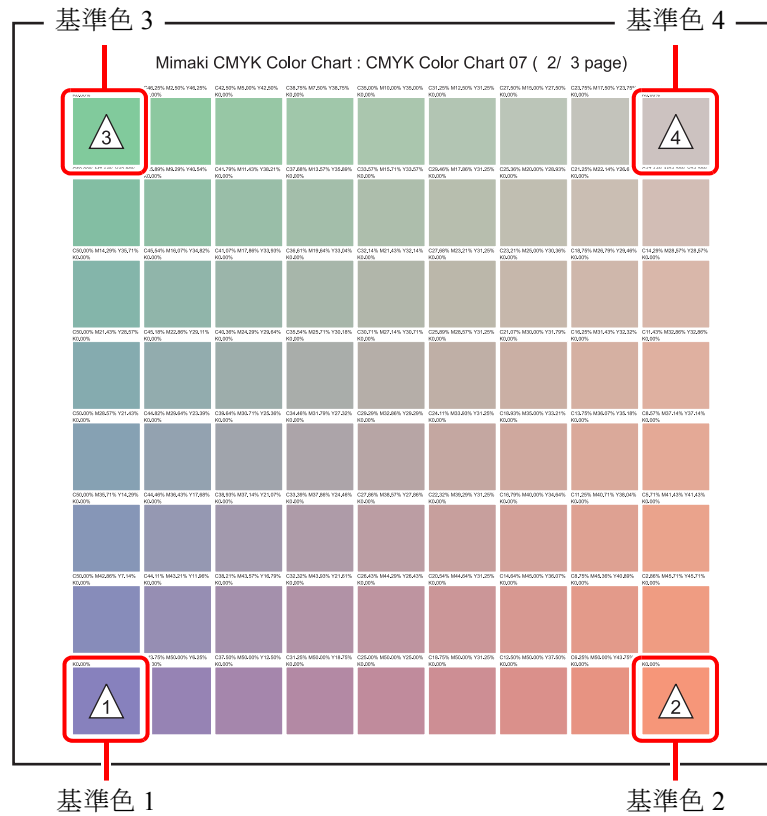
基準色を 1 つにしたとき



基準色を 2 つにしたとき



基準色を4つにしたとき



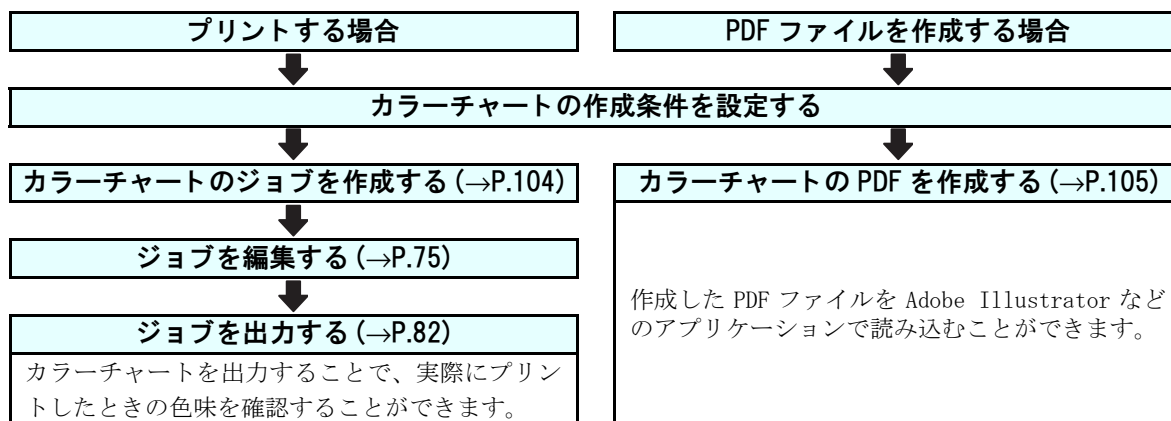
RGB または CMYK のカラーチャートを作成する

RGB または CMYK で指定した色のカラーチャートを作成できます。

RGB/CMYK カラーチャートの活用方法

RGB/CMYK カラーチャートの作成フローと活用方法を紹介します。

作成したチャートをプリンタで出力して、実際の色味を確認したり、カラーチャートの PDF ファイルを作成して Adobe Illustrator などのアプリケーションで読み込むことができます。



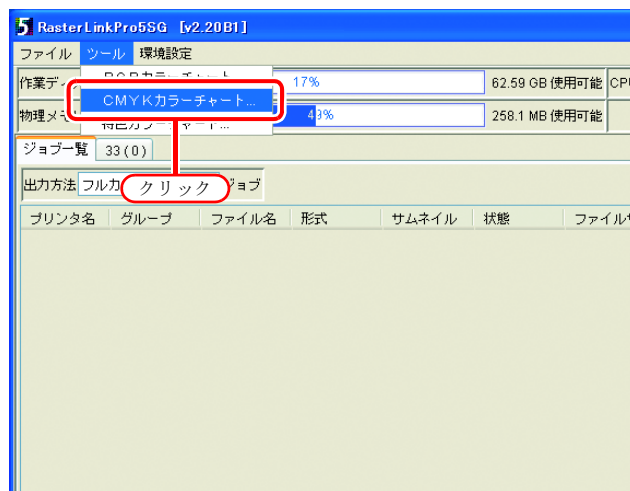
カラーチャートの作成条件を指定する

ここでは、CMYK カラーチャートでの指定のしかたを説明します。

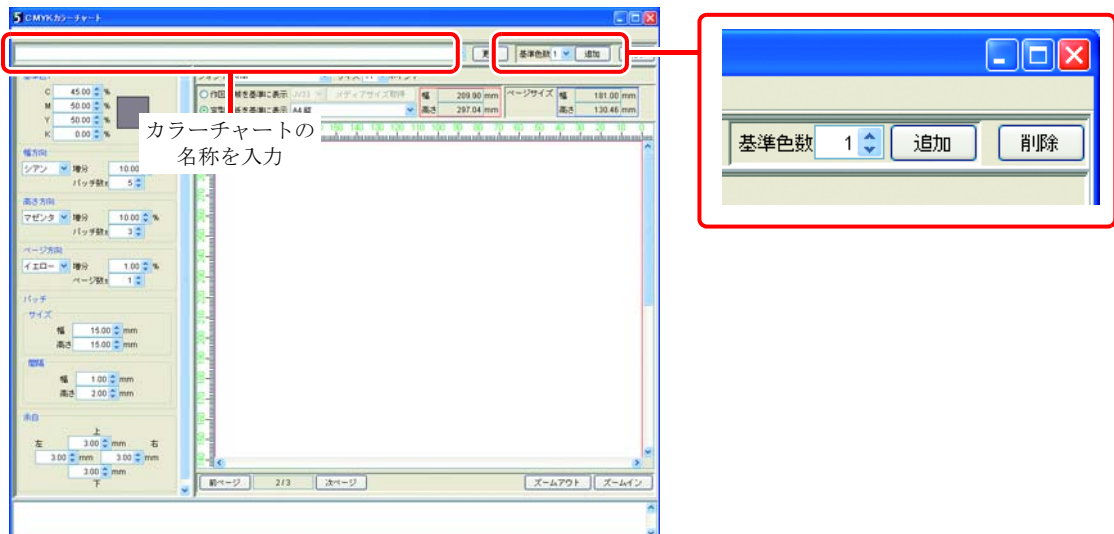
- 1 RasterLinkPro5 のメニューから、
[ツール]-[CMYK カラーチャート]
を選択します。



- RGB カラーチャートの作成条件を指定する場合は、[ツール]-[RGB カラーチャート]を選択してください。



2 “カラーチャートの名称”と“基準色数”を指定し、追加 ボタンをクリックします。



重要! 追加 ボタンクリック後に基準色数を変更することはできません。まず、基準色数を決めてから追加 ボタンをクリックしてください。

3 カラーチャートの作成条件を設定します。
カラーチャート作成条件では、次の各項目を設定してください。

基準色が“1”の場合

基準色の色成分を CMYK で指定します。

現在の基準色の色を表示します。クリックすると、カラー選択ダイアログが表示されます。

基準色からの色成分の変化量と、変化させる個数を設定します。RasterLinkPro5 では、3つの色成分で変化させたカラーチャートを作成できます。

隣り合うカラーパッチの色成分の変化量を設定します。

基準色を中心に左右（または上下）に追加するパッチの数を指定します。

ページ毎の色成分の変化量を設定します。

基準ページの前後のページ数を指定します。

クリックすると、変化させる色が選択できます。

カラーパッチのサイズと間隔を設定します。

ページの上下左右からの余白を設定します。

フォント：カラーチャートのタイトルと、カラーパッチの上にあるカラー成分値情報で使用するフォントを設定
サイズ：タイトルで使用するフォントサイズを設定

プレビューの表示方法を指定します。

プリンタの作図領域または定型用紙のサイズを表示します（プレビュー上の赤四角）。

カラーチャートのサイズを表示します。（プレビュー上の青四角）赤四角より大きくならないようにしてください

色成分が範囲外になったときに表示 (100%以上など)

基準色

プレビュー表示するページを切り替えます。

プレビュー表示を拡大/縮小します。

基準色が“2”の場合

- ここでは、基準色1と指定方法が異なる項目のみ説明します。
パッチサイズの設定など、基準色1と共通する項目については、前ページの説明をご参照ください。

基準色1、2の色成分をCMYKで指定します。

現在の基準色の色を表示します。クリックすると、カラー選択ダイアログが表示されます。

基準色1と2の間のパッチ数を設定します。設定したパッチ数に従って、自動的に色成分が変化します。

上下のカラーパッチの色成分の変化量を設定します。

基準色を中心に上下に追加するパッチの数を指定します。

ページ毎の色成分の変化量を設定します。

基準ページの前後のページ数を指定します。クリックすると、変化させる色が選択できます。

基準色が“4”の場合

- ここでは、基準色1と指定方法が異なる項目のみ説明します。
パッチサイズの設定など、基準色1と共通する項目については、前ページの説明をご参照ください。

基準色の色成分をCMYKで指定します。

現在の基準色の色を表示します。クリックすると、カラー選択ダイアログが表示されます。

基準色間の高さ方向に配置するパッチ数を設定します。設定したパッチ数に従って、自動的に色成分が変化します。

基準色間の幅方向に配置するパッチ数を設定します。設定したパッチ数に従って、自動的に色成分が変化します。

● プレビュー画面を使って、基準色を変更することができます。

1. 新しく基準色にしたいカラーパッチ上にマウスを移動し、右クリックします。
2. “基準1に適用” をクリックします。

右クリックして、新しい基準色として設定します。

4 **更新** ボタンをクリックして、カラーチャートの設定を保存します。
保存した作成条件は、後で呼び出すことができます。

● 不要になった作成条件を削除することができます。

1. 削除する作成条件を呼び出します。
2. **削除** ボタンをクリックします。

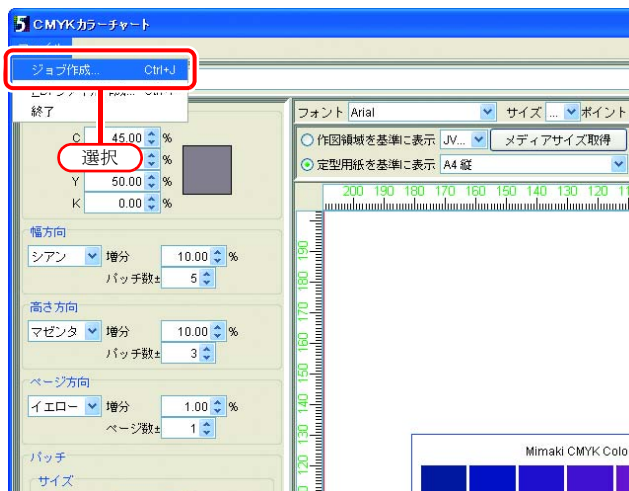
右端の【▼】をクリックして、削除したい作成条件を呼び出します。

クリックして削除します。

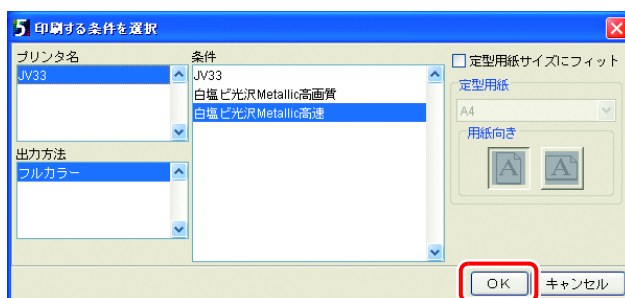
カラーチャートのジョブを作成する

作成したカラーチャートをプリンタで出力するために印刷ジョブを作成します。

- 1 カラーチャートの[ファイル]-[ジョブ作成]メニューを選択します。
“印刷する条件を選択”ダイアログを表示します。



- 2 印刷するプリンタと[条件セット]を選択します。



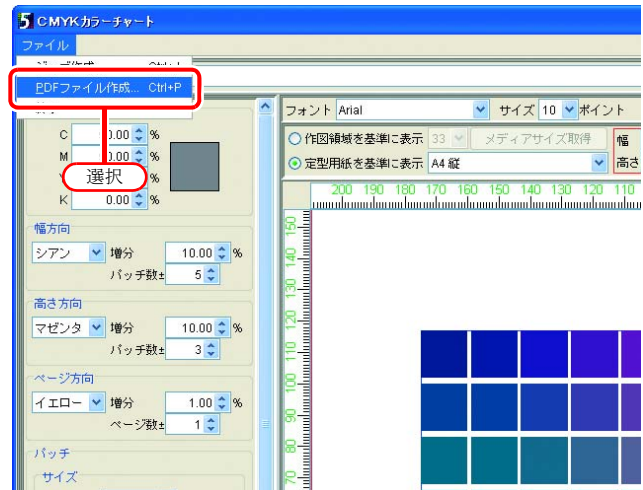
- 3 ボタンをクリックします。
RasterLinkPro5にカラーチャートのジョブが登録されます。
登録したジョブの編集・出力については、P.75、P.82を参照してください。
“定型用紙サイズにフィット”を指定すると、印刷ジョブのページサイズを指定した用紙の大きさに合わせて自動的に拡大/縮小させることができます。

RGB/CMYK カラーチャートの PDF ファイルを作成する

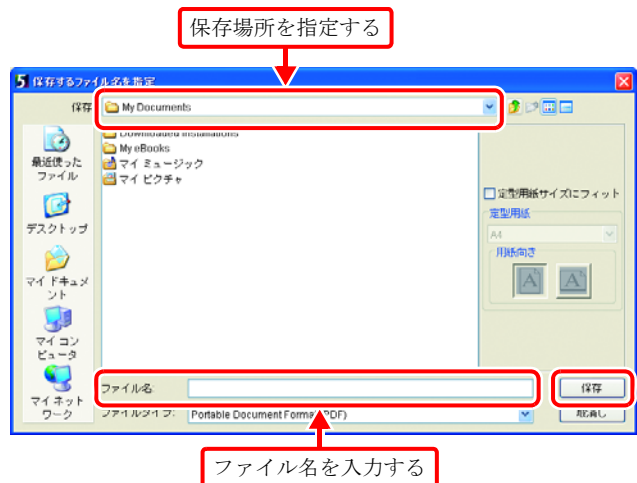
重要!

- 特色カラーチャートの PDF ファイルは作成できません。

- 1** カラーチャートの [ファイル]-[PDF ファイル作成] メニューを選択します。
“保存するファイル名を指定”ダイアログを表示します。



- 2** PDF ファイルの保存場所とファイル名を指定します。
“定型用紙サイズにフィット”を指定すると、PDF ファイルのページサイズを指定した用紙の大きさに合わせて自動的に拡大 / 縮小させることができます。



特色カラーチャートを作成する

プリンタにセットしている特色インクを使用したカラーチャートを作成して、色置換で出力するスポットカラーの色置換情報を登録することができます。



- CMYK インクのみで設定した色に対しても、色置換で出力する色置換情報を登録することができます。

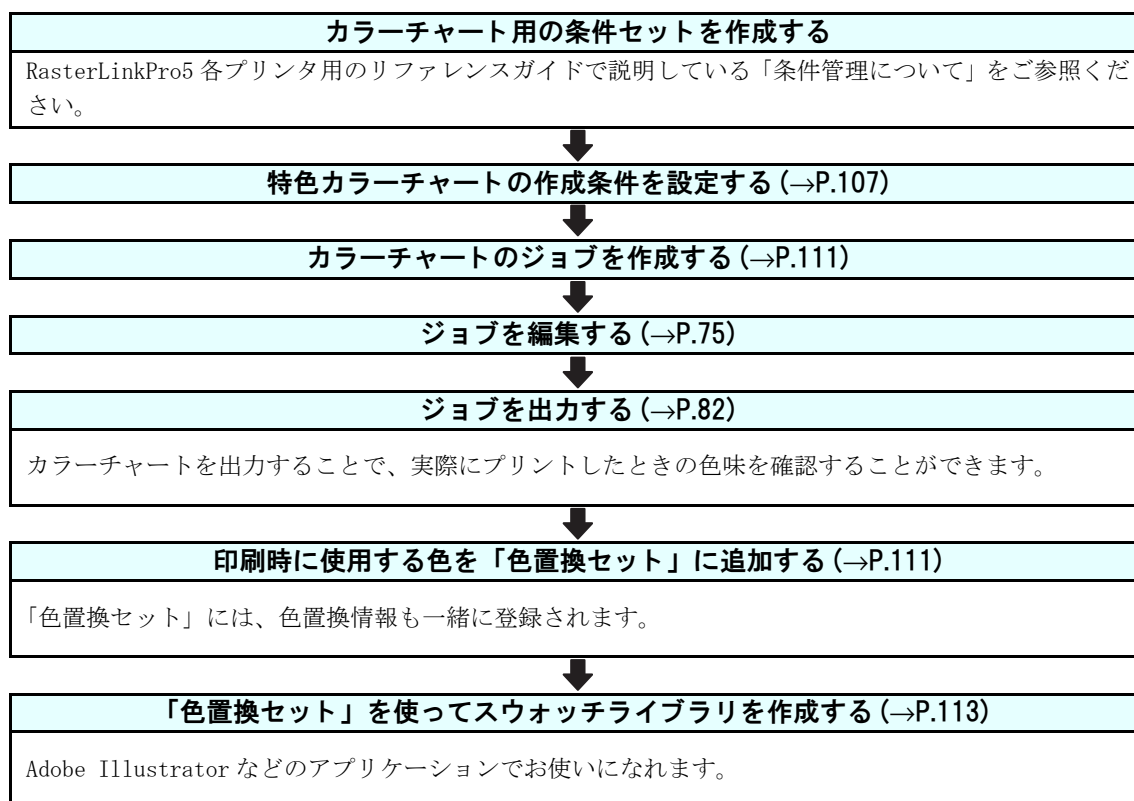


- 特色カラーチャートは、PC とプリンタが接続されていないと作成できません。最初に PC とプリンタが接続されているかを確認してから作成してください。
- JV22 を Sb51 インクのインクセット “BMYKLbLm” でお使いの場合、特色カラーチャートを作成することはできません。

特色カラーチャートの活用方法

特色カラーチャートの作成フローと活用方法を紹介します。

作成したチャートをプリンタで出力して、実際に印刷するときの色味を決定することができます。また、印刷するとき使用する色を「色置換セット」に登録しておけば、色置換セットを Adobe Illustrator などを使用するスウォッチライブラリに変換することができます。

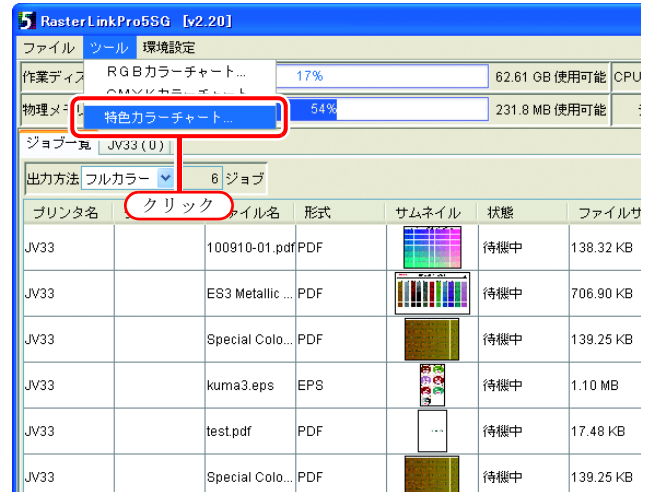


特色カラーチャート用の条件セットを作成する

特色カラーチャートを印刷するためには、事前に [条件セット] を作成しておく必要があります。[条件セット] の作成方法は、各プリンタ用のリファレンスガイドで説明している「条件管理について」をご参照ください。

特色カラーチャートの作成条件を指定する

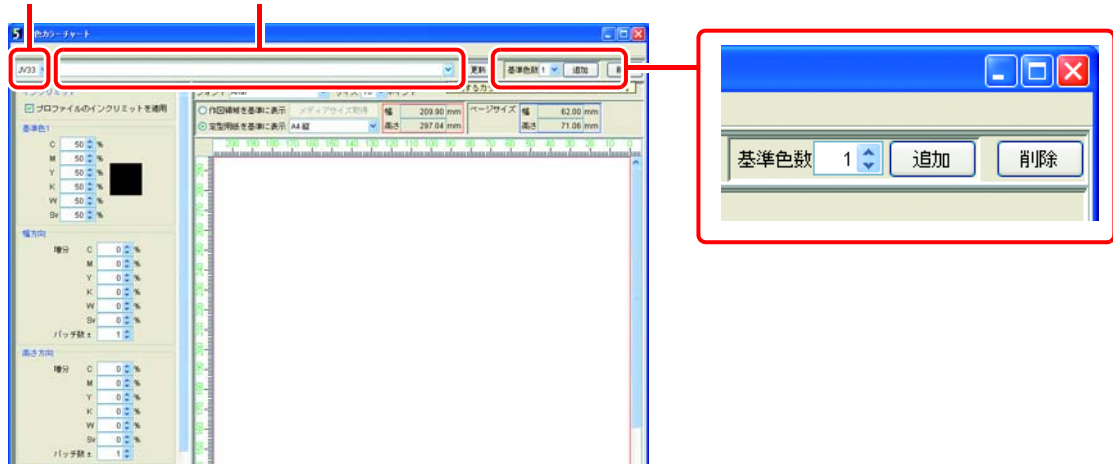
1 RasterLinkPro5 のメニューから、
[ツール]-[特色カラーチャート] を
選択します。



2 “印刷するプリンタ”“カラーチャートの名称”“基準色数”の3項目を指定し、**追加** ボタンをクリックします。

プリンタを
選択

カラーチャートの
名称を入力

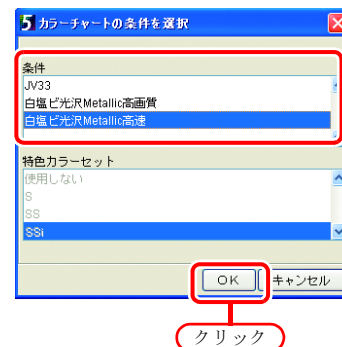


重要!

- **追加** ボタンクリック後に基準色数を変更することはできません。まず、基準色数を決めてから **追加** ボタンをクリックしてください。

3 カラーチャートを印刷する条件を選択して、**OK** ボタンをクリック
します。

“条件”リストには条件管理で登録されている条件セットが表示されます。
カラーチャートを印刷する条件セットを選択すると、条件セットで登録済みの特色カラーセットが自動的に選択されます。



4 カラーチャートの作成条件を設定します。

メタリックインクを使用する場合、プレビュー画面ではカラーパッチがグラデーションの状態が表示されます。

カラーチャート作成条件では、次の各項目を設定してください。

基準色が“1”の場合

インクリミット
 プロファイルのインクリミットを適用

“**プロファイルのインクリミットを適用**”についてチェックしておけば、印刷時のインクあふれを緩和します。

- 色あふれを緩和させるため、自動的に設定値よりも低い値に変換して印刷を行います。(100%を指定しても、それよりも低い値で印刷を行う。)

チェックを外すと

- 指定した色成分値通りに印刷を行います。インクあふれによるにじみなどの印刷不良が出やすくなります。

できるだけ“**プロファイルのインクリミットを適用**”をチェックした状態でお使いください。

基準色

C: 0.0%
M: 21.0%
Y: 92.0%
K: 0.0%
W: 0.0%
Sv: 95.0%

現在の基準色の色成分を表示します。クリックすると、[基準色] 選択ダイアログが表示されます。

基準色の色成分を指定します。

幅方向

増分: C: 0.0%, M: 2.0%, Y: 0.0%, K: 0.0%, W: 0.0%, Sv: 0.0%

パッチ数: 6

隣り合うカラーパッチの色成分の変化量を設定します。

基準色を中心に左右に追加するパッチの数を指定します。

高さ方向

増分: C: 0.0%, M: 0.0%, Y: 2.0%, K: 0.0%, W: 0.0%, Sv: 0.0%

パッチ数: 4

上下のカラーパッチの色成分の変化量を設定します。

基準色を中心に上下に追加するパッチの数を指定します。

ページ方向

増分: C: 0.0%, M: 0.0%, Y: 1.0%, K: 0.0%, W: 0.0%, Sv: 0.0%

ページ数: 1

ページ毎の色成分の変化量を設定します。

基準ページの前後のページ数を指定します。

パッチ

サイズ

幅: 14.00 mm
高さ: 14.00 mm

間隔

幅: 1.00 mm
高さ: 2.00 mm

カラーパッチのサイズと間隔を設定します。

余白

上: 3.00 mm
下: 3.00 mm
左: 3.00 mm
右: 3.00 mm

ページの上下左右からの余白を設定します。

フォント：カラーチャートのタイトルと、カラーパッチの上にあるカラー成分値情報で使用するフォントを設定
 サイズ：タイトルで使用するフォントサイズを設定

プレビューの表示方法を指定します。

プリンタの作図領域または定型用紙のサイズを表示します (プレビュー上の赤四角)。

カラーチャートのサイズを表示します。(プレビュー上の青四角) 赤四角より大きくならないようにしてください

プレビュー表示するページを切り替えます。

プレビュー表示を拡大/縮小します。

重要!

- 指定された特色カラーセットのインクが3スロット以上あるときは、“プロファイルのインクリミットを適用”のチェックを外すことはできません。
- ジョブエディタの[カラー編集]-[色置換]の[プロファイルのインクリミットを適用]の設定においても同様です。

基準色が“2”の場合

- ここでは、基準色1と指定方法が異なる項目のみ説明します。
パッチサイズの設定など、基準色1と共通する項目については、前ページの説明をご参照ください。

基準色1、2の色成分を指定します。

現在の基準色の色を表示します。クリックすると、[基準色] 選択ダイアログが表示されます。

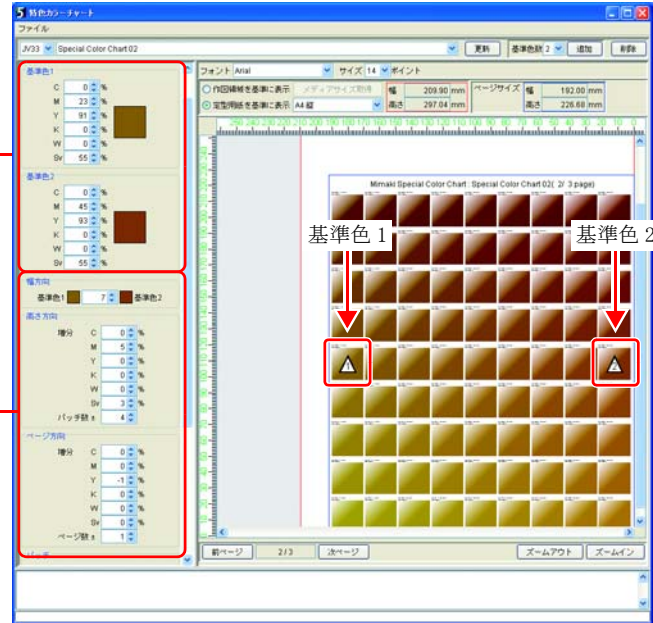
基準色1と2の間のパッチ数を設定します。設定したパッチ数に従って、自動的に色成分が変化します。

上下のカラーパッチの色成分の変化量を設定します。

基準色を中心に上下に追加するパッチの数を指定します。

ページ毎の色成分の変化量を設定します。

基準ページの前後のページ数を指定します。

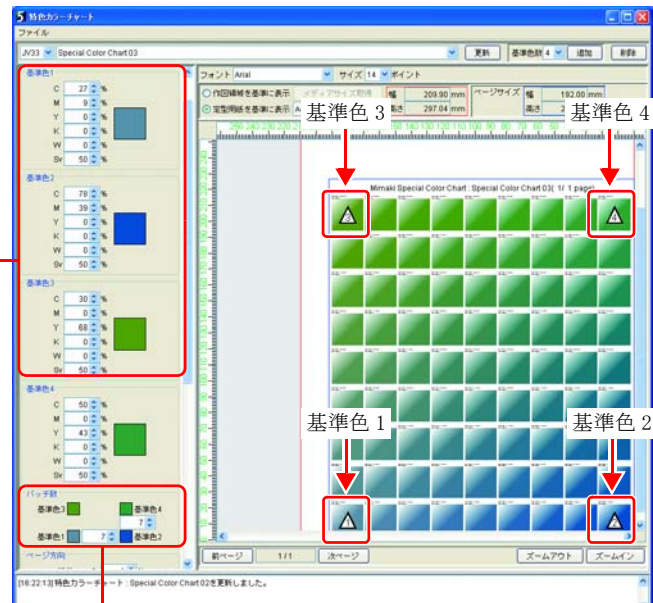


基準色が“4”の場合

- ここでは、基準色1と指定方法が異なる項目のみ説明します。
パッチサイズの設定など、基準色1と共通する項目については、前ページの説明をご参照ください。

基準色の色成分を指定します。

現在の基準色の色を表示します。クリックすると、[基準色] 選択ダイアログが表示されます。

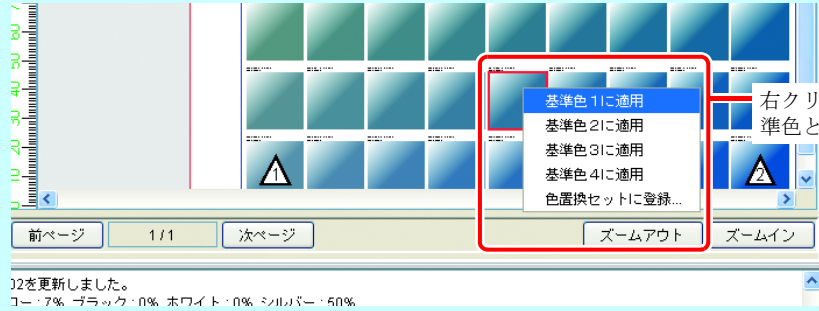


基準色間の高さ方向に配置するパッチ数を設定します。設定したパッチ数に従って、自動的に色成分が変化します。

基準色間の幅方向に配置するパッチ数を設定します。設定したパッチ数に従って、自動的に色成分が変化します。



- プレビュー画面を使って、基準色を変更することができます。
 1. 新しく基準色にしたいカラーパッチ上にマウスを移動し、右クリックします。
 2. “基準 1 に適用” をクリックします。



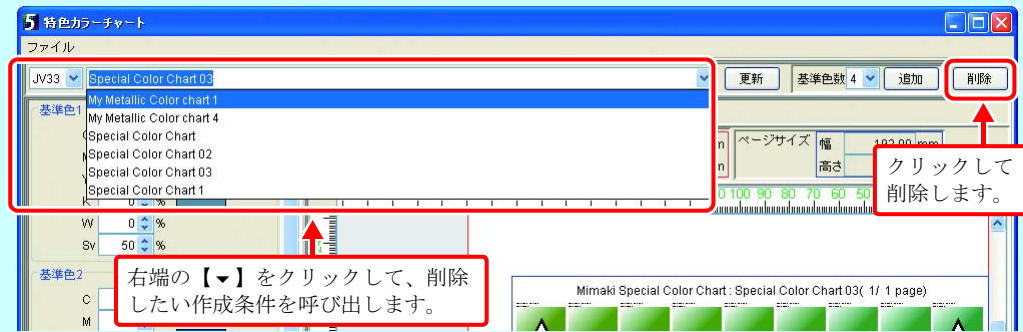
5

更新 ボタンをクリックして、カラーチャートの設定を保存します。

保存した作成条件は、後で呼び出すことができます。



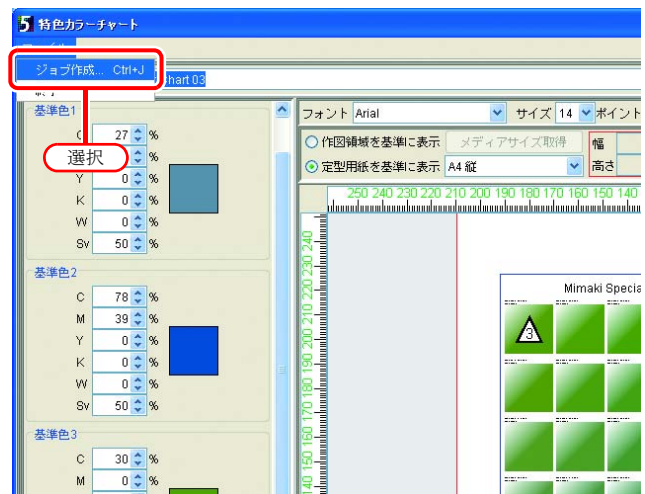
- 不要になった作成条件を削除することができます。
 1. 削除する作成条件を呼び出します。
 2. **削除** ボタンをクリックします。



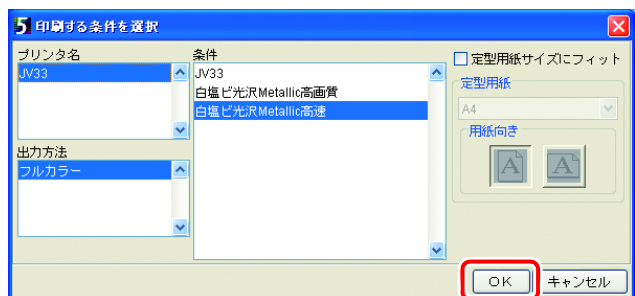
カラーチャートのジョブを作成する

作成したカラーチャートをプリンタで出力するために印刷ジョブを作成します。

- 1 カラーチャートの[ファイル]-[ジョブ作成]メニューを選択します。
“印刷する条件を選択”ダイアログを表示します。



- 2 印刷するプリンタと[条件セット]を選択します。
特色カラーチャートでは、プリンタの選択はできません。



- 3 ボタンをクリックします。
RasterLinkPro5 にカラーチャートのジョブが登録されます。
登録したジョブの編集・出力については、P.75、P.82 を参照してください。
“定型用紙サイズにフィット”を指定すると、印刷ジョブのページサイズを指定した用紙の大きさに合わせて自動的に拡大/縮小させることができます。

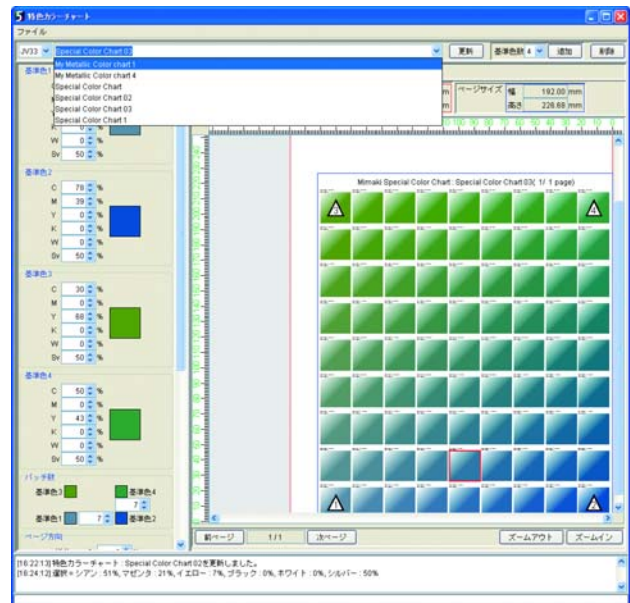
印刷時に使用する色を「色置換セット」に追加する

カラーチャートを出力して印刷時に使用する色を決定したら、決定した色を「色置換セット」に追加してください。



- 「色置換セット」には RasterLinkPro5 で色置換をするときに使用する「色変換情報」が含まれます。
- 「色置換セット」の内容でスウォッチライブラリを作成 (→P. 113) し、Adobe Illustrator などのアプリケーションで使用することができます。
- 作成されたスウォッチライブラリを使ったデータは、RasterLinkPro5 で色置換する際に色変換情報の指定をする必要はありません。選択された「色置換セット」に登録されている色変換情報が自動的に指定されます。

- 1 保存済みの作成条件を呼び出します。

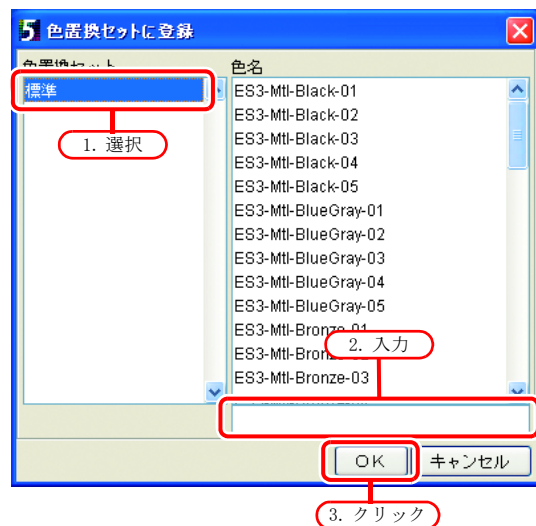


- 2 色置換セットに登録したいパッチ上で右クリックし、“色置換セットに登録”をクリックします。
“色置換セットに登録”ダイアログが表示されます。



- 3 登録先の色置換セットを選択します。

- 4 “色名”を入力し、 ボタンをクリックします。
決定した色の色置換セットが登録されます。
登録済みの色を変更する場合は、色名欄から変更する色を選択し、 ボタンをクリックしてください。



スウォッチライブラリを作成する

「色置換セット」に登録されている内容を使って、スウォッチライブラリを作成することができます。作成したスウォッチライブラリは、Adobe Illustrator などのアプリケーションでお使いになれます。

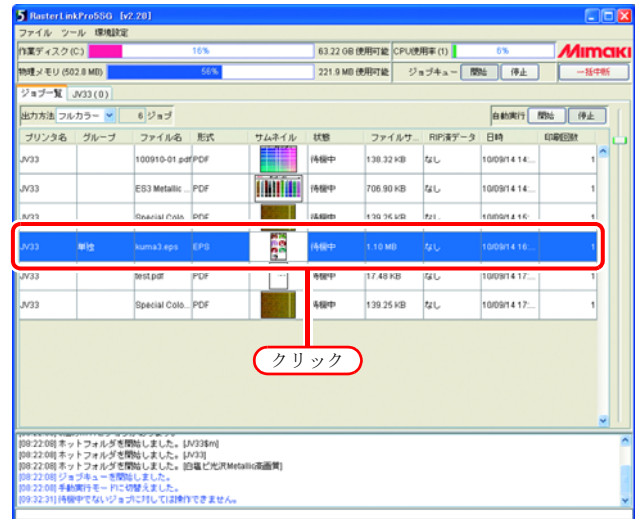
重要!

- スウォッチライブラリは、PC とプリンタが接続されていないと作成できません。最初に PC とプリンタが接続されているかを確認してから作成してください。

1 RasterLinkPro5 のジョブ一覧画面を表示させて、特色カラーチャート以外のジョブを選択します。

重要!

- 特色カラーチャートジョブは特殊なジョブのため、スウォッチライブラリを作成することができません。また、色置換の設定を変更することもできません。



2 選択したジョブの“ジョブエディタ”を表示させます。

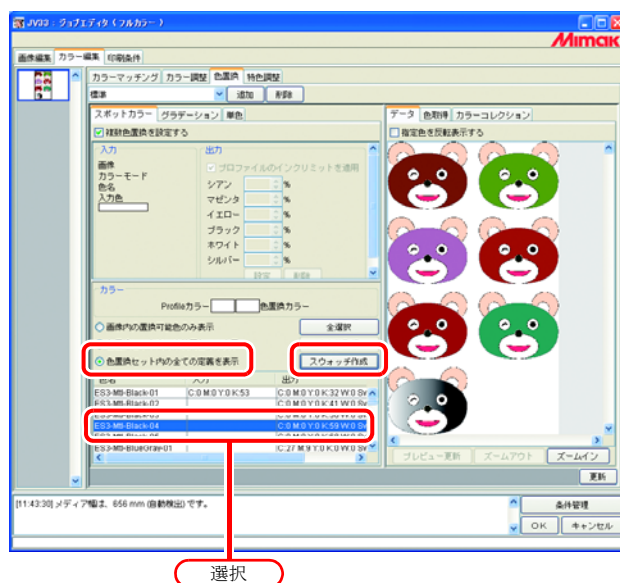
P75「ジョブの編集」を参照して“ジョブエディタ”を表示させてください。

3 [カラー編集]メニューをクリックし、[色置換]を選択します。



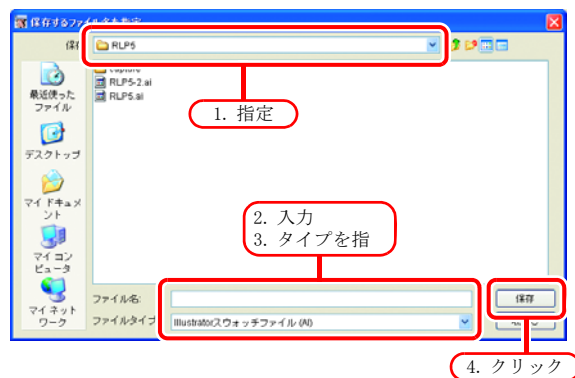
- 4 “色置換セット内の全ての定義を表示” をチェックし、スウォッチライブラリを作成する色名を選択します。
[Ctrl] キーを押しながらクリックすると、複数の色名を選択できます。
全ての色名のスウォッチライブラリを作成したい場合は、[Ctrl]+[A] キーを押してください。

- 5 **スウォッチ作成** ボタンをクリックします。
“保存するファイル名を指定” ダイアログが表示されます。



- 6 保存先を指定し、ファイル名を入力します。

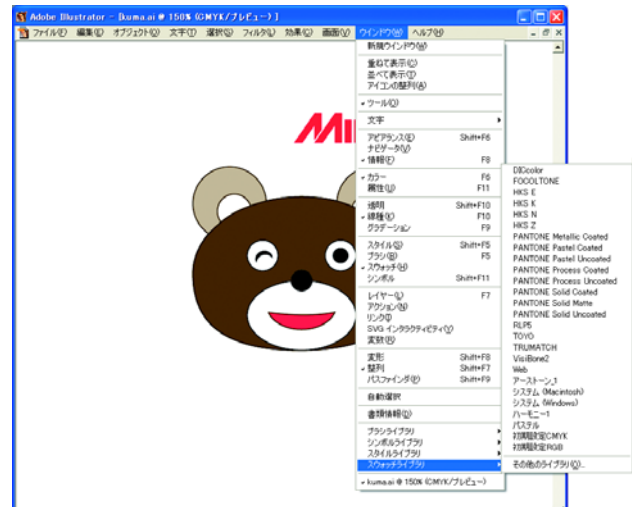
- 7 作成するスウォッチファイルのタイプを指定し、**保存** をクリックします。
スウォッチライブラリが作成されました。
作成したスウォッチライブラリは、Adobe Illustrator などのアプリケーションで読み込んでお使いになれます。



作成したスウォッチライブラリをアプリケーションで開く

Adobe Illustrator の場合

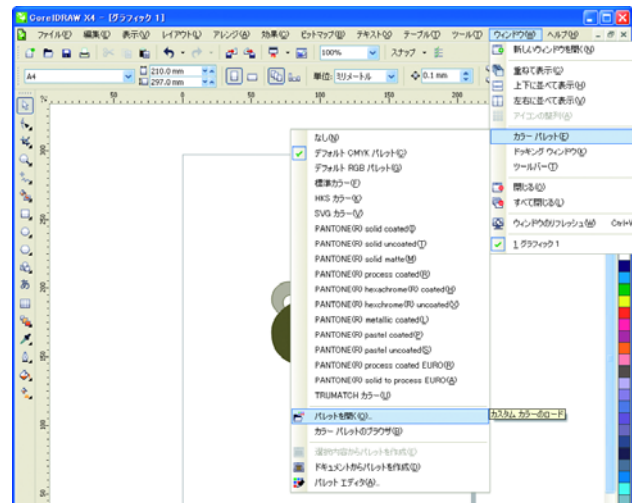
- 1 [ウィンドウ]-[スウォッチライブラリ]-[その他のライブラリ]メニューでスウォッチファイルを開きます。



- 以下のフォルダにスウォッチファイルを保存しておけば、Illustratorの[ウィンドウ]-[スウォッチライブラリ]メニューから直接スウォッチライブラリを開けます。
Illustrator インストールフォルダ¥プリセット¥スウォッチ

CorelDRAW の場合

- 1 [ウィンドウ]-[カラーパレット]-[パレットを開く]メニューでスウォッチライブラリを開きます。



重要!

CorelDRAW X4 でのスウォッチ利用の注意事項

- スウォッチ作成時のファイル名は“userinks.cpl”にしてください。
- 作成されたファイルを、以下の場所に保存してください。（元々あるファイルは、別名にするなどして保存しておくことをお勧めします。）

XP の場合

カレントドライブ ¥Documents and Settings¥ユーザー名 ¥Application Data¥Corel¥CorelDRAW Graphics Suite X4¥User Custom Data¥Palettes

Vista 以降の場合

カレントドライブ ¥Users¥ユーザー名 ¥AppData¥Roaming¥Corel¥CorelDRAW Graphics Suite X4¥User Custom Data¥Palettes

ジョブのプロパティ

“ファイル情報”、“実行結果”、“画像編集”、“カラー編集”、“印刷条件”の各設定を表示します。

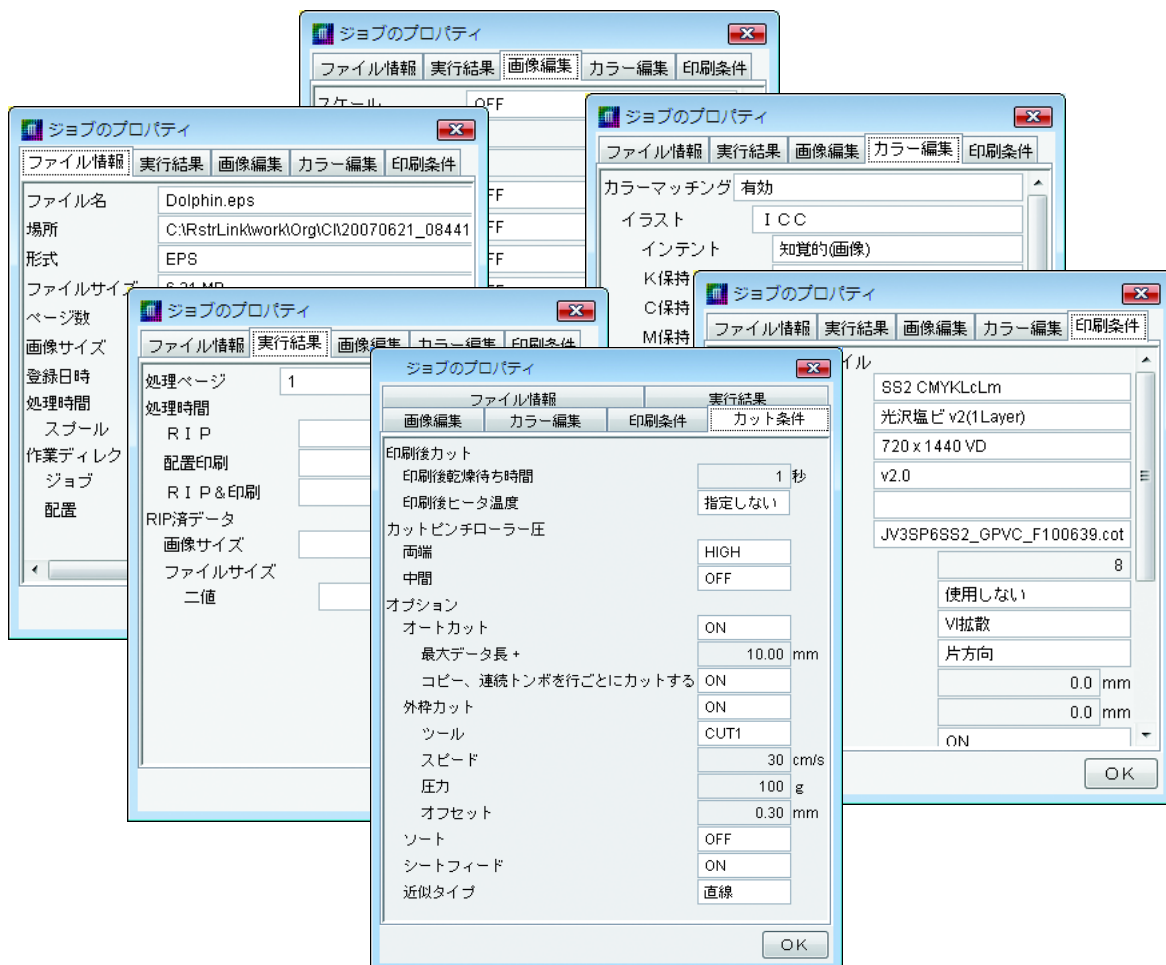
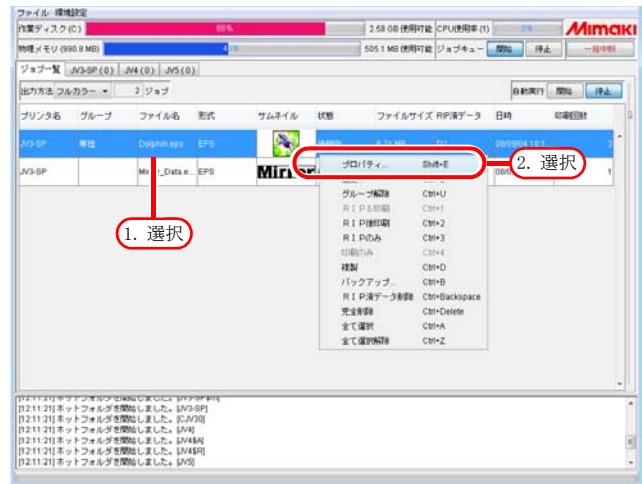
重要!

- お使いのプリンタによりプロパティの表示項目が異なります。
- 編集中のジョブはプロパティを表示できません。
- MRL ジョブは、“MRL” 情報のみ表示します。
- 実行中のジョブは、“実行結果” を表示しません。

プロパティを表示するジョブを1つ選択します。

マウスを右クリックし、ポップアップメニューから“プロパティ”を選択します。

または **Shift** キーを押しながら **E** キーを押します。



オプション設定

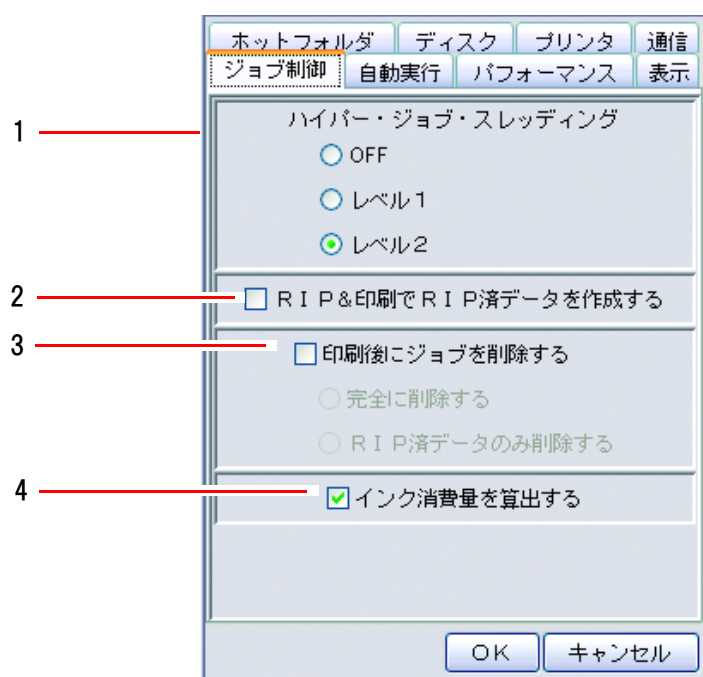
RasterLinkPro5 の動作環境に関するオプションを“オプション”ウィンドウで設定できます。

“オプション”ウィンドウを表示するには、RasterLinkPro5 の [環境設定] メニューから“オプション”を選択します。

重要! ジョブの編集中は“オプション”ウィンドウを開くことはできません。

[ジョブ制御]メニュー

設定変更は、変更後にジョブを実行した時点から有効です。



1. ハイパー・ジョブ・スレッディング

1 台のプリンタに対して複数のジョブを連続実行する際の、ジョブの並列処理方法を指定します。変更した設定は、変更後に実行したジョブから有効になります。

OFF: ジョブを並列実行しません。
スプール処理と RIP 処理と印刷処理が順次に実行されます。

レベル 1: RIP 処理と印刷処理を並列実行します。
最大で 2 つのジョブが並列実行されます。
RIP& 印刷の場合は並列実行されません。

レベル 2: スプール処理と RIP 処理と印刷処理を並列実行します。
最大で 3 つのジョブが並列実行されます。
RIP& 印刷する場合は、RIP& 印刷中にスプール処理が並列実行できます。
“レベル 2”を指定する場合は下記性能の PC を推奨します。
CPU: マルチコアの intel Core2 プロセッサ
RAM: 1GB 以上

ジョブを連続実行するとき、印刷中にプリンタのヘッドが停止してしまう場合は、ハイパー・ジョブ・スレディングのレベルを下げてください。

2. RIP & 印刷で RIP 済データを作成する

チェックすると“RIP & 印刷”時に RIP ファイルを作成します。
“RIP & 印刷”後、“印刷のみ”を実行できるようになります。
チェックしていない場合 RIP ファイルを作成せず、“ジョブ一覧”の“RIP 済データ”欄は“なし”のままになります。
ただしコピーを 2 部以上設定しているジョブを“RIP & 印刷”する場合、無条件に RIP ファイルを作成します。

3. 印刷後にジョブを削除する

印刷後またはカット後にジョブを削除する設定をします。
実行を中断した場合、またはエラーが発生した場合は削除しません。
完全に削除する: ジョブ一覧からジョブを完全に削除します。
RIP 済データのみ削除する: RIP 済データがある場合、RIP 済データのみを削除し、ジョブはジョブ一覧に残します。

4. インク消費量を算出する

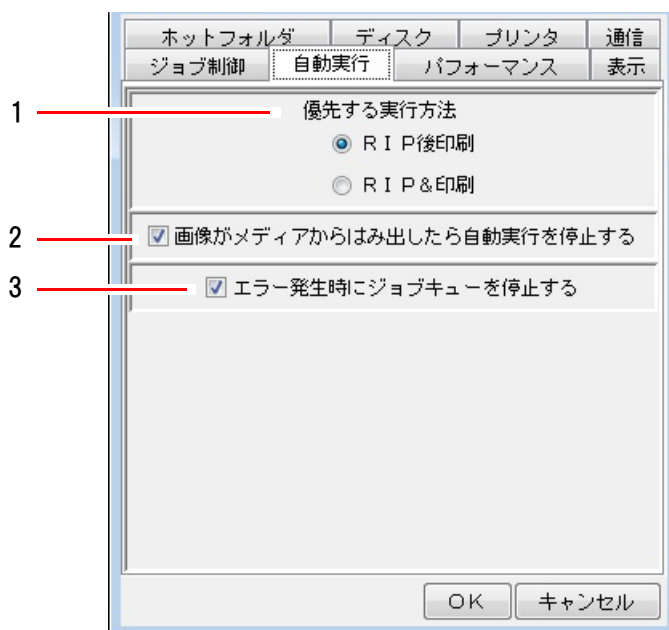
チェックすると“RIP のみ”、“RIP & 印刷”、“RIP 後印刷”時にインクの消費量を計算により求めます。計算したインク消費量は、ジョブのプロパティの“実行結果”(P.116)に表示されます。

重要! 表示される値はおおよその値です。参考値としてください。

[印刷条件] - [印刷モード] で [重ね塗り] を 2 回以上に指定した場合、指定回数倍した値を表示します。

[印刷回数] を 2 回以上に指定しても、1 回分として計算します。

[自動実行]メニュー



1. 優先する実行方法

メイン画面の自動実行で開始ボタンが選択されている場合の、優先するジョブの実行方法を指定します。

ジョブの種類によって、指定が適用されないジョブもあります。

ジョブの種類	実行
プリント & カットジョブ	→ 指定した実行方法を優先
カットジョブ	→ 指定した実行方法を優先
プリントジョブ	→ 指定した実行方法を優先
APP 分版ジョブ	→ RIP 後印刷固定
RIP 分版ジョブ	→ RIP 後印刷固定
MRL ジョブ	→ 印刷のみ固定

2. 画像がメディアからはみ出したら自動実行を停止する

チェックすると、RIP 後画像サイズがメディア幅を超える時、また、FineCut、SimpleStudio からのコピー部数指定が不適切でメディアに収まらない時に、そのジョブの実行を中止します。

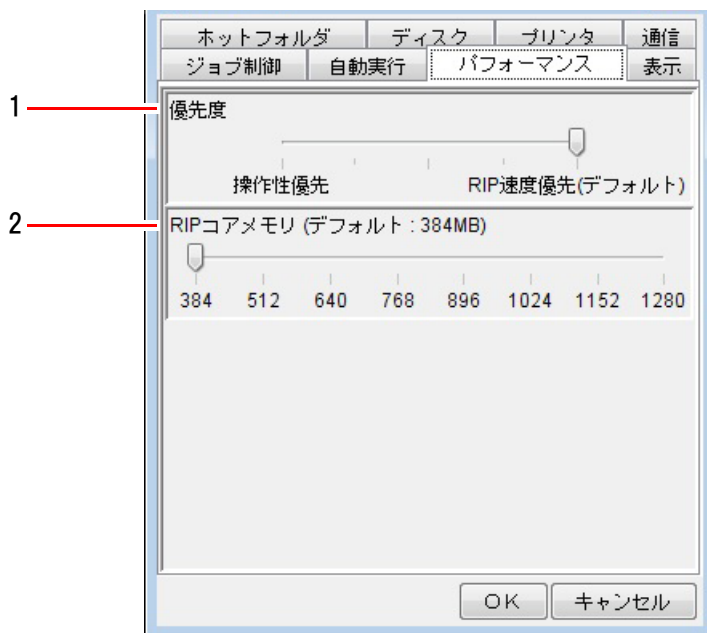
チェックしない場合、メディアからはみ出しても無視してジョブ実行します。

初期値は、ON (チェックされています) です。

3. エラー発生時にジョブキューを停止する

ジョブの自動実行中にエラーが起きた場合、ジョブキューを停止するかを指定します。

[パフォーマンス]メニュー



1. 優先度

RIP中にジョブの編集操作を行う際、PCの性能が低いと、ジョブエディタ画面が開くまでに時間を要する場合があります。このような場合、[優先度]を[操作性優先]側に調整することで、操作レスポンスが向上します。ただしRIP速度は低下するため、特に問題がない場合はデフォルトの設定のままご使用ください。

ハイパースレッディングまたはマルチコアプロセッサ搭載の高性能なPCをご使用の場合、あまり効果がありません。

2. RIP コアメモリ

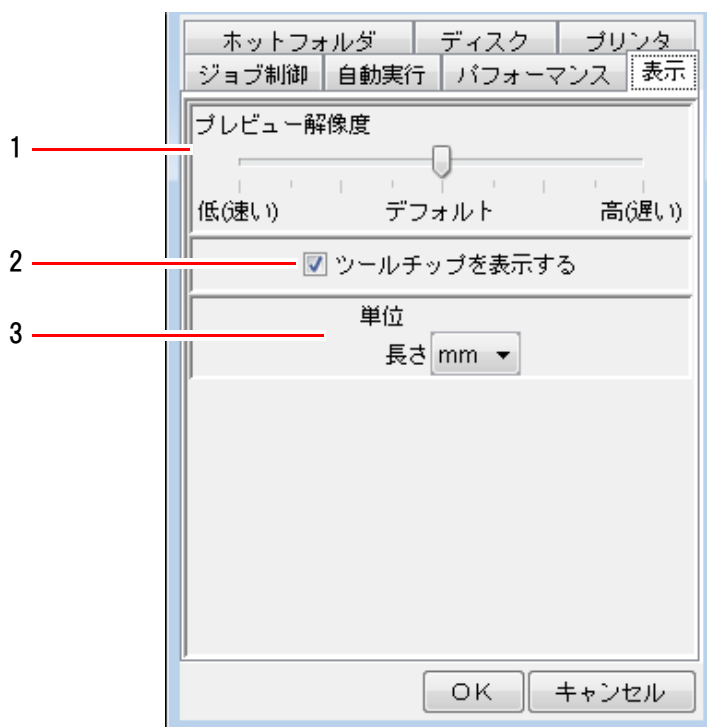
RIPコアに割り当てるメモリ量を指定できます。

ベクターグラデーション*をRIPする場合、この値を大きくすることで、処理速度が向上する場合があります。

* RasterLinkPro5では、Illustratorのグラデーションがラスターとして扱われる場合とベクターとして扱われる場合があります。

どちらとして扱われているかは色置換プレビューで確認できます。

[表示]メニュー



1. プレビュー解像度

スプール時に作成するプレビュー画像の解像度を指定します。

通常は“デフォルト”の状態にしてください。

色置換設定などで、画像を拡大して細部を確認したい場合、解像度を高くしてください。

ただし解像度を高くすると多くのメモリを消費するため、特に複数のジョブを同時に編集する場合に、以下の現象が発生します。

- ジョブエディタ画面が開かなくなる
- ジョブエディタ画面での編集操作が遅くなる
- ジョブエディタ画面で編集操作中に、「メモリが極端に不足しているため操作を続行できません」メッセージが表示され、RasterLinkPro5 が終了する

解像度を高くした場合は、同時に複数のジョブを編集しないようにしてください。

解像度の設定変更は、次回スプール時から有効になります。

2. ツールチップを表示する

チェックすると、マウスポインタ位置の項目に対して簡単な説明を表示します。

設定変更は、設定変更後に新しく表示した画面から有効になります。

すでに表示している画面は、一度閉じてから再表示すると有効になります。

3. 単位

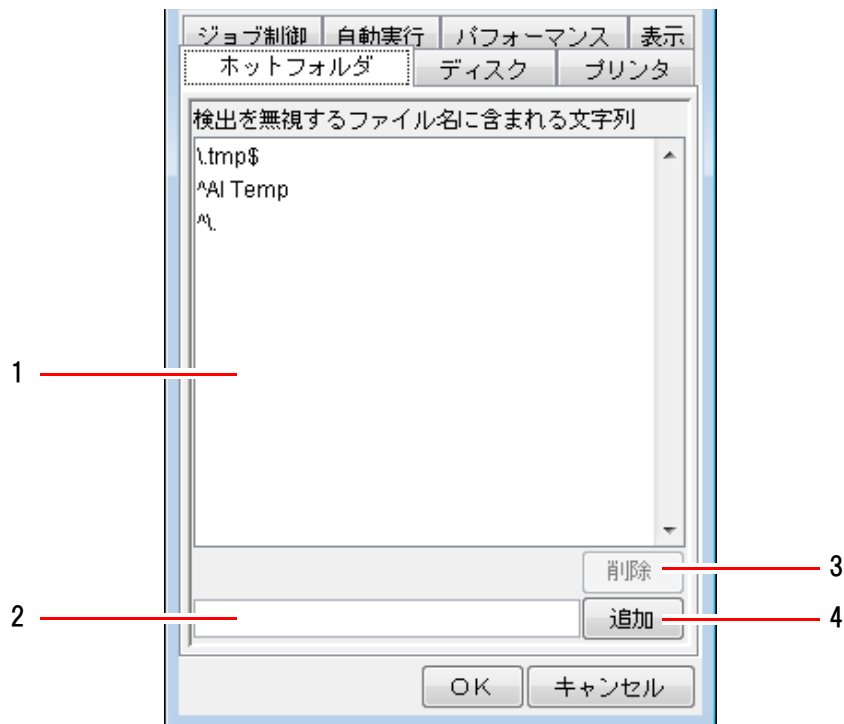
長さ (mm、inch) の単位を設定します。

設定変更は、設定変更後に新しく表示した画面から有効になります。

すでに表示している画面は、一度閉じてから再表示すると有効になります。

[ホットフォルダ]メニュー

アプリケーションソフトウェアからデータをホットフォルダに直接保存する場合、ホットフォルダに保存する過程で、中間ファイルを作成する場合があります。ホットフォルダの検出で中間ファイルを誤って検出しないように、無視するファイル名の一部を登録します。設定の変更は、変更直後から有効になります。



1. 検出を無視するファイル名に含まれる文字列

無視するファイル名に含まれる文字列のリストを表示します。

2. 検出を無視するファイル名に含まれる文字列入力ボックス

検出を無視するファイル名に含まれる文字列を入力します。
正規表現で指定可能です。

3. 削除 ボタン

検出を無視するファイル名に含まれる文字列を削除します。

4. 追加 ボタン

検出を無視するファイル名に含まれる文字列を追加します。



- デフォルト設定値の説明

デフォルトで3種類の文字列が設定されています。以下にデフォルトの各設定値について説明します。

`\. tmp $`

“tmp”で終わるファイル名を無視します。

Windows版 Illustrator で [保存] または [別名で保存] を実行すると、拡張子が “tmp” の一時ファイルが作成されます。

`^ AI Temp`

“AI Temp”で始まるファイル名を無視します。

Macintosh版 Illustrator で [保存] または [別名で保存] を実行すると、“AI Temp”で始まる一時ファイルが作成されます。

`^ \.`

“.”で始まるファイル名を無視します。

Macintoshクライアントからリソースフォーク付きのファイルをコピーすると、“.”で始まるファイルが作成される場合があります。

- 正規表現について

デフォルトの文字列は正規表現を使用しています。以下にデフォルト文字列で使用している正規表現のメタ文字について簡単に説明します。

`^` (キャレット)

文字列の先頭を意味します。

`$` (ドル記号)

文字列の終端を意味します。

`\` (逆スラッシュ)

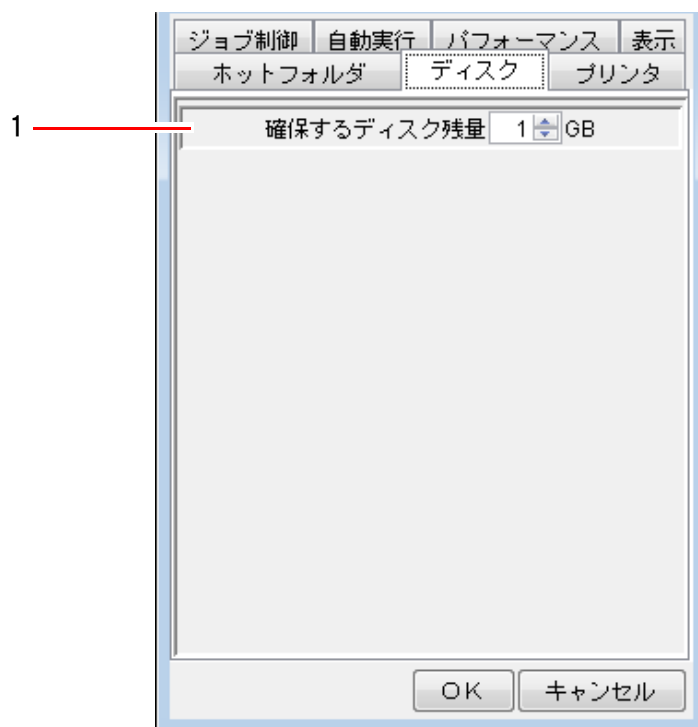
メタ文字をエスケープします。

“.”は正規表現では任意の1文字を表すメタ文字として扱われるため、“.”を文字として指定したい場合は“.”の前に“\”を付けて“\.”とします。

RasterLinkPro5では、“¥” (エンサイン) を“\”で表します。

“\”を入力する場合は、キーボード上の“¥”をタイプしてください。

[ディスク]メニュー



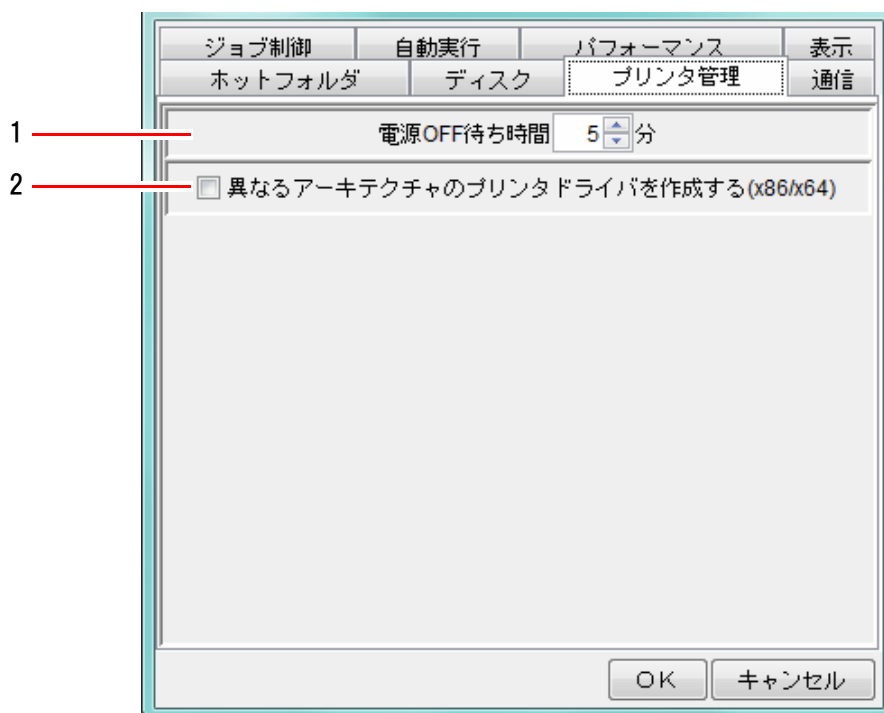
1. 確保するディスク残量

作業フォルダを設定しているハードディスクの、最低空き容量を設定します。

ハードディスクの空き容量が設定値以下になった場合、ジョブのスプール、実行、複製、リストアができません。

ジョブの実行中に空き容量が設定値を下回った場合、実行を中断します。

[プリンタ管理]メニュー



1. 電源 OFF 待ち時間

実行中ジョブ画面でプリンタの「電源 OFF」を指定した場合の、印刷完了からプリンタの電源が切れるまでの時間を指定します。

2. 異なるアーキテクチャのプリンタドライバを作成する (x86/x64)

ON にすると、プリンタドライバ作成時に、RasterLinkPro5 がインストールされている PC の OS と異なるアーキテクチャ (x86/x64) のドライバを作成します。

重要!

本機能は、RIP-PC とアーキテクチャ (x86/ x64) が異なる Windows OS のクライアント PC からドライバ出力したい場合に ON にしてください。

RIP-PC の OS によっては、本機能を ON に設定するとプリンタドライバ作成時にエラーが発生し、プリンタドライバを作成できないことがあります。

エラーが発生した場合、本機能を OFF に設定してください。

ただし、本機能を OFF に設定した後にプリンタドライバを作成すると、RIP-PC とアーキテクチャ (x86/ x64) が異なる Windows OS のクライアント PC からはドライバ出力できません。ホットフォルダ出力を使用してください。

エラーメッセージの対処方法

エラーメッセージ

エラーメッセージ	表示条件	対処方法
RasterLinkPro5 の実行権限がありません。 Administrators グループのユーザでログインしなおしてから RasterLinkPro5 を起動してください。 または、“ローカル セキュリティ ポリシー” の設定を確認してください。	起動時 (Administrators グループに属さないユーザで Windows2000 にログインした場合)	Administrators グループのユーザでログインし直してから RasterLinkPro5 を起動してください。 または、インストールガイドにしたがって、ローカルセキュリティポリシーの設定を行ってください。
プリンタが登録されていません。 [プリンタ管理] メニューでプリンタを登録してください。	起動時	プリンタが 1 台も登録されていない状態で RasterLinkPro5 を実行しました。プリンタ管理でプリンタを追加してから RasterLinkPro5 を実行してください。
他のプログラムがプロファイル データベースを使用しているため、RasterLinkPro5 を起動できません。	起動時 (RasterLinkPro5)	Profile Manager を終了してから RasterLinkPro5 を起動してください。
他のプログラムがプロファイル データベースを使用しているため、Profile Manager を起動できません。	起動時 (Profile Manager)	RasterLinkPro5 を終了してから Profile Manager を起動してください。
複数のプリンタで [マシン メイショウ] が重複しています。 プリンタの操作パネルで、ユニークな [マシン メイショウ] を設定してください。	起動時 プリンタ管理	USB2.0 で 2 台以上のプリンタを接続する場合は、それぞれのプリンタの操作パネルでユニークな [マシン メイショウ] を設定してください。
接続可能プリンタが指定されていません。	プリンタ管理	プリンタ設定画面で IEEE1394 を選択する場合は、プリンタと接続して接続可能プリンタリストから対象のプリンタを選択してください。
そのプリンタ名は既に使用されています。	プリンタ管理	プリンタ名にはユニークな名称を指定する必要があります。登録済プリンタのプリンタ名と重複しない名称を入力してください。
その接続可能プリンタは既に他のプリンタ (プリンタ名) に関連付けられています。	プリンタ管理	プリンタ管理では 1 台の接続可能プリンタに対して、複数のプリンタに関連付けることはできません。
1 枚の IEEE1394 I/F カードに、複数のプリンタが接続されています。 IEEE1394 I/F カード 1 枚につき、プリンタは 1 台だけ接続してください。	起動時 プリンタ管理	IEEE1394 インターフェイスカードに複数のコネクタが装備されていても、1 枚のインターフェイスカードに接続可能なプリンタは 1 台だけです。複数台のプリンタを接続する場合は、IEEE1394 インターフェイスカードを追加実装してください。

エラーメッセージ	表示条件	対処方法
* 台のプリンタが IEEE1394 ポートに接続されています。IEEE1394 ポートに複数のプリンタを接続する場合は、Mimaki 1394 Driver を Ver2.00 以上にバージョンアップしてください。	起動時 プリンタ管理	2 台以上のプリンタを接続する場合は、Mimaki1394Driver の Ver2.00 以上が必要です。古いバージョンのドライバをアンインストールしてから、新バージョンをインストールしてください。ドライバの再インストール方法は、ドライバ CD 内の InstallGuide を参照してください。
プロファイル情報を取得できません。	起動時	プロファイル管理ファイルが壊れている可能性があります。RasterLinkPro5 を再インストールしてください。
フルカラーデバイスプロファイルを最低 1 つはインストールしてください。	起動時 プリンタ管理	RasterLinkPro5 の実行には、選択した機種用のフルカラーデバイスプロファイルが最低 1 つは必要です。提供されているデバイスプロファイルを ProfileManager でインストールしてください。
版下分版用デバイスプロファイルを最低 1 つはインストールしてください。	起動時 プリンタ管理	RasterLinkPro5 の実行には、選択した機種が版下分版に対応している場合、版下分版用のデバイスプロファイルが最低 1 つは必要です。提供されているデバイスプロファイルを Profile Manager でインストールしてください。
RGB 入力プロファイルを最低 1 つはインストールしてください。	起動時	RasterLinkPro5 の実行には、RGB 入力プロファイルが最低 1 つは必要です。提供されている RGB 入力プロファイルを ProfileManager でインストールしてください。
CMYK 入力プロファイルを最低 1 つはインストールしてください。	起動時	RasterLinkPro5 の実行には、CMYK 入力プロファイルが最低 1 つは必要です。提供されている CMYK 入力プロファイルを ProfileManager でインストールしてください。
デフォルト条件を生成できません。	プリンタ管理	アンインストールが完全に行われていない状態で RasterLinkPro5 を再インストールした可能性があります。前回のインストールディレクトリが削除されていることを確認してから RasterLinkPro5 を再インストールしてください。
デフォルトプリンタを生成できません。	プリンタ管理	アンインストールが完全に行われていない状態で RasterLinkPro5 を再インストールした可能性があります。[コントロールパネル] - [プリンタと FAX] で、RasterLinkPro5 が作成したプリンタが削除されていることを確認してから RasterLinkPro5 を再インストールしてください。
実行モジュールをロードできませんでした。[実行モジュール名]	起動時	RasterLinkPro5 を再インストールしてください。

エラーメッセージ	表示条件	対処方法
Mistral RIP Service を停止できませんでした。	Raster Link Pro と RasterLinkPro5 シリーズが入っている環境で、RasterLinkPro5 シリーズを起動した場合	Raster Link Pro と競合して問題が発生している可能性があります。Raster Link Pro をアンインストールしてください。
Mistral RIP Service を開始できませんでした。		
ファイルを移動できません。	クライアント PC からホットフォルダにファイルコピー時	クライアント PC がコピーしたファイルを解放しないために発生する現象です。クライアント PC を再起動してください。
これ以上ジョブを登録できません。不要なジョブを削除してください。	ジョブ読み込み時 ジョブ複製時 ジョブリストア時	ジョブ数が登録可能な最大値に達しています。不要なジョブを削除してください。
ファイル形式を判断できません。	ジョブ読み込み時	RasterLinkPro5 がサポートしていないファイル形式です。対応するアプリケーションで読み込んでから、[印刷] メニューよりプリンタ出力してください。MRL 形式のファイルは、“出力方法” を“MRL” で読み込んでください。
画像サイズ情報を取得できません。	ジョブ読み込み時	PreRIP で画像のサイズ情報を取得できませんでした。アプリケーションで読み込んでから、[印刷] メニューよりプリンタ出力してください。
PostScript エラー	読み込み時 RIP 時	PostScript 処理中にエラーが発生しました。処理できないデータが入力された可能性があります。
メモリが極端に不足しているため操作を続行できません。直ちに RasterLinkPro5 を終了してください。	ジョブ操作時 ジョブ編集時	一旦 RasterLinkPro5 を終了してから再実行してください。 1 ジョブずつジョブエディタでジョブを開いてください。 プレビュー解像度を下げてジョブを再スプールしてください。
入力ファイル [“ファイル名”] が削除されています。削除されたファイルを元の場所に戻してください。不要なジョブであれば削除してください。	ジョブ実行時 ジョブ編集時	[ファイルを作業ディレクトリにコピー] にチェックを入れずに読み込んだジョブに対して、読み込み後に元のファイルが移動または削除されています。移動または削除したファイルを元の場所に戻してください。
メディア幅が 0 のためレイアウトプレビューは表示できません。メインウィンドウの [プリンタ名] - [メディア] でメディア幅を確認してください。	ジョブ編集時	プリンタと接続後、プリンタステータス画面で 最新の情報に更新 ボタンをクリックしてメディア幅情報を再取得してください。または、プリンタステータス画面の [メディア] で [メディア幅] に [手入力] を指定し、数値を入力してください。
ジョブが作図範囲外に配置されています。	ジョブ編集時	ジョブが作図領域内に含まれるように配置してください。

エラーメッセージ	表示条件	対処方法
メディア長の上限を超えて配置されています。	ジョブ編集時	ジョブ編集時は、メディアサイズに収まるようにジョブを配置してください。 タイリング編集時は、メディアサイズにタイルが収まるように印刷タイルを個別指定して印刷してください。この操作を複数回実行してください。
ジョブが作図範囲からはみだして配置されています。そのまま配置しますか？	ジョブ編集時	はみだした状態で問題なければ「はい」を選択してください。ジョブのはみだしが問題のある場合は「いいえ」を選択し、ジョブを作図領域からはみださないように配置してください。
選択されたカラー調整セット [“ファイル名”] がありません。 [“ジョブ名”]	ジョブ編集時 条件管理でジョブから 条件取得時	カラー調整ファイルを作り直すか、存在するファイルを選択してください。
選択されたデバイス調整セット [“ファイル名”] がありません。	ジョブ編集時 条件管理でジョブから 条件取得時	デバイス調整ファイルを作り直すか、存在するファイルを選択してください。
選択された色置換セット [“ファイル名”] がありません。 [“ジョブ名”]	ジョブ編集時 条件管理でジョブから 条件取得時	色置換セットを作り直すか、存在する色置換セットを選択してください。
選択された RGB 入力プロファイルがありません。 [“プロファイル名”]	ジョブ編集時	カラー編集の RGB 入力プロファイルを存在するプロファイルから選択してください。
選択された CMYK 入力プロファイルがありません。 [“プロファイル名”]	ジョブ編集時	カラー編集の CMYK 入力プロファイルを存在するプロファイルから選択してください。
選択されたデバイスプロファイルがありません。	ジョブ編集時	印刷条件のデバイスプロファイルを存在するプロファイルから選択してください。
ジョブがロール間に配置されています。	ジョブ編集時	左右のロール間にジョブが重ならないように配置してください。
重ね代より小さいタイルが存在します。	ジョブ編集時	重ね代より小さいタイルを無くすか、重ね代長を小さく設定してください。
タイル [“作図タイル番号1”] , [“作図タイル番号2”] が重なって配置されています。	ジョブ編集時	タイルが重なり合わないよう配置してください。
タイル [“作図タイル番号”] が作図範囲外に配置されています。	ジョブ編集時	タイルが作図領域内に含まれるよう配置してください。
タイル [“作図タイル番号”] が作図範囲からはみだして配置されています。そのまま配置しますか？	ジョブ編集時	はみだした状態で問題なければ「はい」を選択してください。タイルのはみだしが問題のある場合は「いいえ」を選択し、タイルを作図領域からはみださないよう配置してください。
印刷タイルが指定されていません。	ジョブ編集時	印刷タイルを指定してください。

エラーメッセージ	表示条件	対処方法
サイズの小さすぎるタイルが存在します。	ジョブ編集時	タイルの分割間隔を調整して 25.4mm (1inch) より小さいタイルがなくなるように設定してください。
上端のタイルが小さすぎます。	ジョブ編集時	上端のタイルが 25.4mm(1inch) 以上になるように分割間隔を調整してください。
左端のタイルが小さすぎます。	ジョブ編集時	左端のタイルが 25.4mm(1inch) 以上になるように分割間隔を調整してください。
タイルの幅方向サイズが 0 です。	ジョブ編集時	幅方向のタイル分割間隔を確認してください。
タイルの送り方向サイズが 0 です。	ジョブ編集時	送り方向のタイル分割間隔を確認してください。
タイル [“作図タイル番号”] がロール間に配置されています。	ジョブ編集時	左右のロール間にタイルが重ならないように配置してください。
タイル数が上限 (100) を超えています。	ジョブ編集時	ワークサイズやタイル分割サイズを見直して分割後のタイル数が上限を超えないように設定してください。
これ以上色置換設定できません。	ジョブ編集時	色置換設定数が色置換セットに登録可能な最大数に達しています。不要な色置換設定を削除するか、新規に色置換セットを作成して登録してください。
スキャナ情報を取得できませんでした。	ジョブ編集時	スキャナが接続されていない状態でスキャナ測色画面を開きました。スキャナを接続した状態でジョブエディタを起動してください。
スキャナが接続されていません。	ジョブ編集時	スキャナが接続されていない状態でスキャナ測色画面を開きました。スキャナを接続した状態でジョブエディタを起動してください。
スキャン中にエラーが発生しました。	ジョブ編集時	スキャン中にスキャナでエラーが発生しました。スキャナの問題を解決し、再度 スキャン開始 ボタンをクリックしてください。
スキャナー原稿サイズが取得できませんでした。	ジョブ編集時	スキャン画像のサイズ取得中にエラーが発生しました。スキャナに原稿がセットされていることを確認し、再度 スキャン開始 ボタンをクリックしてください。
スキャナー画像が取得できませんでした。	ジョブ編集時	スキャン画像取得中にエラーが発生しました。 スキャン開始 ボタン、 ズームイン ボタン、 ズームアウト ボタンをクリックしてください。
指定した場所の測色値 (Lab) が取得できませんでした。	ジョブ編集時	再度、指定場所をクリックしてください。取得できない場合は、ズームイン、ズームアウト後に指定場所をクリックするか、 スキャン開始 ボタンをクリックして再度スキャンしてから指定場所をクリックしてください。

エラーメッセージ	表示条件	対処方法
プロファイルフォーマットエラー プロファイルパラメータ無し	RIP 時	ジョブに設定されているプロファイルが壊れている可能性があります。ProfileManager で該当するプロファイルを削除後、再インストールしてください。
プロファイル DB パラメータ無し	RIP 時	プロファイル管理ファイルが壊れている可能性があります。RasterLinkPro5 を再インストールしてください。
指定されたカラー調整セット [“ファイル名”] がありません。 [カラー調整] 設定を変更してください。	ジョブ実行時	ジョブに関連付けられたカラー調整セットが削除されているため印刷できません。ジョブエディタの [カラー編集] - [カラー調整] でカラー調整セットを選択し直してください。
指定されたデバイス調整セット [“ファイル名”] がありません。 [デバイス調整] 設定を変更してください。	ジョブ実行時	ジョブに関連付けられたデバイス調整セットが削除されているため印刷できません。ジョブエディタの [印刷条件] - [デバイス調整] でデバイス調整セットを選択し直してください。
指定された色置換セット [“ファイル名”] がありません。[色置換] 設定を変更してください。	ジョブ実行時	ジョブに関連付けられた色置換セットが削除されているため印刷できません。ジョブエディタの [カラー編集] - [色置換] で色置換セットを選択し直してください。
指定された特色調整セット [“ファイル名”] がありません。 [特色調整] 設定を変更してください。	ジョブ実行時	ジョブに関連付けられた特色調整セットが削除されているため印刷できません。ジョブエディタの [カラー編集] - [特色調整] で特色調整セットを選択し直してください。
指定された RGB 入力プロファイルがありません。プロファイルをインストールするか、[カラーマッチング] 設定を変更してください。	ジョブ実行時	選択されている RGB 入力プロファイルがアンインストールされています。アンインストールした RGB 入力プロファイルを再インストールするか、ジョブエディタの [カラー編集] - [カラーマッチング] で RGB 入力プロファイルを選択し直してください。
指定された CMYK 入力プロファイルがありません。プロファイルをインストールするか、[カラーマッチング] 設定を変更してください。	ジョブ実行時	選択されている CMYK 入力プロファイルがアンインストールされています。アンインストールした CMYK 入力プロファイルを再インストールするか、ジョブエディタの [カラー編集] - [カラーマッチング] で CMYK 入力プロファイルを選択し直してください。
指定されたデバイスプロファイルがありません。プロファイルをインストールするか、[デバイスプロファイル] 設定を変更してください。	ジョブ実行時	選択されているデバイスプロファイルがアンインストールされています。アンインストールしたデバイスプロファイルを再インストールするか、ジョブエディタの [印刷条件] でデバイスプロファイルを選択し直してください。
カラーカーブファイルエラー	ジョブ実行時	ジョブに設定されているカラー調整ファイルが壊れています。カラー調整ファイルを作成し直してください。
カラーカーブファイル無し	ジョブ実行時	ジョブに設定されているカラー調整ファイルがありません。カラー調整ファイルを選択し直してください。

エラーメッセージ	表示条件	対処方法
カラーカーブパラメータ無し	ジョブ実行時	ジョブに設定されているカラー調整ファイルが壊れています。カラー調整ファイルを作成し直してください。
RIP メモリ取得エラー	ジョブ実行時	メモリが少ないため実行できません。他のアプリケーションを実行中の場合は、実行を中止し、RasterLinkPro5 を再起動してください。
RIP ファイルアクセスエラー	ジョブ実行時	RIPに必要なファイルの読み込み、書き出しができません。エラーメッセージにエラーが発生したファイルの名前が表示されるので、販売店または弊社営業所までご連絡ください。
RIP ファイルが存在しない	ジョブ実行時	RIPに必要なファイルがありません。エラーメッセージにエラーが発生したファイルの名前が表示されるので、販売店または弊社営業所までご連絡ください。
RIP プロファイルから情報が取得できない	ジョブ実行時	プロファイルが正しく読めませんでした。プロファイルと RasterLinkPro5 のバージョンが合っていない可能性があります。RasterLinkPro5 をバージョンアップしてください。
RIP ICM ファイルが作成できない	ジョブ実行時	ICM プロファイルが作成できませんでした。HDD の問題か、プロファイルが壊れている可能性があります。
RIP プロファイルがサポートしていないカラーセットを指定した	ジョブ実行時	プロファイルのカラーセットをサポートしていません。プロファイルと RasterLinkPro5 のバージョンが合っていない可能性があります。RasterLinkPro5 をバージョンアップしてください。
RIP サポートしていないカラーマッチング方法が指定された	ジョブ実行時	サポートしていないカラーマッチング方式が指定されました。エラーメッセージの詳細を販売店または弊社営業所までご連絡ください。
RIP カラーマッチング初期化エラー	ジョブ実行時	カラーマッチングが正しく設定できませんでした。プロファイルが壊れている可能性があります。
RIP カラーマッチングエラー	ジョブ実行時	カラーマッチングできないデータがあります。エラーメッセージの詳細を販売店または弊社営業所までご連絡ください。
RIP カラーマッチングパラメータエラー	ジョブ実行時	サポートしていないカラーマッチングのパラメータが指定されました。エラーメッセージの詳細を販売店または弊社営業所までご連絡ください。
カット対象ジョブが作図範囲からはみだして配置されています。	ジョブ実行時 ジョブ編集時	カット対象ジョブが作図領域内に含まれるように配置してください。
カット初期化エラー	ジョブ実行時	カットデータ作成に必要な情報が不足しています。エラーメッセージにエラーが発生したファイルの名前が表示されるので、販売店または弊社営業所までご連絡ください。

エラーメッセージ	表示条件	対処方法
カットデータ作成エラー	ジョブ実行時	カットデータ作成が出来ませんでした。エラーメッセージにエラーが発生したファイルの名前が表示されるので、販売店または弊社営業までご連絡ください。
カットデータファイル作成エラー	ジョブ実行時	カットデータファイルの書き出しが出来ませんでした。エラーメッセージにエラーが発生したファイルの名前が表示されるので、販売店または弊社営業までご連絡ください。
カットデータ出力エラー	ジョブ実行時	カットデータファイルの読み出しが出来ませんでした。または、出力ポートにアクセス出来ませんでした。エラーメッセージにエラーが発生したファイルの名前が表示されるので、販売店または弊社営業までご連絡ください。
Hi-Speed モードで接続できません。 PC の USB ポート、使用している USB ケーブルや USB ハブが USB 2.0 規格に準拠しているか確認してください。	出力ポートに USB 2.0 を設定	RasterLinkPro5 は、USB1.1 規格ではプリンタと接続できません。
USB2 : プリンタで [データクリア] 機能が実行されました。	印刷時	印刷中にプリンタの操作パネルでデータクリアを実行すると表示します。 通信状態が不良の場合、勝手にデータクリアされることがあります。この場合、以下の方法を実施してください。 (1) 3m 以下の USB ケーブルを使用する (2) USB ハブを使用する (3) USB のインターフェースを増設して使用する
1394 : プリンタが見つかりません	出力ポートに IEEE1394 を設定	PC とプリンタが IEEE1394 で接続されていません。プリンタの電源を入れた後、PC とプリンタを IEEE1394 ケーブルで接続してください。
		PC とプリンタは IEEE1394 で接続されているが、プリンタの電源が入っていません。プリンタの電源を入れてください。
		PC に Mimaki IEEE1394 ドライバをインストールしていません。ドライバをインストールしてください。
		プリンタ管理でプリンタを登録したときのプリンタと異なるプリンタに接続しています。プリンタ管理のプリンタの設定変更で接続可能プリンタを選択し直してください。
1394 : 出力ポートが他で使用されています	出力ポートに IEEE1394 を設定	出力が終了するまでお待ちください。
1394 : ポートが開けません	出力ポートに IEEE1394 を設定	このエラーが頻繁に起きる場合、PC とプリンタを再起動してください。再起動後に同じエラーが頻繁に出る場合、Mimaki1394 ドライバを再インストールください。

エラーメッセージ	表示条件	対処方法
1394 : ステータス情報が取得できません	出力ポートに IEEE1394 を設定	このエラーを表示すると、プリンタステータスの表示がクリアされます。 最新の情報に更新 ボタンをクリックし、ステータス情報を取得してください。
FILE : 指定されたファイルが開けません	出力ポートに File を設定	指定したファイルを開くことができません。違うファイルを指定してください。
作業ドライブ(ドライブ名)の空き容量が設定値(確保するディスク残量)を下回っています。 不要なジョブまたは RIP 済データを削除してください。	ファイルオープン時 ホットフォルダファイル検出時 ジョブ実行開始時 スプール処理中 ジョブ実行中	作業フォルダに指定したドライブの空き容量が、[環境設定] - [オプション] - [ディスク] - [確保するディスク残量] で指定した値を下回りました。不要なジョブを [完全削除] するか、不要な RIP 済データを [RIP 済データ削除] して、ドライブの空き容量を確保してください。
ジョブをコピーできませんでした。	作業フォルダ変更	作業フォルダを指定したドライブの容量が不足している可能性があります。十分な空き容量のあるドライブを指定してください。
ホットフォルダの設定を変更している間は RasterLink を終了できません。	メインウィンドウクローズ	条件管理で、ホットフォルダの [作成]、[削除] を実行している最中は RasterLink を終了できません。[作成] または [削除] が完了するまでお待ちください。強制終了すると問題が発生します。
ホットフォルダの設定を変更している間はジョブエディタを終了できません。	ジョブエディタクローズ	条件管理で、ホットフォルダの [作成]、[削除] を実行している最中はジョブエディタをクローズできません。[作成] または [削除] が完了するまでお待ちください。強制終了すると問題が発生します。
ホットフォルダ内に削除できないファイルがあります。	条件管理で “ホットフォルダ” を削除 機種変更時	ホットフォルダの中に削除できないファイルが存在するため、ホットフォルダを削除できません。PC MACLAN 経由で、Macintosh から Apple Share 接続している場合は、共有ボリュームをアンマウントしてください。
データベースに機種情報が定義されていません。	プリンタステータス画面表示	プロファイル管理ファイルが壊れている可能性があります。RasterLinkPro5 を再インストールしてください。
データベースにインクセット情報が定義されていません。	プリンタステータス画面表示	プロファイル管理ファイルが壊れている可能性があります。RasterLinkPro5 を再インストールしてください。
ホットフォルダを作成できません。	条件管理でホットフォルダ作成時 プリンタ管理	RasterLinkPro5 をインストールしたユーザと異なるユーザで Windows にログインしている可能性があります。RasterLinkPro5 をインストールしたユーザで再ログインしてください。
ホットフォルダを削除できません。	条件管理でホットフォルダ削除時 プリンタ管理	RasterLinkPro5 をインストールしたユーザと異なるユーザで Windows にログインしている可能性があります。RasterLinkPro5 をインストールしたユーザで再ログインしてください。

エラーメッセージ	表示条件	対処方法
ホットフォルダを共有できません。	条件管理でホットフォルダ作成時 プリンタ管理	RasterLinkPro5 をインストールしたユーザと異なるユーザで Windows にログインしている可能性があります。RasterLinkPro5 をインストールしたユーザで再ログインしてください。 同一の共有名称で共有されているフォルダまたはプリンタがないか確認してください。
ホットフォルダの共有を解除できません。	条件管理でホットフォルダ削除時 プリンタ管理 アンインストール時	RasterLinkPro5 をインストールしたユーザと異なるユーザで Windows にログインしている可能性があります。RasterLinkPro5 をインストールしたユーザで再ログインしてください。 アンインストール時に本エラーが発生した場合は、再起動後にインストールフォルダを削除すれば問題ありません。
PPD フォルダを共有できません。	プリンタ管理	RasterLinkPro5 をインストールしたユーザと異なるユーザで Windows にログインしている可能性があります。RasterLinkPro5 をインストールしたユーザで再ログインしてください。 同一の共有名称で共有されているフォルダまたはプリンタがないか確認してください。
PPD フォルダの共有を解除できません。	アンインストール時	再起動後にインストールフォルダを削除すれば問題ありません。
ポートモニタ情報を取得できません。	起動時 条件管理でホットフォルダ作成、削除時 プリンタ管理 アンインストール時	他社製プリンタが影響している可能性があります。[コントロールパネル] - [プリンタと FAX] で、他社製プリンタを削除してください。 アンインストール時に本エラーが発生した場合は、再起動後に [コントロールパネル] - [プリンタと FAX] で、RasterLinkPro5 が作成したプリンタを削除してください。
ポート情報を取得できません。	起動時 条件管理でホットフォルダ作成、削除時 プリンタ管理 アンインストール時	他社製プリンタが影響している可能性があります。[コントロールパネル] - [プリンタと FAX] で、他社製プリンタを削除してください。 アンインストール時に本エラーが発生した場合は、再起動後に [コントロールパネル] - [プリンタと FAX] で、RasterLinkPro5 が作成したプリンタを削除してください。
ポートモニタを作成できません。	プリンタ管理	他社製プリンタが影響している可能性があります。[コントロールパネル] - [プリンタと FAX] で、他社製プリンタを削除してください。
ポートモニタを削除できません。	プリンタ管理 アンインストール時	他社製プリンタが影響している可能性があります。[コントロールパネル] - [プリンタと FAX] で、他社製プリンタを削除してください。 アンインストール時に本エラーが発生した場合は、再起動後に [コントロールパネル] - [プリンタと FAX] で、RasterLinkPro5 が作成したプリンタを削除してください。

エラーメッセージ	表示条件	対処方法
ポートを作成できません。	条件管理でホットフォルダ作成時 プリンタ管理	他社製プリンタが影響している可能性があります。[コントロールパネル] - [プリンタと FAX] で、他社製プリンタを削除してください。
ポートを削除できません。	条件管理でホットフォルダ削除時 プリンタ管理 アンインストール時	他社製プリンタが影響している可能性があります。[コントロールパネル] - [プリンタと FAX] で、他社製プリンタを削除してください。 アンインストール時に本エラーが発生した場合は、再起動後に [コントロールパネル] - [プリンタと FAX] で、RasterLinkPro5 が作成したプリンタを削除してください。
プリンタドライバ情報を取得できません。	起動時 条件管理でホットフォルダ作成, 削除時 プリンタ管理 アンインストール時	他社製プリンタが影響している可能性があります。[コントロールパネル] - [プリンタと FAX] で、他社製プリンタを削除してください。 アンインストール時に本エラーが発生した場合は、再起動後に [コントロールパネル] - [プリンタと FAX] で、RasterLinkPro5 が作成したプリンタを削除してください。
プリンタドライバを作成できません。	条件管理でホットフォルダ作成時 プリンタ管理	他社製プリンタが影響している可能性があります。[コントロールパネル] - [プリンタと FAX] で、他社製プリンタを削除してください。
プリンタドライバを削除できません。	条件管理でホットフォルダ削除時 プリンタ管理 アンインストール時	他社製プリンタが影響している可能性があります。[コントロールパネル] - [プリンタと FAX] で、他社製プリンタを削除してください。 アンインストール時に本エラーが発生した場合は、再起動後に [コントロールパネル] - [プリンタと FAX] で、RasterLinkPro5 が作成したプリンタを削除してください。
プリンタ情報を取得できません。	起動時 条件管理でホットフォルダ作成, 削除時 プリンタ管理 アンインストール時	他社製プリンタが影響している可能性があります。[コントロールパネル] - [プリンタと FAX] で、他社製プリンタを削除してください。 アンインストール時に本エラーが発生した場合は、再起動後に [コントロールパネル] - [プリンタと FAX] で、RasterLinkPro5 が作成したプリンタを削除してください。
プリンタを作成できません。	条件管理でホットフォルダ作成時 プリンタ管理	他社製プリンタが影響している可能性があります。[コントロールパネル] - [プリンタと FAX] で、他社製プリンタを削除してください。
プリンタを削除できません。	条件管理でホットフォルダ削除時 プリンタ管理 アンインストール時	他社製プリンタが影響している可能性があります。[コントロールパネル] - [プリンタと FAX] で、他社製プリンタを削除してください。 アンインストール時に本エラーが発生した場合は、再起動後に [コントロールパネル] - [プリンタと FAX] で、RasterLinkPro5 が作成したプリンタを削除してください。

エラーメッセージ	表示条件	対処方法
Print Spooler を停止できませんでした。	条件管理でホットフォルダ作成, 削除時 プリンタ管理	クライアントからスプール中のジョブがないか確認してください。 他社製プリンタユーティリティが影響している可能性があります。他社製プリンタユーティリティをアンインストールしてください。
Print Spooler を開始できませんでした。	条件管理でホットフォルダ作成, 削除時 プリンタ管理	他社製プリンタユーティリティが影響している可能性があります。他社製プリンタユーティリティをアンインストールしてください。
Miramar AppleTalk File Server を停止できませんでした。	条件管理でホットフォルダ作成, 削除時 プリンタ管理	Macintosh クライアントで、ホットフォルダのマウントを解除してください。 Macintosh クライアントからホットフォルダにコピー中のファイルがないか確認してください。 現象が直らない場合は、PC MACLAN を再インストールしてください。
Miramar AppleTalk File Server を開始できませんでした。	条件管理でホットフォルダ作成, 削除時 プリンタ管理	現象が直らない場合は、PC MACLAN を再インストールしてください。
Miramar AppleTalk Print Server を停止できませんでした。	条件管理でホットフォルダ作成, 削除時 プリンタ管理	Macintosh クライアントからスプール中のジョブがないか確認してください。 現象が直らない場合は、PC MACLAN を再インストールしてください。
Miramar AppleTalk Print Server を開始できませんでした。	条件管理でホットフォルダ作成, 削除時 プリンタ管理	現象が直らない場合は、PC MACLAN を再インストールしてください。
バックアップファイルを保存できませんでした。	ジョブバックアップ時	RasterLinkPro5 がインストールされているディスクの空き容量を確保してください。
バックアップ先ドライブの容量が不足しています。** byte 必要です。	ジョブバックアップ時	バックアップファイルの保存先に指定されたドライブの空き容量が、バックアップファイルのサイズを下回っています。空き容量の多いドライブを指定するか、別なリムーバブルメディアを挿入してください。 CD-R, DVD±R メディアへは保存できません。
バックアップファイルを移動できませんでした。	ジョブバックアップ時	バックアップファイルの保存先に指定されたドライブまたはリムーバブルメディアが書込み可能状態であるか確認してください。
ファイルを圧縮できませんでした。	ジョブバックアップ時	RasterLinkPro5 がインストールされているディスクの空き容量を確保してください。
リストア可能なプリンタが登録されていません。	ジョブリストア時	バックアップしたジョブ用のプリンタが RasterLinkPro5 に登録されていません。プリンタ管理で該当するプリンタを登録してからリストアしてください。
バックアップファイル情報を取得できませんでした。	ジョブリストア時	バックアップファイルが破損しているため、このバックアップファイルからはリストアできません。

エラーメッセージ	表示条件	対処方法
バックアップファイルを解凍できませんでした。	ジョブリストア時	RasterLinkPro5 がインストールされているディスクの空き容量を確保してください。
DRV : 出力中にエラーが発生しました (W)。 I/O デバイス エラーが発生したため、要求を実行できませんでした。	印刷時	以下の方法を実施してください。 (1) 3m 以下の USB ケーブルを使用する (2) USB ハブを使用する (3) USB のインターフェースポートを増設して使用する
DRV : 出力中にエラーが発生しました (W)。 システムに接続されたデバイスが機能していません。	印刷時	
DRV : 出力中にエラーが発生しました (W)。 パラメータが間違っています。	印刷時	

RasterLinkPro5 インストール PC の セキュリティー設定の注意事項

インストール CD を PC に挿入しても、CD メニュー画面が表示されない

CD や USB メモリなどの自動実行 (Autorun) 機能が無効になっている場合、CD を挿入しても CD メニューが起動しません。この場合、以下の手順で、CD ドライブの内容を表示し、“CDMenu.exe”を直接選択し、実行してください。

- (1) エクスプローラーで CD ドライブを選択します。
- (2) CDMenu.exe を選択し、ポップアップメニューを表示させて [開く] を選択します。

重要!

RasterLinkPro5 は必ず CD メニューを使用してインストールしてください。CD メニューを使用しないで、直接 RasterLinkPro5 のインストーラーからインストールした場合、全てのファイルがインストールされず、エラーの原因となります。

ライセンス認証 / プログラムアップデート / プロファイルアップデート使用時

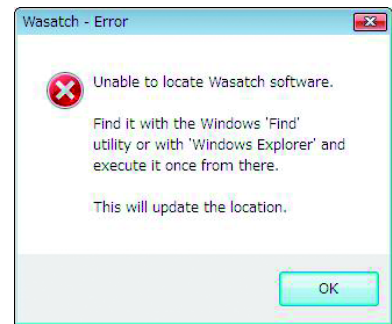
ファイアウォール機能が付いたセキュリティーソフトウェアをご使用の場合、ライセンス認証 / プログラムアップデート / プロファイルアップデートの各ツールのネットワーク (インターネット) への接続を遮断する場合があります。多くのセキュリティーソフトウェアでは、そのソフトウェアが初めてネットワークに接続しようとしたときに、接続を許可するかウィンドウを表示して確認します。上記の各ツールの初回起動時に接続を許可するか確認するウィンドウが表示された場合、許可してください。

もし、誤って不許可にしてしまった場合、お使いのセキュリティーソフトウェアのマニュアルをご覧ください。以下、以下のファイルのネットワーク接続を許可してください。

- RasterLinkPro5 のインストールドライブ \RstrLinkWeb\Bin\AppWebcLicense.exe
- RasterLinkPro5 のインストールドライブ \RstrLinkWeb\Bin\ AppWebcProgram.exe
- RasterLinkPro5 のインストールドライブ \RstrLinkWeb\Bin\ AppWebcProfile.exe

RasterLinkPro5に画像が読み込めなくなった

RasterLinkPro5に画像を読み込む際に、右のエラーメッセージウィンドウが表示され、画像が読み込めないことがあります。このエラーはセキュリティソフトによって、RasterLinkPro5の画像読み込みに必要なツールの起動が妨げられた、もしくは、ウイルスだと誤検出され削除されてしまったことが原因の場合があります。以下のことを確認してください。



- (1) セキュリティソフトウェアのマニュアルをご覧の上、起動を制限するソフトウェアの一覧に以下のファイルが存在するか確認し、存在した場合、起動を許可してください。
RasterLinkPro5のインストールフォルダ\Bin\PS3.exe
- (2) 上記ファイルが存在するか確認してください。もし、無い場合、RasterLinkPro5を再インストールしてください。再インストール後、セキュリティソフトのマニュアルをご覧の上、ホワイトリスト（ウイルスではないファイルの一覧）に上記ファイルを設定してください。

RasterLinkPro5 の画面表示に不具合が発生した場合には

まれに、RasterLinkPro5 の画面表示に以下のような不具合が発生する PC 環境があります。

- タブを切り替えると、前のタブの表示が一部残ってしまう。
- ジョブエディタのプレビュー画像が乱れる。
- RasterLinkPro5 を長時間起動させると、画面表示がおかしくなり、最悪 PC がフリーズする。

このような現象が起こった場合、以下の方法で回避することが出来る場合があります。

[回避策 1]

グラフィックボードのドライバを最新バージョンにアップデートします。

グラフィックボードドライバの更新方法については、お使いの PC もしくはグラフィックボードのマニュアルをご覧ください。

最新ドライバが提供されていない場合、次の [回避策 2] を行ってください。

[回避策 2]

WindowsXP の場合

1 デスクトップ上を右クリックし、表示されるポップアップメニューより [プロパティ] を選択します。

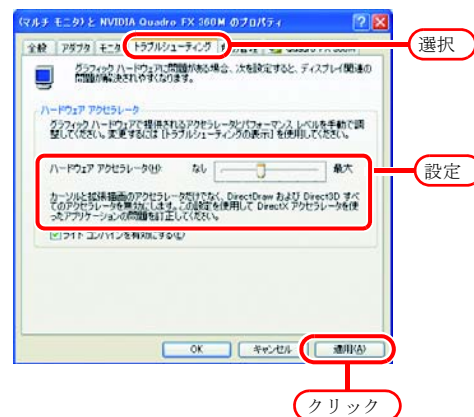
2 “画面のプロパティ” ウィンドウが表示されるので、[設定] タブをクリックします。



詳細設定 を押します。

3 表示されたウィンドウより [トラブルシューティング] タブをクリックします。

“ハードウェアアクセラレータ” を左から 2 番目に変更してください。次のメッセージが表示されます。「カーソルと拡張描画のアクセラレータだけでなく、DirectDraw および Direct3D すべてのアクセラレータを無効にします。この設定を使用して DirectX アクセラレータを使ったアプリケーションの問題を訂正してください。」



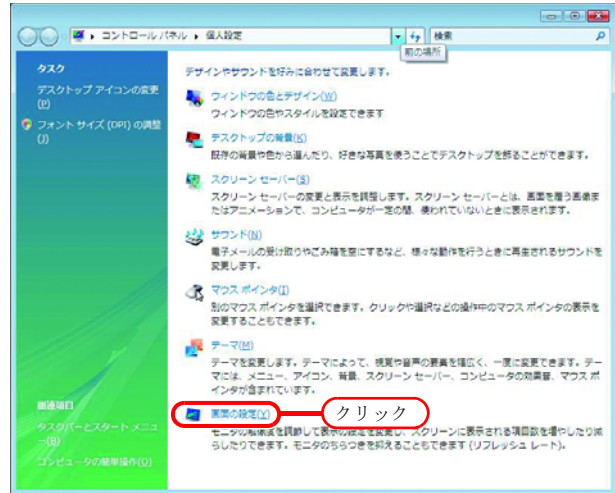
適用 を押します。

4 [画面のプロパティ] を **OK** で終了させます。

Windows Vista の場合

1 デスクトップ上を右クリックし、表示されるポップアップメニューより [個人設定] を選択します。

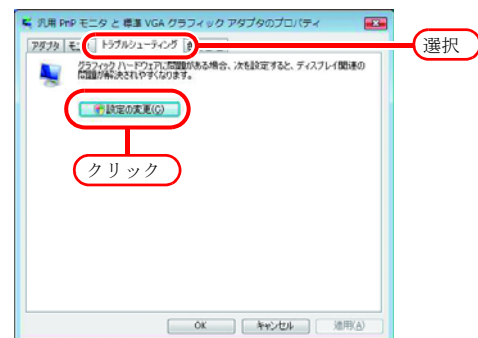
2 “個人設定” ウィンドウが表示されるので [画面の設定] をクリックします。



3 “画面の設定” ウィンドウが表示されるので、**詳細設定** をクリックします。



4 表示されたウィンドウより [トラブルシューティング] を選択します。



設定の変更 をクリックします。

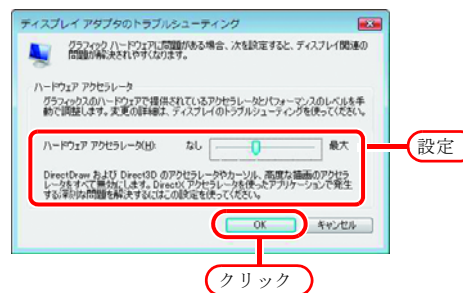
5 “ハードウェアアクセラレータ”を左から2番目に設定してください。

次のメッセージが表示されます。

「DirectDraw および Direct3D のアクセラレータやカーソル、高度な描画のアクセラレータを全て無効にします。DirectX アクセラレータを使ったアプリケーションで発生する深刻な問題を解決するにはこの設定を使ってください」

をクリックします。

6 [画面の変更]を で終了させます。



アプリケーションでの注意事項

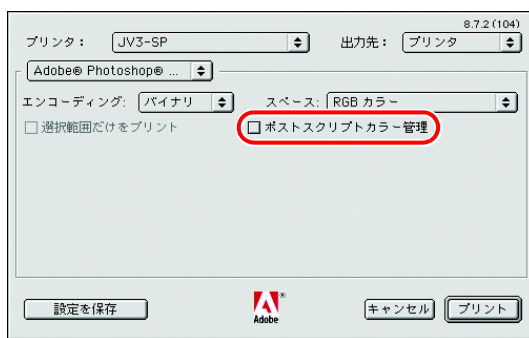
Adobe Photoshop 5.x 以前について

Adobe Photoshop 5.x 以前の eps ファイルで印刷すると、暗く印刷されることがあります。

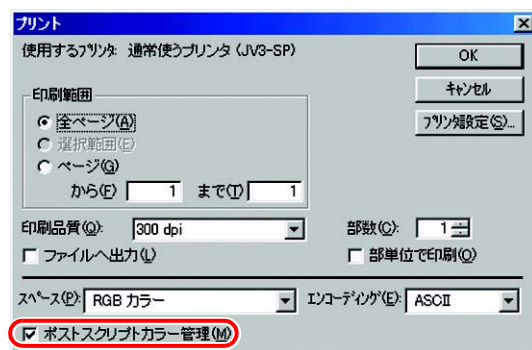
また、Adobe Photoshop 5.x 以前の eps ファイルを Adobe Illustrator に割り付けて印刷する場合にも暗く印刷されることがあります。

Adobe Photoshop のプリントダイアログにある「ポストスクリプトカラー管理」のチェックを外してください。または、Adobe Photoshop 6 で保存しなおしてください。

「ポストスクリプトカラー管理」にチェックが付いていると、RasterLinkPro5 のカラーマッチングが効かないため暗く印刷されます。



Macintosh 版



Windows 版

プロファイルを組み込んだデータについて

プロファイルが組み込まれたデータは、RasterLinkPro5 のカラーマッチングが効かないため暗く印刷されます。

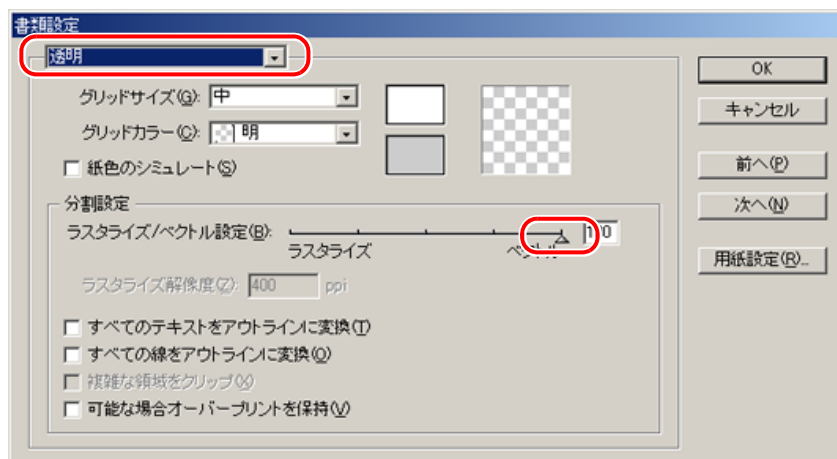
データを作成したアプリケーションソフトウェアで、組み込んだプロファイルを削除してください。

Adobe Illustrator について

透明効果とドロップシャドウ

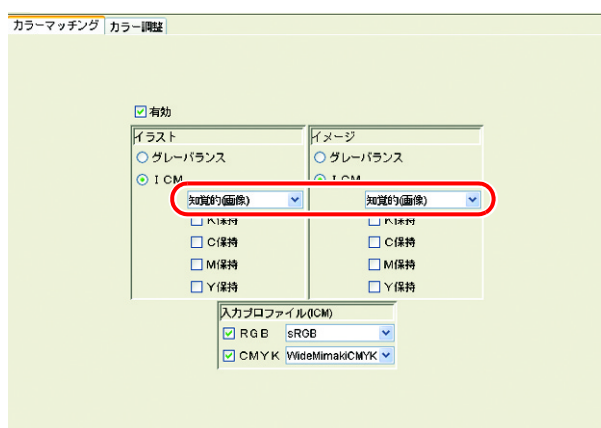
透明効果を適用した Adobe Illustrator 9 以降のデータは、RasterLinkPro5 で拡大して印刷すると、ジャギー（斜め線が階段状になる）が目立つ場合があります。

この場合、Adobe Illustrator の“書類設定”の項目を以下のように設定してください。



ドロップシャドウコマンドを使用した場合、ドロップシャドウをかけたオブジェクトの周りの色が地の色と異なります。

RasterLinkPro5 のイラストとイメージのカラーマッチング方法を同じ設定にしてください。



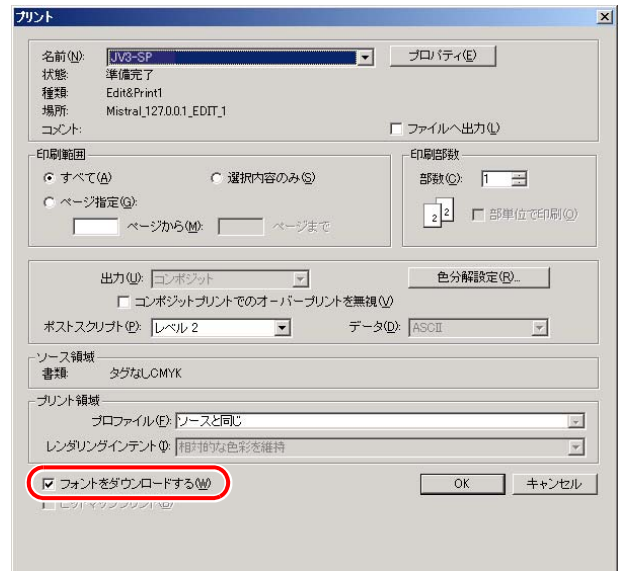
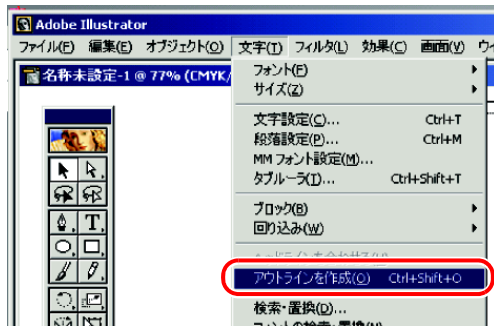
文字が作図できない

斜体になる

文字の周囲のオブジェクトの一部が作図しない

使用しているフォントをアウトライン化してください。

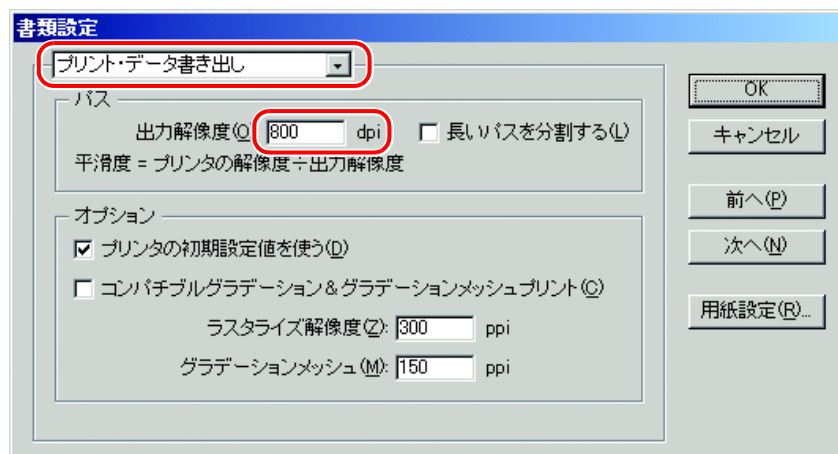
プリンタドライバーを使用して印刷する場合は、フォントをダウンロードするように設定してください。



円や文字が多角形になる

Illustrator のパスの出力解像度が低いか、RasterLinkPro5 で設定したスケール値が高すぎます。
(RasterLinkPro5 側でスケール値を 1000% に設定している等)

Illustrator のパスの出力解像度のデフォルト値は、800dpi です。Illustrator の Output Resolution を上げるか、RasterLinkPro5 側でのスケール値を下げてください。



Illustrator のパスの出力解像度を上げる場合は、次の計算式により解像度を求めてください。これより大きな値を指定しても効果はありません。

Illustrator8、9、10 の場合

出力解像度 = 選択するデバイスプロファイルの Scan 方向の解像度 × 画像編集で指定するスケール値 (%) / 100

例)

選択するデバイスプロファイルの解像度 : 720x1440dpi

画像編集でスケール値を 1000% に設定

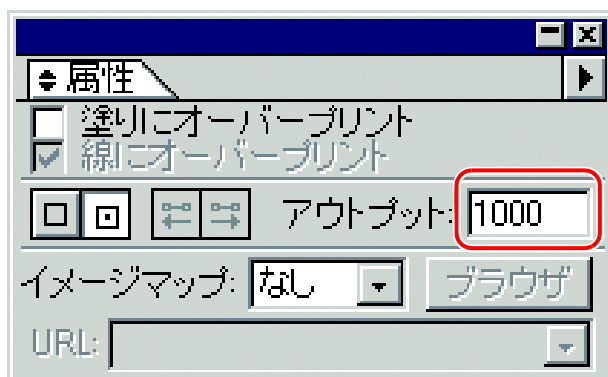
720 (Scan 方向の解像度) \times 1000 (スケール値) / $100 = 7200$

Illustrator のパスの出力解像度を 7200 に設定する。

Illustrator8 または Illustrator9 では、“書類設定 ...” 中にある“プリント・データ書き出し”の出力解像度を変更しても作成済みのオブジェクトには反映されません。

オブジェクトを選択して、“属性”パレットでアウトプットサイズを変更してください。

“属性”パレットは、“ウィンドウ”メニューから“属性を表示”を選択してください。

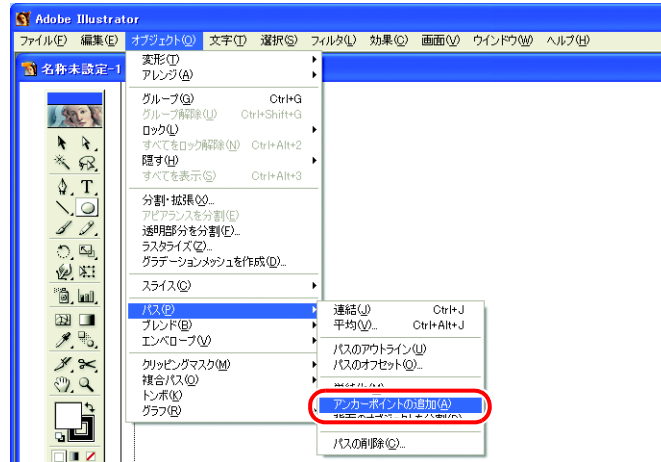


Illustrator CS、CS2、CS3 の場合

EPS ファイルに保存する場合、パスの出力解像度の設定項目がありません。Illustrator からプリンタドライバを使用して、“グラフィック”の“平滑度”を“高画質”に設定し出力してください。



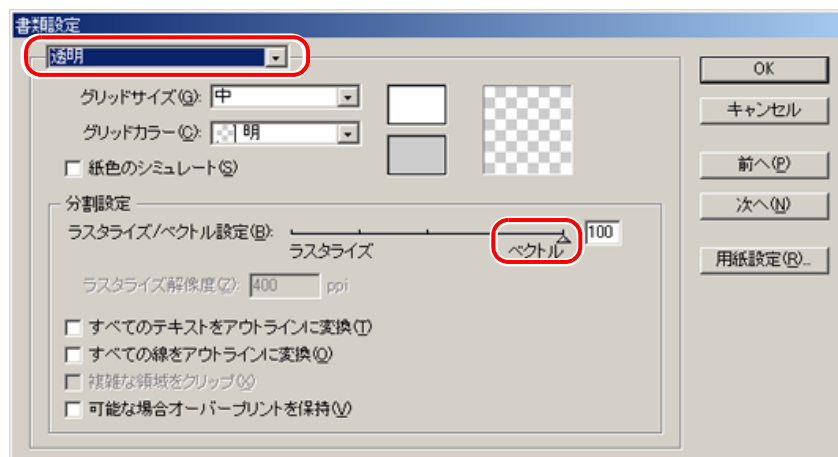
RasterLinkPro5 でスケール値を上げていない場合や、Illustrator のパスの出力解像度を上げてても円や文字が多角形に印刷される場合があります。この場合、Illustrator 上で対象オブジェクトを選択し、[アンカーポイントの追加] を 1～3 回実行して、1つの曲線分を短くして下さい。



透明効果を適用した文字などにジャギーが発生する

RasterLinkPro5 側で拡大作図すると、透明効果を適用した文字などにジャギーが発生する場合があります。

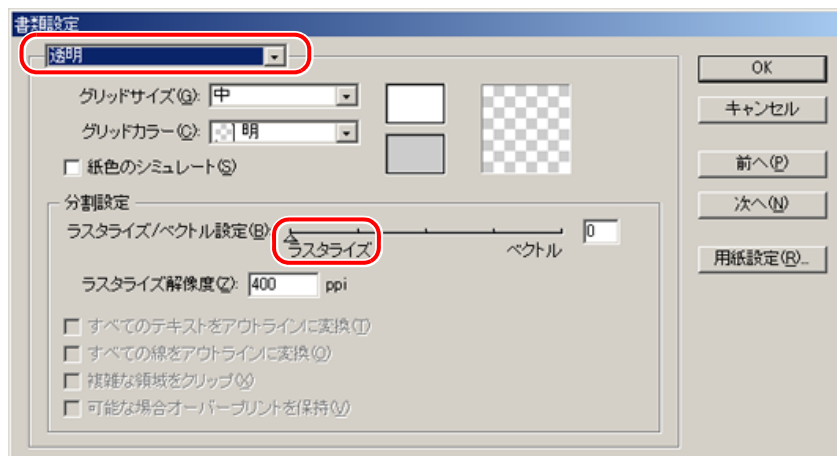
この場合、Adobe Illustrator の“書類設定”の項目を以下のように設定してください。



作図されない部分があったり、余分な線が作図される

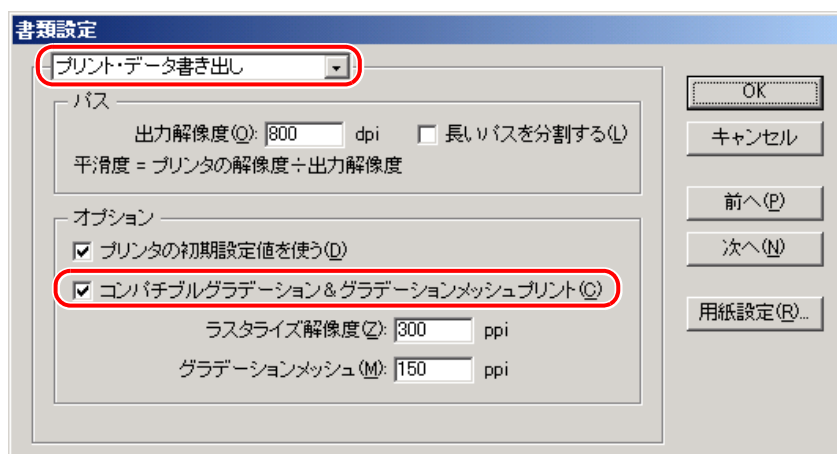
透明効果を適用した複雑なオブジェクトや写真に、作図されない矩形部分や不要な線が作図される場合があります。

この場合、Adobe Illustrator の“書類設定”の項目を以下のように設定してください。



グラデーションのトーンジャンプが目立つ、作図されない部分があったり余分な線が印刷される

Adobe Illustrator 8、9、10 の場合、Illustrator の“書類設定”の項目を以下のように設定してください。



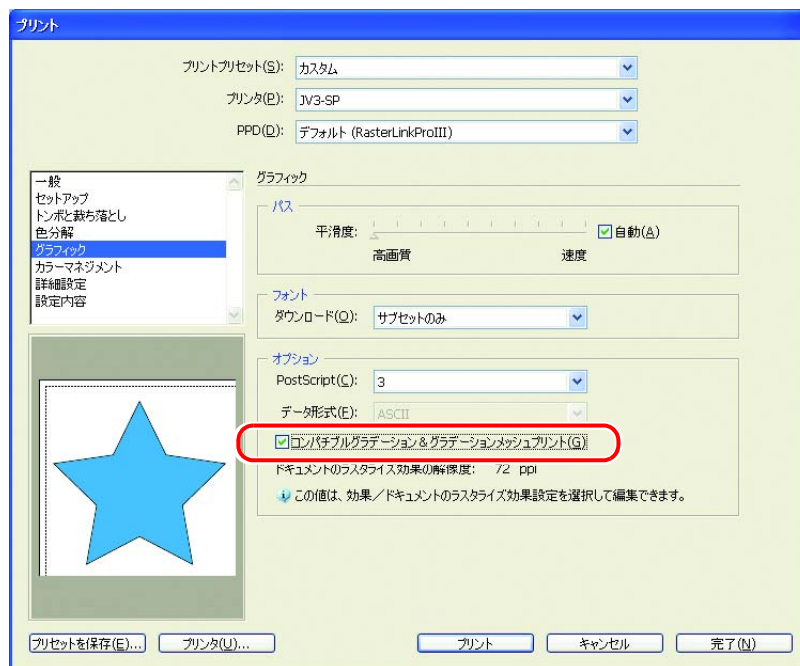
Illustrator CS、CS2、CS3 の場合（EPS 保存時）

EPS 保存時の“EPS オプション”の項目を、以下のように設定してください。



Illustrator CS、CS2、CS3 の場合（プリント時）

プリンタドライバ出力時の“プリント”の項目を、以下のように設定してください。

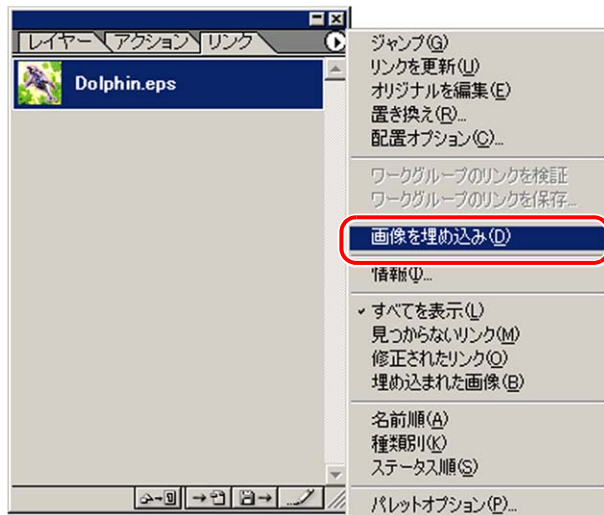
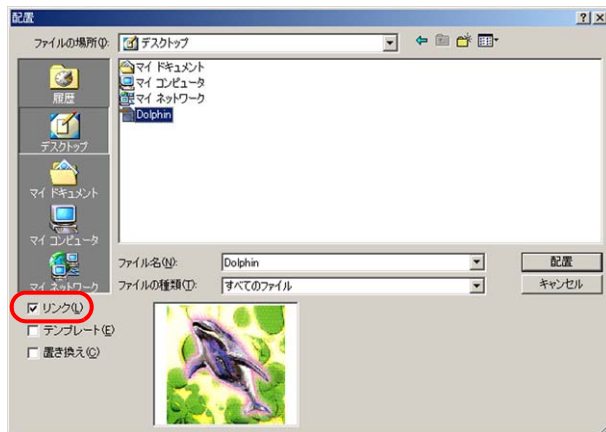
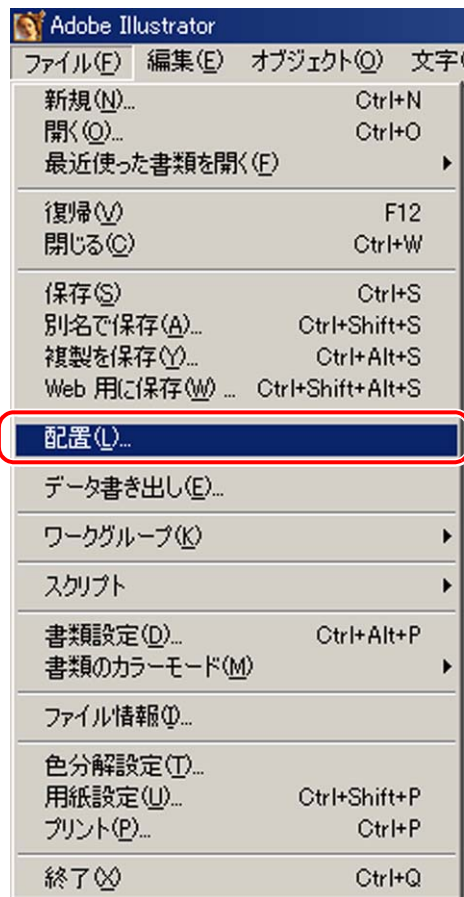


重要!

グラデーション置換をするデータの場合、“コンパチブルグラデーション&グラデーションメッシュプリント”の設定をチェックしないでください。色置換ができなくなります。

配置画像が抜ける、作図終了後に “PC MACLAN ~” 文字列が印刷される

Adobe Illustrator のデータに配置したリンク画像は、抜けて印刷される場合があります。または PC MACLAN 経由で、Macintosh からスプールした場合、作図終了後に文字が印刷される場合があります。この場合、Illustrator 上で画像を埋め込んでください。



Illustrator10 で保存した EPS ファイルの画像周辺部が欠ける

Adobe Illustrator10 で、周辺部に矩形オブジェクトを細線で配置するような場合、線が細くなったり、全く印刷されない場合があります。

これは、Illustrator10 が EPS 保存時に、画像全体のサイズを整数の Point 単位に四捨五入してクリップするために発生する現象です。

Illustrator10 では、画像周辺にダミーオブジェクトを配置して EPS 保存するか、プリンタドライバ出力で、少し大きめの PostScript カスタムページサイズを指定してください。

アプリケーション上での画像サイズと、RasterLinkPro5 上での画像サイズが異なる

アプリケーションで作成した画像のサイズと、RasterLinkPro5 のジョブエディタ上に表示される画像サイズは完全には一致しません。これにはいくつかの要因があります。

1) PostScript 言語における画像サイズの扱い方による制限

アプリケーションでは通常、mm や inch の単位でサイズ指定しますが、PostScript 言語では Point(1/72inch) 単位で数値を扱います。

画像オブジェクトのサイズは実数の Point で扱われますが、EPS ファイル保存時の全体サイズやプリンタドライバ出力時の PostScript カスタムページサイズは、最終的に整数の Point に変換されます。

このため、最大で 1Point(0.353mm) の変換誤差が生じます。

2) 線幅の影響

Illustrator の [情報] ウィンドウに表示されるオブジェクトのサイズには、線幅が含まれません。実際のオブジェクトのサイズは線幅を考慮したサイズになります。

3) 特定アプリケーションにおけるサイズ計算方法の影響

前述の Illustrator10 のように、アプリケーション独自のサイズ計算方法による影響が発生します。

以上の理由により、原寸出力する場合でも 1Point 程度の誤差が生ずるため、RasterLinkPro5 でスケールをかける場合、誤差も大きくなります (1Point の誤差がある場合、1000% 拡大すると誤差が 3.5mm になります)。

出力サイズの精度を重視する場合、誤差を小さくするために以下の点に留意してください。

- ・なるべく原寸出力する
- ・スケールをかける場合、%で指定する (mm や inch で数値指定しない)

Mac OS X での注意事項

Mac OS X からスプールする場合、以下の制限事項があります。

PDF 書類の印刷

Acrobat Reader の Ver. 5 から印刷すると、ジョブ一覧画面に表示される [ファイル名] が文字化けします。この現象は Ver. 6 で修正されています。PDF 書類は Adobe Reader Ver. 6 以降で印刷してください。

Macintosh でホットフォルダを使用する際の注意事項

PC MACLAN 経由で Macintosh クライアントからホットフォルダにファイルをコピーする場合、以下の制限事項があります。

ホットフォルダへのファイルコピーを中止すると、エラーが発生する

コピーを中断したファイルは、ほとんどの場合は無視されるか、スプールエラーになりますが、不完全な状態のファイルがスプールされ、RasterLinkPro5 が誤動作する場合があります。できるだけファイルのコピー操作を中断しないでください。

また、Mac OS X の場合、Finder 上で開いたホットフォルダに対して、マウスクリック等の操作をするだけで異常な現象が発生する場合があります。ファイルのコピー中は、Finder 上での不必要な操作をしないでください。

ホットフォルダへファイルコピー中に、ホットフォルダからファイルを強制的に削除すると、エラーが発生する

Mac OS X では、コピー中のファイルをホットフォルダから強制的に削除できますが、このような操作をすると、他のファイルも削除したり、RasterLinkPro5 が誤動作する場合があります。ホットフォルダへコピーしたファイルは削除しないでください。

ファイル名の長さ制限

AFP(AppleTalk Filing Protocol) の仕様上、ホットフォルダにコピーまたは作成できるファイル名の長さは、拡張子とピリオドを含めて 31byte までです。

例：拡張子が 3byte の場合

123456789012345678901234567.eps -- OK(31byte)

1234567890123456789012345678.eps -- NG(32byte)

ただしファイル名に全角文字が含まれる場合、Macintosh の OS のバージョンにより、仕様が異なります。

MacOS9 以下と、OS10.3、OS10.5 の場合

全角文字を 2byte 換算します。

例：拡張子が 3byte の場合

1 2 3 4 5 6 7 8 9 0 1 2 3 .eps -- OK(30byte)

1 2 3 4 5 6 7 8 9 0 1 2 3 4 .eps -- NG(32byte)

OS10.4 の場合

全角文字を 3byte 換算します。

例：拡張子が 3byte の場合

1 2 3 4 5 6 7 8 9 .eps -- OK(31byte)

1 2 3 4 5 6 7 8 9 0 .eps -- NG(34byte)

Samba 接続を使用して、ホットフォルダにコピーまたは作成できるファイル名の長さは、以下のとおりです。

半角：191 文字 (拡張子込み)

例：拡張子が 3byte の場合

1234567890 . . . 1234567.eps --OK(191byte)

1234567890 . . . 12345678.eps --NG(192byte)

全角：83 文字 (拡張子を除く)

例：拡張子が 3byte の場合

1 2 3 4 5 6 7 8 9 0 . . . 1 2 3 .eps --OK(83 文字 + 拡張子 3byte)

1 2 3 4 5 6 7 8 9 0 . . . 1 2 3 4 .eps --NG(84 文字 + 拡張子 3byte)

OSX での拡張子の表示について

OSX の場合、Finder の [環境設定] - [詳細] で、“すべてのファイル拡張子を表示”にチェックが入っていないと、拡張子が表示されない場合があります。

Macintosh でアプリケーションから印刷する場合のスプール速度改善方法

PC MACLAN プリントサーバ経由でアプリケーションから印刷する場合、スプールされたファイルは一度 PC MACLAN プリントサーバを経由してから RasterLinkPro5 のスプーラに転送されるため、スプール速度が遅くなります。

アプリケーションによっては、印刷時に出力先をホットフォルダに変更することで、スプール速度が改善されます。以下の方法をお試しください。

Mac OS 9 の場合

以下の手順で、アプリケーションからホットフォルダにスプールできます。

ただし、アプリケーションによっては問題が発生する場合があります。問題が発生した場合は“出力先:”を“プリンタ”に変更してください。

問題が発生するアプリケーション

- Illustrator 9

ファイルによってはスプールできないことがあります。

- Illustrator 10

システムエラーが発生するため、全くスプールできません。

スプール可能なアプリケーション

- Illustrator 8

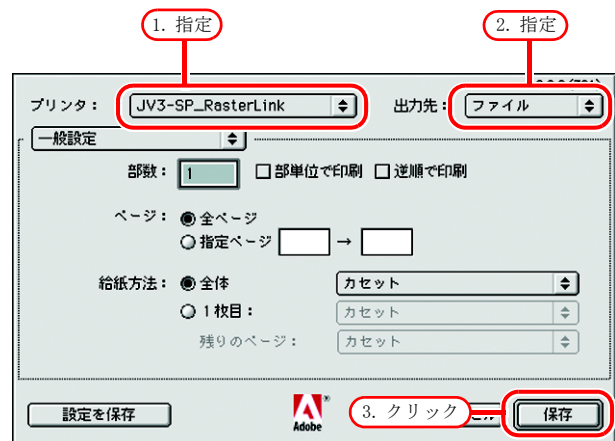
- Photoshop 5 ～ 7

1 アプリケーションから [ファイル]
- [プリント] メニューを開きます。

2 “プリンタ:”に RasterLinkPro5 用のプリンタを指定します。

“出力先:”に“ファイル”を指定します。

保存 をクリックします。



3 出力先にRasterLinkPro5のホットフォルダを指定します。

をクリックします。



Mac OS Xの場合

以下の手順で、アプリケーションからホットフォルダにスプールできます。

ただし、アプリケーションによっては問題が発生する場合があります。問題が発生した場合は、“プリント”画面で“出力オプション”の“ファイルとして保存”のチェックを外してください。

問題が発生するアプリケーション

- Illustrator 10

出力できるときと、できないときがあります。

- Illustrator CS

ファイルによっては、スプールできないことがあります。

- Photoshop 7

保存するファイル名に 2byte 文字が含まれる場合、自動的に付加される“@”以降を削除しないとスプールできません。

スプール可能なアプリケーション

- Photoshop CS

1 アプリケーションから [ファイル] - [プリント] メニューを開きます。

2 “プリンタ:” に RasterLinkPro5 用のプリンタを指定します。

“出力オプション” を選択します。

“ファイルとして保存” をチェックします。

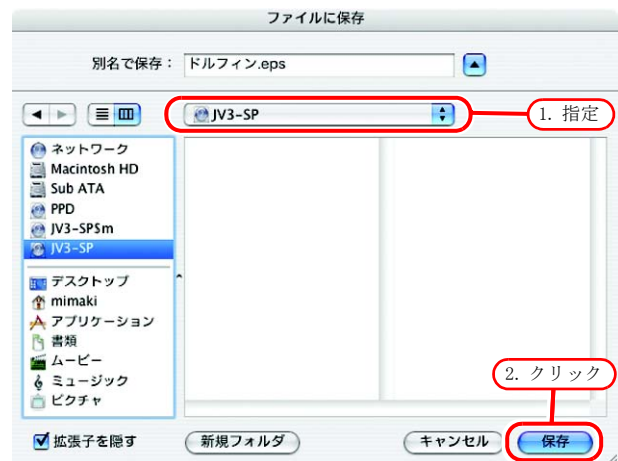
“フォーマット” に “PostScript” を指定します。

をクリックします。



3 出力先に RasterLinkPro5 のホットフォルダを指定します。

をクリックします。



索引

A

Adobe Illustrator について..... 146

C

CD メニュー画面が表示されない 139

M

Mac OS 9 157

Mac OS X 158

MRL 53, 58

MRL データの出力 87

P

PDF ファイルを作成する 105

R

RGB/CMYK カラーチャートの活用方法 100

RIP &印刷後カット 90

RIP &印刷 83

RIP &印刷で RIP ファイルを作成する 118

RIP コアメモリ 120

RIP 後印刷 84

RIP 後印刷後カット 91

RIP・出力処理を一括中断する 97

RIP・出力処理を中断する 96

RIP のみ 85

RIP 分版 52

あ

アプリケーションでの注意事項 145

アプリ分版 52

い

一括中断 97

色置換セット 111

印刷回数を指定して印刷 94

印刷後カット 92

印刷後にジョブを削除する 118

印刷のみ 86

印刷方法の概要 12

え

エラーメッセージ 126

お

オプション 117

か

確保するディスク残量 124

画像が読み込めなくなった 140

カットのみ 93

カラーチャート 98

カラーチャートの作成条件 100

カラーチャートのジョブ 104, 111

け

検出を無視するファイル名に含まれる文字列122

こ

コンバート 25

さ

作業フォルダの変更 50

し

実行中ジョブ 60

出力先プリンタの変更 81

出力する 82

出力ポートの設定変更 42

ジョブ一覧 54, 57, 58

[ジョブ制御]メニュー 117

ジョブの種類 52

ジョブの編集 75

す

スウォッチライブラリ 113

スウォッチライブラリをアプリケーションで開く 115

スプール速度 157

スプール方法 65

- せ**
 セキュリティー設定の注意事項..... 139
- た**
 単位..... 121
- ち**
 中断..... 96
- つ**
 ツールチップを表示する..... 121
- て**
 [ディスク]メニュー..... 124
 デバイスプロファイル..... 15, 18, 23, 25
 電源 OFF 待ち時間..... 125
- と**
 透明効果..... 146
 特色カラーチャート..... 106
 特色カラーチャートの作成条件..... 107
 ドラッグアンドドロップ..... 13, 68
 ドロップシャドウ..... 146
- に**
 入出力データ..... 10
 入力プロファイル..... 14, 17, 20, 28
- は**
 配置画像が抜ける..... 152
 バックアップ..... 77
 [パフォーマンス]メニュー..... 120
- ひ**
 [表示]メニュー..... 121
 [開く]メニューから画像をスプールする..... 66
- ふ**
 ファイル名の長さ制限..... 156
 複製..... 76
 プリンタドライバ..... 12, 72
 プリンタの削除..... 41
 プリンタの設定変更..... 39
 プリンタの追加..... 34
 [プリンタ]メニュー..... 125
 フルカラー..... 52
 プレビュー解像度..... 121
 プロファイルとは..... 14
 プロファイルのアンインストール..... 23, 28
 プロファイルのインストール..... 18, 20
 プロファイルマネージャー..... 14
 プロファイルマネージャーの起動..... 14
 プロファイルを組み込んだデータについて..... 145
- ほ**
 ホットフォルダ..... 13, 70
 [ホットフォルダ]メニュー..... 122
 本文中の表記について..... 4
- ま**
 マークについて..... 4
 マルチファンクション..... 52, 57
 マルチファンクションデータの出力..... 89
- め**
 メイン画面..... 54
- ゆ**
 ユーザーコメント..... 22
 優先度..... 120
- り**
 リストア..... 78

